

平成22年度

公立大学法人 島根県立大学

# 地域連携活動 報告書

年報 第3号



地域と共に あなたのそばに…



## はじめに

本「島根県立大学 地域連携推進センター活動報告書」の発行は、平成20年度版にはじまり、これで「第3号」となる。平成22年度の活動について報告・紹介している。

大学の地域連携・社会貢献活動というのは、本地域連携推進センターが直接関わる公開講座等の事項だけでなく、大学主催の公開フォーラム・講演会をはじめ学生の地域社会活動など多岐にわたっている。本年の報告書では、それらすべてをカバーすることはできないが、可能なかぎり後年に記録を残すべき事項で他のセンター活動報告書等でカバーされていなものについても拾うよう努めてみた。

本田雄一新学長の体制になってからの地域連携活動をふりかえると、本部では地域連携推進室が新設され、嘱託事務員が配置されるようになり、加えて軸となる事務職員も配置され、また三キャンパスの地域連携活動がより機構的に取り込まれるようになってきた。大学と地域との連携協定についても、浜田市、松江市について出雲市との協定が締結され活動が広がり定着してきたと思う。

ここにおいては、新学長のもとで島根県立大学憲章が新たに制定された点が、これからの大学としての地域連携推進活動にとって重要な点である。本憲章では、前文において「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現していくことを目標として明示し、第三項には「地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する」としている。地域連携推進活動は、「地域に開かれた大学」としての大切な役割のひとつ、本務のひとつとして位置づけられている。そこでは学生を主体とする地域活動の広がり・交流にひとつの視点があり、浜田キャンパスでは1年次からのフィールド学習への取り組みが2011年度から予定されている。

浜田キャンパスでは、開学10周年記念事業のひとつとして「大学の使命と地域との協働」をテーマとするフォーラムが開催され、この10年間の大学の歩みを振り返りながら、学長の基調講演、卒業生・在校生のリレートーク、地域有識者によるパネル・ディスカッションなど、印象に残るイベントも開かれた。松江キャンパスでは、県内での卒業生を対象とした再教育研修の実績をふまえつつ、公開講座「椿の道アカデミー」は相変わらず盛況であり聴講生の会員化に向けた準備も進んでいる。4年制化に向けて準備中の出雲キャンパスでは、地域健康づくりへの貢献活動をはじめ出雲市との連携協働が着実にすすめられている。

これからも大学憲章を道標としつつ、地域連携推進センターの活動を進めてゆきたいと思う。

地域連携推進センター長

井上 定彦

－ 目 次 －

1. 地域連携推進センターの組織・運営・活動

・ 地域連携推進センターの組織と運営	1
・ 地域連携推進センター運営規程	3
・ 本部会議名簿	4
・ 本部会議の開催状況	5
・ 公開講座の概要	7
・ 地域貢献プロジェクト助成事業	11
・ その他活動の概要	12
・ 3キャンパスの個性を生かしつつ、協力体制を築く	22

2. 各キャンパスの活動記録

・ 浜田キャンパス	23
・ 松江キャンパス	49
・ 出雲キャンパス	83

参考

・ 大学憲章	106
・ 自治体・学校等との協定・覚書	107



マスコットキャラクター  
「オロリン」

# 1. 地域連携推進センターの組織・運営・活動

## 地域連携推進センターの組織と運営

公立大学法人島根県立大学・地域連携推進センターは、平成19年4月、大学の法人化とともに設立された。法人化にあたっては、それぞれ設立の経緯と役割が異なる浜田キャンパス、松江キャンパス、出雲キャンパスという（いずれも島根県によって設立された）3つのキャンパスの統合も、同時に行われた。

このため、3つのキャンパス毎に地域連携推進センター運営会議を設ける（3人の副センター長が各キャンパスの運営会議を統括する）一方、3つのキャンパスを調整・統括する組織として、地域連携推進センター本部運営会議を設置している。

各キャンパスの運営会議は、副センター長ほか6～7名の委員と事務局職員により運営され、おおよそ月1回開催されている。

本部運営会議は、センター長、3名の副センター長、事務局交流研究課長の計5人が委員で、これに各キャンパスの事務局職員が加わり、おおよそ2月に1回開催されている。

地域連携推進センターは、独自の事務局組織や専任職員を持っていない。松江・出雲キャンパスは管理課が、浜田キャンパスと本部は交流研究課が、それぞれ数ある業務の一つとして所掌している。平成21年度に「地域連携推進室」が新設されたが、室員4名の内3名は他業務を兼ねており、補助業務を行う嘱託職員1名のみが専任である。

「地域連携推進室」では対外的な「総合窓口」としての役割、3キャンパス間の調整にあっている。また、全学レベルでは理事長・センター長会議という全学調整を目的とした会議において連絡調整が図られている。

**大学の地域連携**  
島根県立大学（法附）  
島根県立大学は、地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、継続的で実証的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域課題に積極的に参画することによって、地域に貢献する大学となることをめざす。

**地域連携推進センターの役割**  
大学の地域社会との連携を深め、地域活性化に貢献していくために設けられた、地域と大学をつなぐ総合窓口です。  
【主な業務】  
① 地域からの要望・相談の窓口  
② 公開講座などの生涯学習の企画  
③ 関係研究など他大学連携の調整

**地域連携推進センターの組織図**  
P.03.1 | 0802

本部事務局（交流研究課）  
センター本部事務局

浜田キャンパス  
地域連携推進センター  
センター長 田中 隆夫

松江キャンパス  
地域連携推進センター  
センター長 田中 隆夫

出雲キャンパス  
地域連携推進センター  
センター長 田中 隆夫

各キャンパスの事務局職員が加わり、おおよそ2月に1回開催されている。

**お問い合わせ先**

浜田キャンパス地域連携推進センター  
〒690-8501 島根県浜田市大森町2-1-1  
TEL: 0853-34-2211  
FAX: 0853-34-2208  
E-mail: hdm@shimane-u.ac.jp

松江キャンパス地域連携推進センター  
〒690-0044 島根県松江市中町1-1-2  
TEL: 0853-36-5535  
FAX: 0853-27-4128  
E-mail: hsm@shimane-u.ac.jp

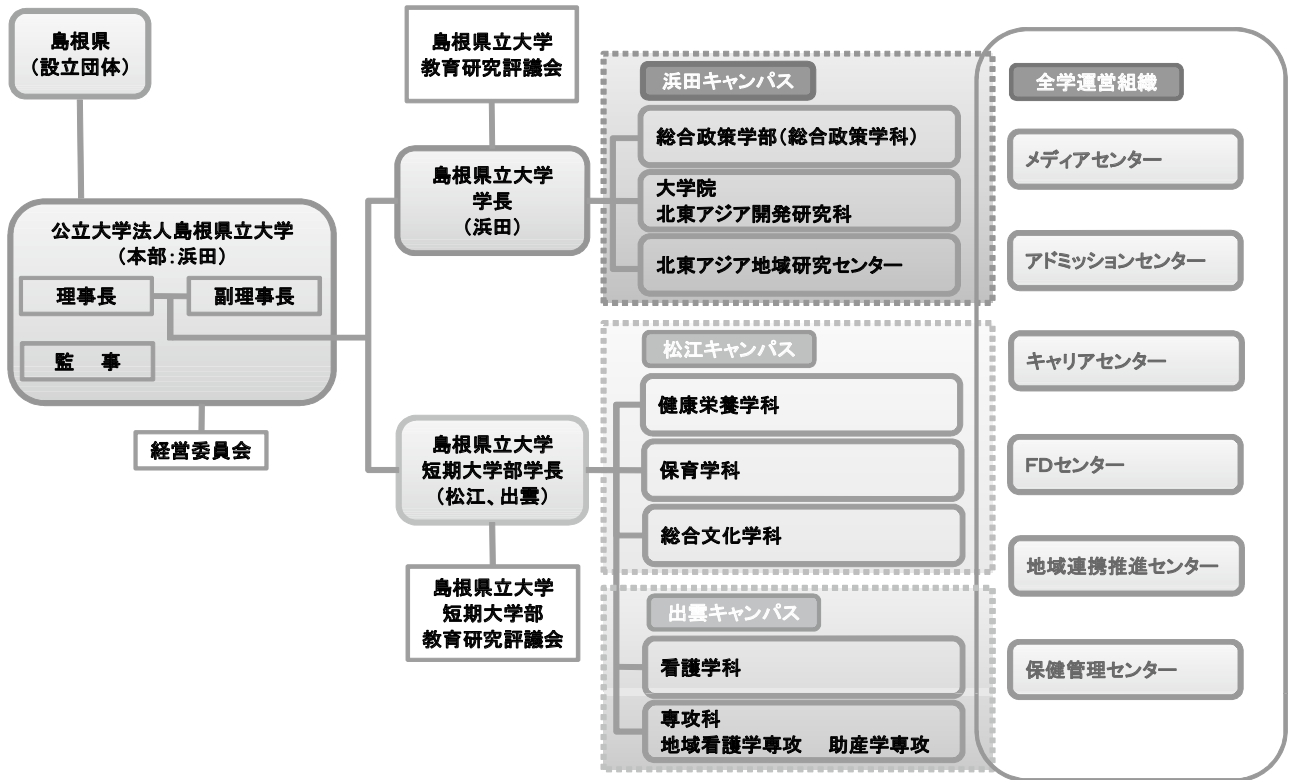
出雲キャンパス地域連携推進センター  
〒693-8522 島根県出雲市東町1-1-1  
TEL: 0853-39-0206  
FAX: 0853-39-4231  
E-mail: hdm@shimane-u.ac.jp

**ホームページアドレス**  
<http://www.shimane.ac.jp>  
ホームページID: 地域連携推進センターグループ

島根県立大学  
島根県立大学  
島根県立大学

## 【島根県立大学の組織図】

平成22.5.1 現在



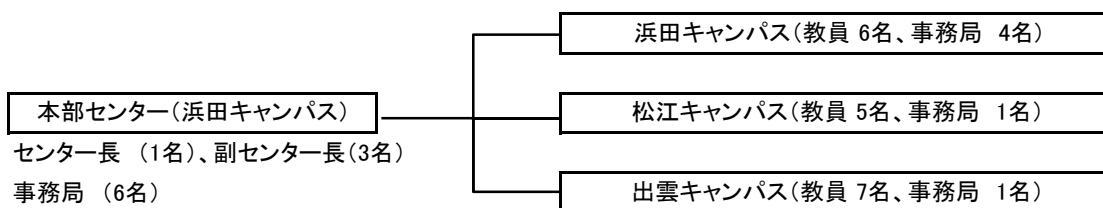
### ◆学生・教職員等の状況

平成22.5.1 現在

	浜田キャンパス		松江キャンパス			出雲キャンパス	
	総合政策学部	大学院	健康栄養学科	保育学科	総合文化学科	看護学科	専攻科
学生数	1051名(男:631名、女:420名)		493名(男33名、女:460名)			300名(男:33名、女:267名)	
	1015名	36名	86名	102名	305名	257名	43名
教員数	50名		33名			32名	
職員数	41名		14名			15名	

### ◆地域連携推進センターの組織

平成22.5.1 現在



※本部センター及び各キャンパスの教職員はいずれも兼務

# 島根県立大学・島根県立大学短期大学部地域連携推進センター運営規程

平成19年4月1日

規程第8号

(目的)

**第1条** この規程は、公立大学法人島根県立大学組織規則（平成19年規則第2号。）第27条に規定する地域連携推進センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(業務)

**第2条** センターは、次の業務を行うものとする。

- (1) 地域からの要望・相談対応窓口に関する事。
- (2) センターの広報活動に関する事。
- (3) 公開講座等の生涯学習の実施に関する事。
- (4) 産公学連携に関する事。
- (5) その他地域との連携推進に関する事。

(センター長)

**第3条** 地域連携推進センター長（以下「センター長」という。）は、前条に規定する業務について、島根県立大学及び島根県立大学短期大学部の各キャンパス間の調整を図り、学長の指揮の下、各大学のセンター業務を統括する。

(副センター長)

**第4条** 地域連携推進センター副センター長（以下「副センター長」という。）は、担当するキャンパスにかかる第2条に規定する業務を掌理する。

(運営会議)

**第5条** センター長は、各キャンパス担当の副センター長及び第2項に規定するキャンパス運営会議の構成員の中からセンター長が指名する教職員をもって、センター運営会議を組織する。

- 2 副センター長は、キャンパス毎に学長が指名する教職員をもってキャンパス運営会議を組織し、センターの業務を行う。
- 3 センター長及び副センター長は、必要があると認めるときは、前二項の運営会議に構成員以外の者を出席させ、意見を述べさせることができる。

(補則)

**第6条** この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

**附 則**

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

平成22年度 公立大学法人島根県立大学  
地域連携推進センター本部運営会議 名簿

(任期:平成22.4.1～平成23.3.31)

キャンパス	職名	氏名	備考
本部	教授	井上 定彦	地域連携推進センター長
松江キャンパス	教授	山下 由紀恵	地域連携推進センター副センター長
	管理課長	玉木 治義	
出雲キャンパス	教授	石橋 照子	地域連携推進センター副センター長
	主幹	上代 勇夫	
浜田キャンパス	教授	林 秀司	地域連携推進センター副センター長
	交流研究課長	島田 成毅	
	企画員	島田 満	
	主任	藤原 秀樹	～7/31
	企画員	岡崎 巧	8/1～
	嘱託員	竹根 美雪	



## 地域連携推進センター本部運営会議の開催状況

### 第1回

○日時：平成22年4月27日(火)14:10～16:10

○場所：各キャンパステレビ会議室

#### 【議題】

- (1) 平成22年度事業予算・計画、平成21年度事業計画実績について
- (2) 公開講座の有料化について
- (3) ホームページの改良について
- (4) 「平成21年度活動報告書」について

#### 【報告】

- (1) リーフレットの作成について
- (2) 地域貢献プロジェクト助成事業等について

### 第2回

○日時：平成22年6月17日(木)13:20～14:50

○場所：各キャンパステレビ会議室

#### 【議題】

- (1) 「平成21年度活動報告書」案について
- (2) ホームページの改良について
- (3) 公開講座料金徴収の検討状況、料金徴収の内規案について

【報告】各キャンパスの取り組み状況

### 第3回

○日時：平成22年8月25日(木)10:07～11:26

○場所：各キャンパステレビ会議室

#### 【議題】

- (1) キャンパスマイレージ事業について
- (2) 学生と地域の架け橋づくり事業について

#### 【報告】

- (1) 「平成21年度活動報告書」案について
- (2) 公開講座について
- (3) ホームページの改良について

### 第4回

○日時：平成22年1月28日（木）13:00～14:25

○場所：各キャンパステレビ会議室

#### 【議題】

- (1) 平成21年度業務実績に係る評価結果を受けての改善策について
- (2) 平成22年度計画進捗状況について

**【報告】**

- (1) ホームページの改良について
- (2) 学生と地域の架け橋づくり事業について
- (3) 各キャンパスの取り組み状況

**第5回**

○日時：平成22年12月6日(月)10:52～11:39

○場所：各キャンパステレビ会議室

**【議題】**

- (1) 平成22年度業務実績原案、および平成23年度計画原案の作成について
- (2) 平成23年度予算要求(案)について
- (3) 平成22年度地連センター活動報告書の作成について
- (4) 北東アジア地域学術交流研究助成金の募集について

**【報告】**

- (1) ホームページの改良について
- (2) 「椿の道アカデミー会員制度」について
- (3) 「石見の風にのせてーぎんざんテレビ出前講座の軌跡2ー」について

**第6回**

○日時：平成23年1月27日(木) 13:23～14:28

○場所：各キャンパステレビ会議室

**【議題】**

- (1) 平成22年度業務実績原案、および平成23年度計画原案の作成について
- (2) 地域貢献プロジェクト助成事業について

**【報告】**

- (1) 各キャンパスの取り組み状況について
- (2) 県立広島大学三原地域連携センターのイベント

**第7回**

○日時：平成23年2月23日(水) 10:00～11:06

○場所：各キャンパステレビ会議室

**【議題】**

- (1) 平成23年度計画原案について

**【依頼】**

- (1) 浜田市と島根県立大学の共同研究事業について
- (2) 平成22年度活動報告書について

**【報告】**

- (1) 各キャンパスの取り組み状況について
- (2) 地域貢献プロジェクト助成事業について

## 公開講座の概要

公開講座は全学的な連絡調整・協力をはかりながらも、キャンパス毎に独自の組み立てを行い、系統的に開催している。受講者は、3キャンパス毎に職業による特性、年齢層、受講者数に大きな相違がある。

松江キャンパスは、「椿の道アカデミー」の豊富なメニューにもとづき、一般教養関連についても、職業人としての学び直しの意味をもつ講座についても共に非常に多数の参加を得てきた実績があり、定員制限をせざるをえないときもあるほどである。

出雲キャンパスは、今回の社会人学び直し事業に関わって健康支援を中心とした地域支援のための事務局をおき、いくつかの市で独自の公開講座を開催しており、さらに地域の健康づくり、ガン患者と家族の支援などの活動も行っている。

浜田キャンパスは、主として高度で専門的な分野のテーマについてシリーズ講座を開催したり、高校生を対象に高校が主催した出張講座や、自治体が主催した出張講座に講師派遣も行っている。

共通しているのは、主に本学の各キャンパスを会場として開かれる公開講座に加えて、自治体をはじめとする地域や市民団体・経済団体からの要請に基づいて行われる出張講座や出前講座に講師を派遣しているという点である。

また、3つのキャンパス間の講師の相互派遣も行っており、昨年秋には、3キャンパス合同の出張講座も開催されたところである。



実施日	時間	講座名	講師	開催場所	受講者数 (のべ人数)
＜石見に生きる～石見の元氣人が話す＞					
5月22日(土)	13:50～15:20	過疎と戦う古書店のいま	尾野 寛明 (有限会社エコカレッジ)	中講義室3	47
6月2日(水)	18:20～19:50	若者が地域の問題を解決する!	三原 綾子 (旅館吉田屋)	中講義室3	57
6月9日(水)	18:20～19:50	次世代へ手渡すバトン、としての農業	元木 雅人 (株式会社ぐり～んは～と)	中講義室3	27
6月16日(水)	18:20～19:50	石見の水産業の役割と未来	福島 充 (真和漁業生産組合)	中講義室3	22
7月3日(土)	13:50～15:20	山ばかりで、何も無い!?	田代 信行 (ひきみ田舎体験推進協議会)	中講義室3	17
11月10日(水)	18:20～19:50	山村の豊かさを実現する自給的暮らし	福原 広史 (NPO法人ゆうきびと)	中講義室3	45
11月24日(水)	18:20～19:50	ふるさと再生と地域金融	岡田 久樹 (日本海信用金庫)	中講義室3	88
12月1日(水)	18:20～19:50	中山間地域と石見の未来像	松永 桂子 (浜田キャンパス)	中講義室3	45
＜外国人教員による比較文化論＞					
6月5日(土)	13:50～15:20	ロシア人の人達の生活とその信仰	シローコフ・ワジム (浜田キャンパス)	中講義室3	25
6月23日(水)	18:20～19:50	言語の学習活動としてのコミュニティ組織化	マニング・クレイグ・トーマス (浜田キャンパス)	中講義室3	22
6月30日(水)	18:20～19:50	異文化コミュニケーションの理解	呉 大煥 (浜田キャンパス)	中講義室3	11
7月21日(水)	18:20～19:50	『三国志』から読む中国文化	李 曉東 (浜田キャンパス)	中講義室3	22
7月31日(土)	13:50～15:20	イギリスと日本のバイリンガリズムに対する支援や態度	ケイン・エレナ・アン (浜田キャンパス)	中講義室3	20
＜本と図書館のWaku2(わくわく)ツアー＞					
5月29日(土)	13:50～15:20	図書館タイムトラベルー5,000年の図書館文化を知るー	上野 友稔 (浜田キャンパス)	メディアセンター 多目的演習室	18
8月7日(土)	13:50～15:20	司書は近未来型図書館の夢を見るか?	上野 友稔 (浜田キャンパス)	メディアセンター 多目的演習室	14
11月20日 12月4日	13:50～15:20	ハンナ・アレントと旅する二十世紀	村井 洋 (浜田キャンパス)	メディアセンター 多目的演習室	31
12月18日(土)	13:50～15:20	ラ・フォンテーヌの『寓話』から考える	渡部 望 (浜田キャンパス)	メディアセンター 多目的演習室	11
＜コミュニケーション力を高める、自己表現力を高める＞					
8月28日(土)	13:30～16:30	もっと素敵にコミュニケーション	落合 のり子 (出雲キャンパス)	中講義室3	40
		聞き上手を目指したコミュニケーション	川中 淳子 (浜田キャンパス)		40
		日本語なのに、なぜ伝わらない?	高橋 純 (松江キャンパス)		39
＜島根で暮らす、環境共生という生き方＞					
5月14日(金)	18:20～19:50	「島根で暮らす、環境共生という生き方」への招待	藤本 稔彦 (浜田キャンパス)	中講義室3	55
5月28日(金)	18:20～19:50	これからの農村、これからどうなる、どうする?! ー日本とアジアの村々を歩き続けて	大野 和興 (農業ジャーナリスト)	弥栄会館 (浜田市弥栄町)	47
6月12日(土)	13:00～15:30	やうねやま 弥栄山から考える、弥栄のこれまでとこれから	福島 万紀(やさか郷づくり事務所) 弥栄町山使いの達人	ふるさと体験村 (浜田市弥栄町)	28
6月25日(金)	18:20～19:50	「次の世代」に伝えたい、弥栄に生きる農家の「声」と「想い」	相川 陽一(やさか郷づくり事務所) 弥栄町農家の皆さま	中講義室3	28
7月17日(土)	16:30～18:00	農や自然とのかかわりから考える、「よく生きる」ことの探求と継承	竹之内 裕文 (静岡大学農学部)	弥栄会館 (浜田市弥栄町)	29
＜日本語と日本語教育＞					
12月8日(水)	18:20～19:50	日本語はどんな言語か	犬塚 優司 (浜田キャンパス)	中講義室3	22
11月20日 12月4日	18:20～19:50	外国語としての日本語の教え方(ーこそあどー、ー形容詞ー)	小林 明子 (浜田キャンパス)	中講義室3	43
＜出張講座＞					
8月27日(金)	13:30～15:00	地域文化とまちづくりーとくに歴史的町並みの保全と活用について	林 秀司 (浜田キャンパス)	大社高校	24
9月29日(水)	13:10～14:40	今後の地方空港運営について	西藤 真一 (浜田キャンパス)	益田市人権センター	66
9月29日(水)	15:00～16:30	日本の金融・経済の現状と今後の見通し	小林 博 (浜田キャンパス)	益田市人権センター	66
10月28日(木)	14:30～16:00	地域文化とまちづくりーとくに歴史的町並みの保全と活用について	林 秀司 (浜田キャンパス)	横田高校	9
11月19日(金)	13:30～15:00	地域資源に注目した英語発信活動の提案	江口 真理子 (浜田キャンパス)	鳥取東高校	50
12月8日(水)	13:30～15:00	イメージでわかる英語音声学	江口 真理子 (浜田キャンパス)	三刀屋高校	18
合 計					1,126

実施日	時間	講座名	講師	開催場所	受講者数 (のべ人数)
5月19日 ～11月17日	13:10～14:40	01. 源氏物語入門 (全8回)	三保サト子	大講義室	924
5月19日 (水)	14:00～15:10	02. 総合文化講座：文化の新たな視点 (全11日×2回)	最近の出雲弁～学生の間で交わされる方言について～	体育館研修室	81
5月19日 (水)	15:20～16:30		英語に再挑戦！～家庭のパソコンを活用しよう～	体育館研修室	75
6月16日 (水)	14:00～15:10		詩の愉楽～すぐに役立たないことばたち～	体育館研修室	63
6月16日 (水)	15:20～16:30		「文化資源」を生かす楽しみ～「松江ゴーストツアー」誕生秘話～	体育館研修室	60
7月7日 (水)	14:00～15:10		伝承の不思議さを考える～江戸初期の山陰地方のわらべ歌から～	体育館研修室	64
7月7日 (水)	15:20～16:30		北東アジアの白樺樹皮文化	体育館研修室	58
7月23日 (金)	14:00～15:10		ドクターは何の手術をしていたのか？～翻訳作品のなかの医療語表現～	体育館研修室	56
7月23日 (金)	15:20～16:30		花山院をめぐる人々～道命のことなど～	体育館研修室	48
8月18日 (水)	14:00～15:10		スピーチに見る60年代アメリカ	体育館研修室	49
8月18日 (水)	15:20～16:30		インスタントラーメン50年の歩み	体育館研修室	45
9月1日 (水)	14:00～15:10		隠喩のしめすもの	視聴覚室	51
9月1日 (水)	15:20～16:30		生活文化財を見直す	視聴覚室	48
9月15日 (水)	14:00～15:10		絵本のことば	体育館研修室	46
9月15日 (水)	15:20～16:30		家事作業と文化力・教育力	体育館研修室	40
9月29日 (水)	14:00～15:10		ドラキュラを探して～「吸血鬼ドラキュラ」を読む～	体育館研修室	39
9月29日 (水)	15:20～16:30		インドネシアの暮らしとイスラム～バールに焦点をあてて～	体育館研修室	41
10月16日 (土)	14:00～15:10		日本語による心象の意味と表現	大講義室	25
10月16日 (土)	15:20～16:30		日本語教室からみた松江地域文化	大講義室	22
10月20日 (水)	14:00～15:10	インドネシアの挨拶語と社会	体育館研修室	36	
10月20日 (水)	15:20～16:30	アフリカの牧畜民の世界～日常生活を支える道具から～	体育館研修室	30	
11月17日 (水)	14:00～15:10	アフリカのポップ音楽の魅力	体育館研修室	41	
11月17日 (水)	15:20～16:30	絵本の愉楽～「絵」の表現～	体育館研修室	41	
5月21日 ～7月16日 (金)	13:20～14:50	03. キャンパス図書館で読書会を (全6回)	河原修一、北井由香	図書館グループ 閲覧室	64
10月21日 ～1月20日 (木)					
7月2日 ～7月30日 (金)	16:00～18:00	04. 早期発達支援ブラッシュアップ講座 (全3回)	山下由紀恵	体育館研修室	29
		Denver II 発達スクリーニング予備判定の方法			30
		ポータープログラム個別指導案作成法			32
		保幼小連携による発達アセスメントと親支援			
10月13日 ～12月8日 (水)	15:00～17:00	05. 松江家庭裁判所出張講座：くらしと家庭の法知識 (全3回)	松江家庭裁判所調査官 及び書記官	大講義室	30
		家庭内・親族間の問題が起きたとき			32
		成年後見人が必要などとき			25
		少年審判の実際			
5月18日 ～9月21日 (火)	19:00～21:00	06. 健康栄養講座：生活習慣病 (糖尿病・高血圧・骨粗鬆症) 予防教室 (全5回)	安藤彰朗	臨床栄養実習室	25
		生活習慣病とは	直良博之		24
		生活習慣病になるまで	籠橋有紀子		20
		生活習慣病の予防と改善～運動編～	名和田清子		22
		生活習慣病の予防と改善～食事編～	名和田清子、坂根千津恵		20
		生活習慣病の予防と改善～調理実習編～			
5月18日 ～7月20日 (火)	18:30～20:00	07. ひかるの恋人たち (全5回)	三保サト子	体育館研修室	173
7月14日 ～3月9日 (水)	19:00～21:00	08. 栄養士のためのステップアップ講座 (全17回)	健康栄養学科教員ほか	臨床栄養実習室	125
10月5日 ～11月16日 (火)	18:30～20:00	09. 宇治十帖の世界 (全5回)	三保サト子	体育館研修室	124
5月29日 (土)	14:00～16:00	10. 荒神谷博物館連携講座：古代への誘い (全2回)	藤岡大拙	大講義室	72
7月11日 (日)				荒神谷博物館	71
7月10日 (土)	13:00～15:00	11. 七夕おはなし会 (全1回)	堀川照代	体育館研修室	14

平成22年度 島根県立大学公開講座「椿の道アカデミー」の開催状況

松江キャンパス

実施日	時間	講座名	講師	開催場所	受講者数 (のべ人数)	
7月31日 ～9月4日 (土)	13:30～15:30	12.生活プロデュース講座 (全5回)	カラーコーディネーション	藤居由香ほか	マルチメディア演習室	16
			ファブリックスの魅力		生活材料実験室	15
			工芸染色		生活環境基礎実験室	9
			3D-CADインテリアプレゼンテーション		マルチメディア演習室	10
			生活カルテ		環境リサイクル実習室	11
10月23日 ～11月6日 (土)	1400～1600	13.食と文化 (全3回)	出雲そばの味わい	中塚敏之	大講義室	41
			島根の酒	岩本正俊		36
			島根の蒲鉾	永瀬光俊		30
合 計					3,083	

※出雲キャンパスの公開講座開催状況等については、P92～98に掲載しています。

## 地域貢献プロジェクト助成事業

本学では、中期目標に掲げる「地域活性化に対する支援」を推進するため、平成 20 年度から北東アジア地域学術交流研究助成金に「地域貢献プロジェクト助成事業」を創設している。包括協力協定を締結した浜田市、松江市及び出雲市との共同事業のほか、本学教員が地域協力者（自治体、NPO、自治会、郷土研究者等）とともに、大学の地域貢献活動（調査・研究等）に対して助成するものである。年間 5～6 件程度のプロジェクトを採択し、各種事業の実施や成果の還元等を通じて、地域振興への取組を支援している。

平成 22 年度

教員氏名 所属	研究課題名
山下由紀恵 (松江キャンパス)	しまね子育て支援専門職ネットワーク構築に向けた領域横断的カンファレンス・プロジェクト
伊藤智子 (出雲キャンパス)	地域を基盤とする老年看護教育の評価
井上 治 (浜田キャンパス)	産学官連携による 石見の中国人向け観光誘致プラン
吉塚 徹 (浜田キャンパス)	島根地域活性化支援と大学 ー地域におけるインキュベーターとしての大学ー
李 暁東 (浜田キャンパス)	津和野の西周 アジアの西周
吾郷美奈恵 (出雲キャンパス)	出雲市と共同事業による 「家庭教育サポーター」養成研修の実施と評価

## その他活動の概要

### 1. 地域社会・自治体から求められる諮問委員等の派遣

本学の教員に対し、地域からの諮問委員等の派遣要請が多数ある。具体的には島根県、市町村、教育委員会等の公共団体からの諮問委員会・審議会的な委員就任についての要請、商工会議所、経営者団体、社会団体・市民団体からの専門委員についての要請・相談であり、大学事務局において紹介、あっせんも行っている。

### 2. 地域に関する提言を含む卒業研究・研究論文の発表

本学では地域連携活動の一環として、学生・院生による研究成果の発表会を行っている。浜田キャンパスでは地域活性化等の政策提言を含む「卒業研究・論文の発表会」を卒業式前の時期に毎年開催している。また、大学院生の専門的な研究論文も同時に発表され、島根地域を中心に市民や行政の方々と意見交換をする機会を得ている。

松江キャンパス、出雲キャンパスにおいても、時期は違うが、学生達のグループ研究を含め、研究成果の公開発表会が開かれている。

### 3. 高校をはじめとする学校間の連携

本学では、島根県教育委員会と連携のあり方について協議を進める一方、各キャンパスそれぞれに、高校をはじめとする学校との連携を目指している。

浜田キャンパスでは、浜田高校、江津高校と連携・協力協定を結び、教員の派遣（キャリア形成、語学教育等）、大学のゼミナール（総合演習等）への高校生参加受入れ、中学校に本学学生を派遣して学習支援等の活動を行っている。

松江キャンパスでは、近隣の松江商業高校、湖南中学校、乃木小学校、幼稚園のぎと、以前から学校間連携に取り組んできた実績がある。

出雲キャンパスも、大社高校、平田高校との協力を行っている。

### 4. 自治体との連携

各キャンパスは、所在地の自治体との協力関係を強化しつつあり、法人としても浜田市、松江市、出雲市との間で、教育・研究、地域活性化などに関する包括協力協定を締結している。

これらの市や島根県などの自治体との間で、産業界、市民団体等と連携してシンポジウムの開催や、本学教員・学生による調査・研究も進められている。

### 5. 学生ボランティア活動への支援

学生が安心してボランティア活動に参加できるよう、けがや事故が起きたときに補償が受けられる「ボランティア活動保険」に大学が保険料を負担して加入（H22年度189名）させている。

また、ボランティア研修会や報告会も開催している。



平成22年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 浜田キャンパス

1 講演会講師等

No.	教員氏名	依頼者	内容（テーマ等）	日付
1	飯田泰三	松江市立図書館	「八景八雲に学び・親しむ」	平成22.7.24
2	井上治	社会福祉協議会	平成22年度シマネスクくくびき学園講師「北東アジア古代史と日本」	平成22.7.13
3	江口真理子	鳥取県東部地区高等学校英語教育研究会	研究大会「地域資源に注目した英語発信活動の提案」	平成22.11.19
4	川中淳子	浜田保健所	平成22年度浜田圏域母子保健従事者研修会「子育て機関での支援の実態」	平成22.12.7
5	西藤真一	島根県	平成22年度島根県議会「政策研修会」講師	平成22.12.8
6	西藤真一	釧路公立大学	平成22年度地域・産業研究会 講師	平成22.10.28
7	シローコフ・ワジム	吉備国際大学	特別講演「現代ロシアの若者と教育事情」	平成22.4.26
8	八田典子	社会福祉協議会	平成22年度シマネスクくくびき学園講師「芸術の魅力」	平成22.10.26
9	平松弘光	島根県	平成22年度中国地区用地対策連絡会島根県支部研修会講師	平成22.7.16
10	松永桂子	島根県	平成22年度‘しまね立志塾’「各地域のSWOT分析」	平成22.5.26
11	松永桂子	島根県	平成22年度‘しまね立志塾’「中山間地域における産業振興」	平成22.8.25
12	光延忠彦	島根県	島根県明るい選挙推進大会講師	平成22.6.16

2 審査会委員等

No.	教員氏名	依頼者	役職名	期間
1	飯田泰三	津和野町教育委員会	津和野町教育ビジョン策定委員会委員	
2	飯田泰三	島根大学	島根大学就業力育成支援事業外部評価委員会	平成22.12.1～平成27.3.31
3	井上厚史	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	平成22.6.10～10.31
4	井上治	日本学術振興会	特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員	平成22.8.1～平成23.7.31
5	井上定彦	石見銀山協働会義	特定非営利活動法人石見銀山基金事業選定委員	平成22.11.17～平成25.3.31
6	井上定彦	浜田市	浜田市定住自立圏共生ビジョン懇談会委員	平成22年度
7	井上定彦	島根県労働福祉協議会	新たなビジョン策定ワーキング会委員	平成22年度
8	井上定彦	奥出雲町	奥出雲町総合計画審議会委員	平成22.7～平成23.3
9	井上定彦	財団法人ふるさと島根定住財団	ふるさと島根定住財団の評価員	平成22.7～平成24.6
10	江口真理子	島根県中学校英語教育研究会	平成22年度島根県中学校英語弁論大会島根県予選 審査員	平成22.10.15
11	大橋敏博	日本芸術文化振興会	芸術文化振興基金運営委員会 文化団体活動専門委員会	平成22.11.1～平成23.10.31
12	大橋敏博	島根県教育委員会	島根県教育課程審議会委員	平成22.9.10～平成24.9.9
13	大橋敏博	浜田市教育委員会	浜田市文化財審議会委員	平成22.4.1～平成24.3.31
14	大橋敏博	浜田市	浜田市美術品等収集委員会委員	平成22.4.1～平成24.3.31
15	大橋敏博	文化庁	平成22年度優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業協力者会議委員	平成22年度

No.	教員氏名	依頼者	役職名	期間
16	大橋敏博	浜田市教育文化振興財団	財団法人浜田市教育文化振興事業団役員	～平成26.6
17	沖村理史	浜田市	浜田市環境審議会委員	～平成23.3.31
18	沖村理史	浜田市	浜田市地球温暖化対策地域協議会役員	平成22.4.1～平成24.3.31
19	沖村理史	しまね自然と環境財団	しまね環境アドバイザー	平成22.4.14～平成24.3.31
20	魁生由美子	浜田市	浜田市男女共同参画推進委員会委員	平成22年度
21	魁生由美子	島根県	島根県都市計画審議会委員	～平成22.10.19
22	魁生由美子	島根県	島根県男女共同参画審議会委員	平成22.6～平成24.5
23	ケイン・エレナ・アン	島根県中学校英語教育研究会	平成22年度島根県中学校英語弁論大会島根県予選 審査員	平成22年.10.15
24	小林明子	浜田市	浜田市男女共同参画推進委員会委員	～平成24.3.31
25	小林博	全国健康保険協会島根支部	全国健康保険協会島根支部評議会評議員	平成22.11.1～平成24.10.31
26	西藤真一	川本町	川本町学校施設後地利活用検討委員会委員	平成22年度
27	西藤真一	川本町	川本町生活交通検討委員会アドバイザー	平成22年度
28	田中恭子	静岡大学創造科学技術大学院	学位論文審査委員会委員	平成22.7.9～7.30
29	寺田哲志	島根県	島根県道路事業評価手法検討会委員	平成22.11.12～平成23.3.31
30	八田典子	江津市	小中学生赤瓦の住宅・街なみ絵画コンクール審査委員	平成22.11.1～12.17
31	八田典子	国土交通省	社会資本整備審議会専門委員	2年任期
32	八田典子	島根県	しまね景観賞審査委員会委員	平成22.4.1～平成24.3.31
33	八田典子	浜田市	浜田市美術品等収集委員会委員	平成22.4.1～平成24.3.31
34	林秀司	浜田市	浜田市総合振興計画審議会委員	平成22年度
35	林秀司	島根県	島根県中山間地域等振興対策検討会委員	平成22.6.24～平成24.6.9
36	平松弘光	益田市	益田市行政情報公開不服審査会委員	～平成24.5.31
37	藤原真砂	浜田市	浜田市都市計画マスタープラン策定委員	平成23.1～平成24.3
38	藤原真砂	浜田市水産業振興協会	浜田地域水産業構造改革推進プロジェクト地域協議会委員	平成22.12～平成25.12
39	藤原真砂	浜田市商店街振興組合連合会	浜田市中心商店街の活性化推進委員会委員	平成22.10.15～平成23.2
40	藤原真砂	島根県	島根県都市計画審議会委員	平成22.11.10～平成24.1.31
41	藤原真砂	島根県	島根県道路事業評価手法検討会委員	平成22.11.12～平成23.3.31
42	藤原真砂	島根県	島根県都市公園指定管理業務評価委員	平成22.11.1～平成27.10.31
43	藤原真砂	国土交通省	江の川河川整備懇談会委員	～平成23.3.31
44	藤原真砂	島根県	都治川・三隅川治水対策検討委員会委員	平成22.10.1～平成23.3.25
45	堀内好浩	益田市教育委員会	益田市教育審議会委員	～平成23.3.31
46	松永桂子	島根県	ふるさと雇用再生特別基金事業審査委員会委員	平成22.4.23～平成22.6.3

No.	教員氏名	依頼者	役職名	期間
47	松永桂子	浜田市	浜田市総合振興計画審議会委員	平成22年度
48	松永桂子	神戸市	中小企業活性化プログラム検討委員	平成22.6～平成23.3
49	吉塚徹	江津市	情報公開審査会委員	平成22.5.1～平成24.4.30
50	吉塚徹	奥出雲町	情報公開審査会委員	平成22.4.1～平成24.3.31
51	吉塚徹	島根県	島根県消費生活審議会委員	平成22.7.27～平成24.7.26
52	吉塚徹	島根県	島根県商工労働部視点管理者業務評価委員	～平成27.3.31
53	ケイン・エレナ・アン	江津高等学校	第16回江津高校主催中学校レシテーションコンテスト審査員	平成22.11.10
54	西藤真一	川本町	川本町生活交通検討委員会アドバイザー	平成22年度
55	村井洋	熊本県立八代南高等学校	「プロメ・プラン発表会」審査員	平成23.2.9

### 3 その他の地域活動

No.	教員氏名	相手方	内容	日付
1	井上厚史	関東学院大学	ビジネスエシックス研究会総会	平成23.2.12～13
2	井上厚史	関東学院大学	研究遂行	平成22.8.26～27
3	井上厚史	関東学院大学	ビジネスエシックス研究会	平成23.3.20～22
4	井上定彦	大田市教育委員会	大田市教育委員会の事務に関する点検・評価	平成22.9.27、10月
5	井上定彦	大田市教育委員会	石見銀山協働会議全体会	平成22.9.26
6	江口伸吾	成蹊大学	アジア太平洋研究センタープロジェクト業務における研究会	平成22.7.31
7	大前太	島根大学	第2回大学教育合同フォーラムin山陰2011	平成23.3.15
8	魁生由美子	中国労働金庫	職員研修会	平成22.7.15
9	川中淳子	島根県	スクールカウンセラー	平成22.4.1～平成23.3.25
10	川中淳子	島根いのちの電話	石見分室電話相談員養成講座 講師	平成22.9.18/10.2
11	川中淳子	島根県看護協会	新人看護職員臨床研修「新人看護職員臨床研修に関わる看護職員のメンタルサポート」	平成22.12.24
12	ケイン・エレナ・アン	放送大学	島根学習センターにおいて授業科目「世界の英語」の実施、会議の出席等	平成22.10.1～平成23.3.31
13	ケイン・エレナ・アン	江津高等学校	「学力・人間力向上夏季特別セミナー」	平成22.7.28
15	ケイン・エレナ・アン	江津市小中高大連携英語研究会	わくわくイングリッシュ	平成22.6.8
16	ケイン・エレナ・アン	江津市小中高大連携英語研究会	江津市小中高大連携英語研究会プロジェクト会議	平成22.6.22
17	小林明子	浜田市教育委員会	日本語指導の必要な児童生徒受入れに係る協議の派遣	平成22.10.22
19	西藤真一	釧路公立大学	平成22年度地域・産業研究会	平成22.10.28
20	西藤真一	明治大学	非常勤講師「国際交通論」	平成22年度
21	寺田哲志	ポリテクカレッジ島根	一般教養科目 社会科学「経済学」	平成22.4.8～10.7
22	ハリス・ジェイソン	浜田市立上府小学校	浜田自治区小規模学校連絡会「低学年交流会」講師	平成22.12.6

No.	教員氏名	相手方	内容	日付
23	平松弘光	島根大学大学院	「地方自治法」	平成22.4.～平成23.3
24	別枝行夫ほか4名	島根県	平成22年度自治修所研修講師	平成22年度
25	松永桂子	一橋大学大学院	グローバルCOE研究調査	平成22.5.6～平成23.3.31
26	村井洋	浜田医療センター附属看護学校	非常勤講師「倫理学」	平成22.12（4日間）
28	渡部望	島根大学	第2回大学教育合同フォーラムin山陰2011	平成23.3.15

平成22年度 地域連携（貢献）活動の取組状況 松江キャンパス

1 講演会講師等

NO.	教員氏名	依頼者	内容（テーマ等）	日付
1	赤浦和之（健康栄養学科准教授）	島根県、しまね産業振興財団	食品分野研究シーズ発表会in浜田「西条ガキ熟柿の生産と熟柿ピューレの利用」	平成22.3.11
2	赤浦和之（健康栄養学科准教授）	島根大学プロジェクト研究推進機構	島根大学重点研究プロジェクト成果報告セミナー「西条ガキ熟柿の生産と熟柿ピューレを用いた加工食品の開発」ポスター発表および熟柿の展示	平成22.12.5
3	籠橋有紀子（健康栄養学科准教授）	島根大学	島根大学公開講座「脂質栄養と健康」生活習慣病を防ぐための良い油と摂り方「糖尿病と脂質栄養についての最近の知見」をテーマに講演（会場：島根県民会館）	平成22.4.11
4	名和田清子（健康栄養学科教授）	邑南町	食育研修会「食育の課題」	平成22.5.31
5	名和田清子（健康栄養学科教授）	松江市健康福祉部	平成21年度まつえ市民大学「検診結果の振り返り」	平成22.8.3
6	名和田清子（健康栄養学科教授）	松江市	保育関係者研修会「食育についてーこれからの食育ー」	平成22.8.6
7	名和田清子（健康栄養学科教授）	ハートピア出雲	発達障害児保護者研修会講師「こだわり、偏食について考えてみませんか」	平成22.8.7
8	名和田清子（健康栄養学科教授）	高浜コミュニティセンター	出雲市高浜コミュニティセンター健康学習会	平成22.9.28
9	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県合鴨農法研究会	合鴨農業総会「食べること」	平成22.11.6
10	名和田清子（健康栄養学科教授）	島根県健康福祉部青少年家庭課	平成22年度事業所内保育施設等保育従事者研修会「今、求められる食育とは？ー保育所における食育ー」	平成22.11.7
11	名和田清子（健康栄養学科教授）	浜田保健所	炎症性腸炎食事勉強会	平成22.11.14
12	名和田清子（健康栄養学科教授）	松江市保育研究会	松江市保育研究会「保育所における食育」	平成23.1.22
13	名和田清子（健康栄養学科教授）	松江市	子育て研修会	平成23.2.14
14	福井一尊（保育学科講師）	浜田市保育連盟	浜田市内保育所（園）・幼稚園職員造形指導研修会講師（会場：研修施設いわみーる）	平成22.8.20
15	福井一尊（保育学科講師）	松江市保育研究会	造形造形展作品審査員（会場：体育館アリーナなど）	平成22.12.9
16	福井一尊（保育学科講師）	松江市保育研究会	松江市保育研究会立体作品展示講習会講師（会場：いきいきプラザ）	平成22.12.27
17	小山優子（保育学科准教授）	邑智郡保育研究会主任研修会	「年齢別指導計画と自己評価について」	平成22.6.15
18	小山優子（保育学科准教授）	出雲市立窪田保育所	「保育指針改定による保育所での配慮事項について」	平成22.6.28
19	小山優子（保育学科准教授）	島根県社会福祉協議会	「潜在保育士再就職支援研修会」	平成22.11.14
20	小山優子（保育学科准教授）	松江市保育研究会保育士部会	「保育所児童保育要録と未満児指導計画の記入について」	平成22.11.16
21	小山優子（保育学科准教授）	島根県社会福祉協議会	「潜在保育士再就職支援研修会」	平成22.11.28
22	小山優子（保育学科准教授）	島根県社会福祉協議会	「潜在保育士再就職支援研修会」	平成22.12.4
23	小山優子（保育学科准教授）	島根県社会福祉協議会	病児・病後児、障がい児の預かり人材養成講座事業「子育て支援者スキルアップ講座」	平成23.1.26
24	栗谷とし子（保育学科准教授）	JAいずも	JA高齢者福祉事業 訪問介護員養成研修会ホームヘルパー2級課程 「在宅看護の基礎知識」	平成22.7.30
25	白川浩（保育学科教授）	島根県合唱連盟 島根県合唱教育研究会	「平成22年度NHK全国学校音楽コンクール課題曲のアナリゼと実技指導」	平成22.6.20
26	岸本強（保育学科教授）	松江市子育て課	松江市公私立保育所（園）・幼稚園・幼保園職員研修会実技指導・講話 「体育遊びの構成」	平成22.8.27
27	岸本強（保育学科教授）	奥出雲町立亀嵩幼稚園	園内研究会・研究協議講師	平成22.10.7

NO.	教員氏名	依頼者	内容(テーマ等)	日付
28	岸本強(保育学科教授)	松江市立津田幼稚園 PTA	研修会・親子遊び指導と講話	平成22.10.23
29	岸本強(保育学科教授)	仁多郡幼児教育研究会	研究協議・指導講評・講話	平成22.11.11
30	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市手をつなぐ育成会	研修会講師「ステップ・バイ・ステップ～日々の生活を支えよう～」	平成22.6.21
31	山下由紀恵(保育学科教授)	出雲市保育協議会	保育士部会研修会講師「続・保育士の新しい機能について」	平成22.7.22
32	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県健康福祉部	島根県市町村職員等専門研修会(児童福祉司任用資格認定講習会)「母子関係理論と発達心理学」浜田・松江	平成22.8.19～20
33	山下由紀恵(保育学科教授)	島根県教育庁義務教育課	小一プロブレム対応研修(後期)講師「子どもの発達段階と保幼小の連携のあり方について」益田・隠岐	平成22.11.9 および11.16
34	山下由紀恵(保育学科教授)	海士町けいしょう保育園	園内研修会研修会講義「子どもの発達段階に合わせた支援指導～4歳から8歳まで～」演習「保育・教育連携とアセスメント法・指導案作り」	平成23.1.9
35	山下由紀恵(保育学科教授)	松江市教育委員会	湖南中学校区特別支援教育保幼小中連携推進事業 合同研修会「小学校2年、3年での躰を理解する～幼児期からの特性理解と支援の方法～」	平成23.1.24
36	岩田英作(総合文化学科准教授)	出雲青年会議所	絵本や小説の魅力「ことばの力、文学の力」	平成23.3.16
37	小泉凡(総合文化学科教授)	松江市立中央図書館	定期講座「小泉八雲に学び・親しむ」①小泉八雲と「稲むらの火」②ハーン来日120年をふり返って	平成22.5.29 および12.25
38	小泉凡(総合文化学科教授)	日立ITユーザ中国支部	日立ITユーザ中国支部2010中国シンポジウム記念講演「小泉八雲と歩む出雲再発見の旅」	平成22.10.28
39	小泉凡(総合文化学科教授)	島根大学附属図書館医学図書館・島根県立大学短期大学部出雲キャンパス図書館・出雲市立出雲中央図書館	島根大学附属図書館医学分館・島根県立大学短期大学部出雲キャンパス・出雲市立出雲中央図書館 相互協力協定事業 「異国」からみたニッポン—西東文庫をもとに— 基調講演 「来日外国人のみた明治日本の面影」	平成22.10.30
40	小泉凡(総合文化学科教授)	まつえ市民大学	ふるさとカレッジ発見コース 「日本の面影—小泉八雲の松江時代—」	平成22.11.30
41	小泉凡(総合文化学科教授)	松江市教育研究会小学校国語部	松江市教育研究会小学校国語部夏期研修会 「小泉八雲を現代に生かす—思想と作品へのアプローチから—」	平成22.8.6
42	小泉凡(総合文化学科教授)	松江少年鑑別所	松江少年鑑別所研修会 「ラフカディオ・ハーンのみた松江と日本」	平成22.6.25
43	小泉凡(総合文化学科教授)	松江城北小学校PTA	松江城北小学校PTA研修会 「ハーンが遺した21世紀へのメッセージ」	平成22.10.1
44	小泉凡(総合文化学科教授)	早稲田大学・松江市・(社)松江観光協会	早稲田大学・松江市・(社)松江観光協会の連携講座 「神々の国の首都・松江と小泉八雲—『日本の面影を旅する』— 「八雲と歩く神々のふる里 松江と出雲」	平成22.11.6
45	小泉凡(総合文化学科教授)	NPO松江ツーリズム研究会	新入社員研修会講演「小泉八雲と松江・記念館の基本情報」「現代における小泉八雲の意味」	平成23.2.22
46	小泉凡(総合文化学科教授)	NPO出雲学研究所	NPO出雲学研究所・島根県立大学連携事業 シニア短期留学「小泉八雲がみた神々の国出雲」	平成22.10.4
47	小泉凡(総合文化学科教授)	NHK松江放送局	小泉八雲生誕160年・来松120年記念「安野光雅・小泉凡トークショー～八雲の原点・ギリシャを旅する～」	平成22.10.2
48	小泉凡(総合文化学科教授)	松江キャンパス地域連携推進委員会	教育研究会：地域文化の教育を考える 「五感教育で地域資源を生かす—「子ども塾」の活動から—」	平成22.8.3
49	小泉凡(総合文化学科教授)	兵庫県立美術館	「対談<水木妖怪のふるさと>」：水木しげる妖怪図鑑展の開催に際し、佐野史郎氏と山陰の妖怪文化について対談	平成22.9.5
50	小泉凡(総合文化学科教授)	松江しんじ湖ロータリークラブ	小泉八雲生誕160年・来松120年記念 お話しとイメージアート体験 「小泉八雲ってどんな人？」	平成22.10.11
51	三保サト子(総合文化学科教授)	まつえ市民大学自主企画講座	「源氏物語の源流—人妻を盗む話—」	平成22.10.28
52	三保サト子(総合文化学科教授)	まつえ男女共同参画ネットワーク	「源氏物語講座—栄華の果てに—」	平成22.12.4

## 2 審議会委員等

NO.	教員氏名	委嘱(依頼)者	役職名	期間
1	奥野 元子 (健康栄養学科教授)	島根県	島根県調理師試験委員会委員	平成22.5.13～平成22.11.1
2	奥野 元子 (健康栄養学科教授)	財団法人島根県学校給食会	評議員選定委員	平成22.5.28から評議員就任まで
3	奥野 元子 (健康栄養学科教授)	島根県牛乳普及協会	牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会審査委員長	平成22.7～平成22.11
4	奥野 元子 (健康栄養学科教授)	島根県	温暖化対応新品種導入対策プロジェクト委員	平成22.4～
5	名和田清子(健康栄養学科教授)	松江市	松江市乳幼児保育・教育サポート事業支援サポーター	平成22.6～平成23.3
6	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	健康長寿しまね推進会議 委員	平成22.4～平成23.3
7	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県松江圏域	松江圏域健康長寿しまね推進会議 委員	平成22.4～平成23.3
8	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県環境農業推進協議会 副委員長	平成22.4～平成23.3
9	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	中山間地域等振興対策検討会 委員	平成22.4～平成23.3
10	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	島根県食育・食の安全推進協議会 委員	平成22.4～平成23.3
11	名和田清子(健康栄養学科教授)	松江市	松江市民大学運営委員	平成22.4～平成23.3
12	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	糖尿病予防委員会 委員	平成22.4～平成23.3
13	名和田清子(健康栄養学科教授)	雲南市教育委員会	雲南市学校給食調理業務等委託候補者選定委員会 委員	平成22.11～平成23.1
14	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県教育庁	学校給食の文部科学大臣表彰の審査会	平成22.8～平成23.1
15	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県	平成22年度保健活動企画研修事業 研修指導者	平成22.4～平成23.3
16	名和田清子(健康栄養学科教授)	出雲保健所	平成22年度出雲市新任教養士研修会 研修指導者	平成22.4～平成23.3
17	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県栄養士会	生涯学習委員会 委員長	平成22.4～平成23.3
18	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県栄養士会	栄養ケアステーション委員会 委員	平成22.4～平成23.3
19	名和田清子(健康栄養学科教授)	島根県栄養士会	評議委員	平成22.4～平成23.3
20	坂根千津恵 (健康栄養学科助手)	島根県栄養士会	HP運営委員会副委員長	平成20年度～平成23年度
21	福井一尊 (保育学科講師)	島根県保育所(園)・幼稚園造形教育研究会	顧問	平成19.4～平成23.3
22	福井一尊 (保育学科講師)	島根県民会館	島根県民会館名画劇場運営委員会委員	平成21.4～平成23.3
23	福井一尊 (保育学科講師)	島根県社会福祉協議会	島根県における障がい者アートに関する懇談会委員	平成22.10～平成23.3
24	小山優子 (保育学科准教授)	松江市	乳幼児保育・教育サポート事業支援サポーター	平成22.6～平成23.3
25	栗谷とし子 (保育学科准教授)	島根県	島根県介護保険審査委員会 委員	平成22.4.1～平成25.3.31
26	岸本強 (保育学科教授)	松江市	松江市乳幼児保育・教育サポート事業支援サポーター	平成18.6～平成23.3
27	岸本強 (保育学科教授)	島根県社会福祉協議会	島根県介護サービス情報公表センター運営委員会委員長	平成20.4～平成23.3
28	岸本強 (保育学科教授)	島根県体育協会	島根総合型地域スポーツクラブ育成委員会副委員長	平成17.10～平成23.9
29	岸本強 (保育学科教授)	島根県体育協会	しまね広域スポーツセンター企画運営委員会副委員長	平成17.10～平成23.9
30	岸本強 (保育学科教授)	島根県体育協会	医科学委員会委員	平成18.5～平成23.4

NO.	教員氏名	委嘱（依頼）者	役職名	期間
31	岸本強（保育学科教授）	島根県体育協会	評議員	平成13.5～平成23.4
32	岸本強（保育学科教授）	島根県バレーボール協会	理事長	平成13.5～平成23.4
33	岸本強（保育学科教授）	日本バレーボール協会	評議員	平成13.5～平成23.4
34	岸本強（保育学科教授）	中国バレーボール連盟	副理事長	平成13.5～平成23.4
35	岸本強（保育学科教授）	中国大学バレーボール連盟	参与・理事	平成13.5～平成23.4
36	岸本強（保育学科教授）	島根県	島根県スポーツ振興審議会副会長	平成22.8～平成24.8
37	森山秀俊（保育学科教授）	島根県合唱連盟	島根県合唱連盟理事長	平成19.4～平成23.3
38	森山秀俊（保育学科教授）	島根県	島根県文化団体連合会理事	平成22.4～平成23.3
39	山下由紀恵（保育学科教授）	一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構	臨床発達心理士資格認定審査員	平成22.9～平成22.11
40	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市保育所施設整備審査委員会委員	平成19.7～平成24.7
41	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市障害者自立支援協議会委員	平成19.5～平成23.3
42	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市子育て支援ネットワーク会議委員	平成19.5～平成23.3
43	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市乳幼児保育・教育サポート事業支援サポーター	平成19.6～平成23.3
44	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市	乳幼児保育・教育サポート事業運営委員会委員長	平成19.5～平成23.3
45	山下由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市心身障害児小規模療育事業検討委員	平成19.5～平成23.3
46	小泉凡（総合文化学科教授）	日本放送協会	NHK中国番組審議会副委員長	平成21.2～平成23.1
47	小泉凡（総合文化学科教授）	財団法人松江市国際交流協会	財団法人松江市国際交流協会評議員	平成22.4～
48	小泉凡（総合文化学科教授）	島根日日新聞社	山陰文学賞選考委員	平成20.4～
49	小泉凡（総合文化学科教授）	財団法人松江市国際交流協会・山陰日本アイルランド協会	アイリッシュ・フェスティバルin Matsue 2011実行委員長	平成22.10～平成23.3
50	鹿野一厚（総合文化学科教授）	島根県	島根県人権施策推進協議会委員 （在住外国人の人権問題に関わる委員）	平成21.10.1～平成23.9.30
51	鹿野一厚（総合文化学科教授）	松江家庭裁判所	松江家庭裁判所委員会委員	平成21.8.1～平成23.7.30
52	藤居由香（総合文化学科講師）	島根県	生活排水処理ビジョン策定委員会委員	平成22.4～平成23.3
53	藤居由香（総合文化学科講師）	松江市	松江市都市計画審議会委員	平成22.4～平成23.3
54	堀川照代（総合文化学科教授）	江津市教育委員会	江津市図書館・歴史民俗資料館建設基本計画策定委員会委員長	平成22.9～平成23.3
55	堀川照代（総合文化学科教授）	江津市教育委員会	江津市図書館・歴史民俗資料館建設基本構想策定委員会委員長	平成21.10～平成22.7
56	堀川照代（総合文化学科教授）	松江市教育委員会	松江市立図書館協議会委員	平成22.8～平成23.3
57	堀川照代（総合文化学科教授）	松江市教育委員会	松江市生涯学習推進基本構想策定委員会委員	平成22.1～平成23.3
58	堀川照代（総合文化学科教授）	松江市教育委員会	松江市学校図書館支援センター会議委員	平成20.4～平成23.3
59	堀川照代（総合文化学科教授）	東出雲町教育委員会	東出雲町学校図書館支援センター会議委員	平成19.4～平成24.3
60	堀川照代（総合文化学科教授）	島根県教育委員会	島根県立図書館協議会委員	平成12.2～平成23.3



NO.	教員氏名	委嘱（依頼）者	役職名	期間
61	堀川照代（総合文化学科教授）	島根県教育委員会	島根県社会教育委員	平成22. 6～平成23. 3
62	堀川照代（総合文化学科教授）	島根県教育委員会	学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究事業委員会委員長	平成22. 6～平成23. 3
63	堀川照代（総合文化学科教授）	島根県教育委員会	島根県子ども読書活動推進会議委員長	平成22. 6～平成23. 3
64	堀川照代（総合文化学科教授）	島根県教育委員会	島根県学校図書館支援会議委員長	平成22. 4～平成23. 3
65	堀川照代（総合文化学科教授）	文部科学省	子どもの読書普及啓発事業協力者会議座長	平成22. 6～平成23. 3
66	マユー あき（総合文化学科教授）	松江市	松江市総合計画検証委員会副委員長 くらし部会長	平成22. 8～平成24. 3
67	マユー あき（総合文化学科教授）	松江市	松江歴史館運営協議会委員	平成22. 12～平成24. 11
68	三保サト子（総合文化学科教授）	松江市	松江市行政改革推進委員会委員	平成19年度～平成22年度

### 3 その他地域連携（貢献）活動等

NO.	教員氏名	相手方	内容	日付（期間）
1	小泉凡（総合文化学科教授）	松江市観光振興課	小泉八雲ゆかりの地解説案内板解説文作成（14か所）	平成22. 6～平成23. 3
2	小泉凡（総合文化学科教授）	松江市/小泉八雲来日120年記念事業実行委員会	同委員会の顧問として、「ハーンの神在月一全国・小泉八雲の会&ミュージアムの未来を考えるサミット」および造形美術展「オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン」の実施運営にあたる。	平成22. 2～平成23. 3
3	小泉凡（総合文化学科教授）	NPO松江ツーリズム研究会	同NPOの運営する小泉八雲記念館の顧問として、企画展・常設展示キャプション・レプリカ作成等に関し、アドバイスをを行う。また、同NPOが実施する「松江ゴーストツアー」へるんコースの講師を務める。（毎月1回）	平成22. 4～平成23. 3

### 3 キャンパスの個性を生かしつつ、協力体制を築く

以下には、3キャンパスごとの地域連携の取り組みを掲載しているが、今後、本学の地域連携推進センターの活動を進めるにあたって、1点のみ指摘しておきたい。それは、松江キャンパス（県立女子短大としての発足は昭和28年）、出雲キャンパス（看護短大としての発足は平成4年）、浜田キャンパス（平成12年）は、それぞれに独自の大学として発展してきた経緯があり、地域との関係の結び方、地域連携、地域社会貢献のあり方についてもそれを反映した独自の性格を今後も尊重していく必要があるという点である。

松江キャンパスは、幼稚園教諭、保育士、栄養士、司書をはじめ多くの卒業生を輩出し、そのような専門職業人のグループとして地域内の存在感や卒業生相互間のつながりがある。また、それを生かした社会人としての学び直しの機会がこれまでもあった。仕事の性格からしても、自ら地域との連携・社会貢献につながっていると見えよう。

出雲キャンパスについても、看護師としての養成機関であり専攻科をもっていることで、高度の看護、保健関係の専門家を、島根県内を中心に送りだしている。

平成19年度に事業採択された文部科学省GP（Good Practiceの略）「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」でも、松江キャンパス・出雲キャンパスは連携して子育て、食育、健康づくりに関わる専門職の再教育プログラム開発を行い、地域社会に貢献している。

このほか松江キャンパスでは、地域文化・歴史に関わる学外団体との共同企画事業について特性を生かした新たな共同事業が始められている。出雲キャンパスでは、看護職の現職者教育の継続的な実施、保健・医療・看護の専門職の支援、「命のメッセージ展」などで地域との協力強化を進めている。

また浜田キャンパスは、社会・人文科学分野を中心として博士課程を含む大学院を擁している関係から、これまでの地域連携推進センターの活動として、高度な内容を含む公開講座の体系的な開催、地域市民活動の支援、語学教育やキャリア教育等での高大連携、学生による地域活動支援等のほかに、NEARセンターを軸とする北東アジア地域の研究調査活動や「NEARカレッジ」の開催、国際シンポジウムの地域への開放に意を用いている。

このように、今後もそれぞれの特性を生かした独自の活動が有益であるが、一方では、3キャンパスが統合した点を踏まえ、地域連携活動の協力体制を目的意識的、具体的に進めていくことも課題となっている。

## 2. 各キャンパスの活動記録

### 浜田キャンパス

平成22年度 公立大学法人島根県立大学  
地域連携推進センター浜田キャンパス運営会議 名簿

(任期:平成22.4.1～平成23.3.31)

職名	氏名	備考
教授	林 秀司	・地域連携推進センター副センター長
准教授	魁生 由美子	・委員(講座担当) ・地域連携コーディネーター(社会福祉) (～9.30)
准教授	松永 桂子	・委員(協働担当) ・地域連携コーディネーター(産公学連携)
講師	松田 善臣	・委員(広報担当) ・地域連携コーディネーター(公共交通)
講師	西藤 真一	・委員(講座担当) ・地域連携コーディネーター(公共交通)
教授	井上 定彦	・浜田キャンパス運営会議アドバイザー ・地域連携コーディネーター(NPO、市民活動・運動) ・地域連携推進センター長
教授	今岡 日出紀	・浜田キャンパス運営会議アドバイザー
准教授	沖村 理史	・地域連携コーディネーター(環境問題)
交流研究課長	島田 成毅	・委員
企画員	島田 満	
主任	藤原 秀樹	(～7.31)
企画員	岡崎 巧	(8.1～)
嘱託員	竹根 美雪	

## 平成 22 年度 浜田キャンパスの地域連携活動

平成 22 年度もさまざまな地域連携活動が実施された。詳細は次ページ以降に記載されているが、まずは、地域連携推進センターが直接的にかかわった事業として、開学 10 周年記念フォーラムが特筆されるであろう。「大学の使命と地域との協働——これまでの歩みと今後の可能性」と題され 10 月 15 日（金）に開催されたこのフォーラムは、10 年間の浜田キャンパスの地域連携活動を振り返ると同時に、これからの地域と大学との協働のあり方を考えるものとなった。

公開講座は、春・秋学期を合わせて、6 講座（29 回）が開催された。特徴的な講座としては、「石見に生きる——石見の元気人が話す」があげられる。この講座（8 回）では、地元、石見地域で活躍されている方々を講師に招き、活動を紹介いただくとともに、地域活性化のヒントをいただいた。多くのみなさんに受講いただき、好評を得ることができた。8 月 28 日（土）には、3 キャンパス合同講座「コミュニケーション力を高める、自己表現力を高める」が開催された。その他、6 回の出張講座も行っている。

学生ボランティア活動を支援するボランティアマイレージ制度も始動した。平成 22 年度は制度の完成までは至らなかったが、多くの学生が地域のみなさんからの依頼に応じ、ボランティア活動に参加した。活動に参加する学生には、大学が保険料を負担し、ボランティア活動保険に加入してもらっている。3 月 17 日（木）に開催された「地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会」の際には、活動回数が多かった学生の表彰も行った。

包括的な連携協力協定を結んでいる浜田市との連携事業も、継続して行った。中学校学習支援事業では、のべ 191 名の学生を派遣した。共同研究では、井上厚史ゼミ、光延忠彦ゼミがこれに取り組み、成果報告書をまとめるとともに、2 月 9 日（水）には本学交流センター・コンベンションホールにおいて開催された報告会において報告を行っている。

その他の委託研究・事業には、三江線活性化協議会から委託された「JR 三江線活性化調査研究事業」、島根県浜田県土整備事務所から委託された「中山間ふるさと土と水保全推進事業棚田ワークショップ業務」がある。また、5 年目となった北東アジア地域研究センターの市民研究員制度は、まさに学術面での地域連携活動として定着したといえるであろう。

紙面のつごうで、すべての地域連携活動に言及することはできないが、最後に、平成 22 年度に文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に採択された「学修と就業の一貫性を構築するキャリア教育」に触れておきたい。その一環として、平成 23 年度から 1 年生必修の演習科目として「フレッシュマン・フィールド・セミナー」が始まり、多くの学生がフィールドワークで地域に出かけていくことになる。ますます地域との連携が強化されることになるであろう。地元地域と大学との良好な関係が発展していくことを願いたい。

地域連携推進センター副センター長 林 秀司


# 開学 10 周年記念フォーラム（平成 22 年 10 月 15 日開催）

【10 年間の大学の歩み】

地域連携推進センター副センター長 林 秀司

島根県立大学は開学 10 周年を記念し、10 月 15 日（金）にフォーラム「大学の使命と地域との協働——これまでの歩みと今後の可能性」を開催した。島根県立大学は、2000 年 4 月の開学以来、「地域に生きる大学」として、教育、研究、交流などさまざまな側面で、島根県や地元地域との深い関係を築きあげてきた。大学の直接的な社会貢献、地域の知の拠点としての大学の活用が求められている近年にあって、地域と大学との関係はますます緊密なものになっていくことが期待される。

そこで、大学の 10 年間の歩みを、とくに地域との連携の観点を中心に振り返るとともに、島根県、とりわけ、大学が立地する石見地域の特徴をふまえた大学と地域の協働のあり方を考えるという趣旨で開催された。



**申込方法** 片道の学生用指定バス専用車（池田バス）で池田駅まで乗車し、徒歩で本校へ向かい、申込用紙を、島根県立大学コンベンションホールから入手できます。

**申込締切** 平成 22 年 10 月 9 日（金）


**参加費** 入場料

区分	学生	教職員	一般
当日	300 円	300 円	300 円
前払	200 円	200 円	200 円
前払	100 円	100 円	100 円

島根県立大学 開学 10 周年記念フォーラム

## 「大学の使命と地域との協働」

——これまでの歩みと今後の可能性——



**日時**：2010 年 10 月 15 日（金） 13:35 ~ 16:50  
**場所**：島根県立大学 売場センター 2F コンベンションホール  
**主催**：島根県立大学

### 開催趣意

島根県立大学は、2000 年 4 月に開学し、2007 年 4 月の島根県立島根女子短期大学、島根県立看護短期大学の統合・法人化を経て、今年 30 周年を迎えました。理工学研究会を前身とする総合教養学部（北東アジア地域研究センター）を開設し、2002 年から大学院北東アジア研究科及び研究開発科（2009 年）と北東アジア研究開発科として統合した島根県立大学は、この間「地域」に生きた大学として、教育、研究、交流など様々な側面で、島根県や地元地域との深い関係を築きあげてきました。大学の直接的な社会貢献、地域の知の拠点としての大学の活用が求められる近年にあって、地域と大学との関係はますます緊密なものになっていくことが期待されています。そこで、島根県立大学の 10 年間の歩みを、特に地域との連携の観点を中心に振り返るとともに、地域の未来を切り拓くために、島根県、とりわけ大学が立地する石見地域の発展を促した。これからの大学と地域の協働のあり方を考えてみたいと思います。

### 卒業生・在校生リレートーク

14:40 ~ 15:30

司会者：久保田 真（島根県立大学 地域教育課）  
 村上 孝太郎（山陰中央新報社）  
 副司会：正崎（シックス・プロデュース 東洋堂）  
 司会：藤本（島根県立山陰地域研究センター）  
 司会：藤本（島根県立大学 3 年生）  
 司会：藤本（島根県立大学 3 年生）

### Program

#### オープニング

13:35 ~

※開会による 10 年間の大学の歩みの紹介  
 大学の 10 年間の歩みと今後の可能性について行った様々な活動について、メディアショーで紹介します。

※あいさつ  
 林 秀司（地域連携推進センター 副センター長）

※挨拶  
 宇津 俊男（朝日新聞）

#### 基調講演

14:00 ~ 14:30

今年開催された島根県立大学卒業生は、国内外で地理研究や地理教育への関心を持って、活躍・貢献する卒業生が 72 名を数えました。地理の重要性のわきた卒業生が活躍していることについて紹介します。

**「地域に根ざした大学のあるべき姿」**  
 本田 誠一（島根県立大学 学長）

### パネルディスカッション

15:45 ~ 16:45

石見の地理特性、石見地域にとっての課題と今後の展望は何か、石見地域の未来の展望、地域と大学は関係がどのようにあるべきかについて議論します。

**「石見の地理特性と大学——可能性と展望——」**

パネリスト  
 藤本 真一（島根県立大学文化センター 学長）  
 藤本 真一（島根県立大学文化センター 学長）  
 中村 守司（山陰中央新報社 西日本社代表）  
 中川 隆（島根県立大学 地域連携推進センター）

コーディネーター  
 本田 誠一（島根県立大学 学長）

コーディネーター  
 藤本 真一（島根県立大学 学長）

### クロージング

16:45 ~ 16:50

※挨拶  
 井上 定彦（地域連携推進センター 学長）

## 【スライドショー】

開学 10 周年記念フォーラムは、島根県立大学の 10 年間の歩みと、地域の皆さまと共に行ったさまざまな活動の記録が盛り込まれたスライドショーの上映で幕を開けた。

開学からこれまでの 10 年分の思い出が凝縮されたこのスライドショーは、総合政策学部 3 年生の西野辰則さんと勝部聡さんが中心となり、約 1 ヶ月の期間をかけて制作された。

スライドショー制作にあたっては、まず、これまでに大学内外で行われた行事や、活動の記録写真を集めることから始まった。大学事務局で保管しているもの、その他教職員が保管しているものなど、数えきれないほどの写真を集めることができた。

次に、この膨大な写真の中から、スライドショーで使用する写真の選定を行った。限られた上映時間の中で、どの写真を載せ、どの写真を削るか。どの写真にもさまざまな思い出が刻み込まれており、その中からスライドショーで使用する写真を取捨選択するという作業は、想像以上に困難なものとなった。

こうして厳選された写真をパソコンに取り込み、Apple 社製の「iPhoto（画像管理ソフト）」、「iMovie（動画編集ソフト）」というソフトを使用して、一連のスライドショーに作り上げたのである。紙面の制約上、制作の詳細な過程をご紹介することはできないが、制作の中心となった西野君、勝部君はもとより、多くの教職員の「10 周年をお祝いしたい」という「アツイ」思いが詰まったスライドショーに仕上げることができた。

現在、本学の公式ホームページからこのスライドショーを視聴することができる。島根県立大学 10 年間の思い出が凝縮されたスライドショーを、ぜひご覧いただきたい。

<https://snweb.u-shimane.ac.jp/asx/others/o0105.html>

<https://snweb.u-shimane.ac.jp/asx/others/o0106.html>



## 【基調講演「地域に根差した大学のあるべき姿」 本田雄一学長】

### はじめに

2000年の開学以来、島根県立大学は地域に生きる大学として地域とともに歩んできました。また2010年に制定した島根県立大学憲章では、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現することを目標の一つとして掲げ、地域貢献に積極的に取り組む姿勢を確認・提示しています。



▼基調講演をする本田学長

そもそもなぜ大学が地域社会と連携し、また地域に貢献していかなければならないのか、今日はその背景を簡単におさらいしたうえで、島根県立大学の具体的な取り組みを少しご紹介し、地域に根差した大学のあるべき姿について考えてみたいと思います。

### 大学法人化と大学を取り巻く環境

本学は2007年4月に法人化し、公立大学法人島根県立大学となりました。法人化したというのは、大学独自の目標・計画に基づいて自律的に大学運営を行う体制・制度になったということです。自律的な財務・人事運用が可能になったわけですが、同時にまた責任も持たなければならなくなったともいえます。

現在、日本には国公立合わせて756の大学があると言われています。一方、18歳人口の減少により、大学全入時代が到来しつつあります。高卒者の進学率がまだ上昇し続けていますので、進学希望者の数が大学の入学総定員を下回るころまでは行っていませんが、入学希望の偏在によって、既に定員割れを起こしている地方大学は少なくないと言われています。統計によっては4割の大学が何らかの形で入学定員を割り込んでいるといます。殆どの大学が法人格を取得し、限られた進学者のなかから優秀な学生を獲得すべく、熾烈な競争を展開していると言える現状があります。国内のみならず、世界を視野に入れた大学間競争が激化しているのが現実です。

こういった状況に鑑みて、文部科学省も、大学の個性を明確化し存在意義を明らかにすることがいま求められていると指摘しています。

地方にある公立大学、しかも規模が比較的小さい大学は、とりわけ厳しい状況におかれているといわなければなりません。では、島根県立大学は、こういった特色を打ち出し、どこに存在意義を見出してゆけばいいのでしょうか。

大学の機能は教育・研究そして社会貢献であると言われています。教育・研究において切磋琢磨し特色を出してゆくこと、これは当然のことです。本学では北東アジア地域研究を中心に据えてすでに一定の成果をあげてきています。

それに加えて、地方にある公立大学の存在意義の重要な部分は社会貢献、特に地域社会との連携を通じた地域活性化への貢献に見いだされるのではないかと考えます。拠点をおいている地域



に根ざし、地域にその存在意義を認めてもらうことなしには、大学が存続することは——とりわけ地方の小規模公立大学のばあいには——かないません。

#### **教育基本法（改正、2006年12月22日公布・施行）**

大学の役割に関して、2006年12月、教育基本法が戦後60年以上を経て改正され、新たに、第7条として「大学」の条項が設けられました。

その中では、「大学は、学術の中心として、……深く真理を探究するとともに、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」ことが明文化されています。つまり、教育基本法という法律のレベルでも社会に貢献することが大学の義務として定められたのです。

#### **我が国の高等教育の将来像（答申）（2005年1月28日）**

教育基本法の改正に先行すること約2年、2005年1月に「中央教育審議会」は高等教育に関して、「我が国の高等教育の将来像」という答申を出しました。

この答申では、「21世紀は、新しい知識・情報・技術が……飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」（knowledge-based society）の時代である」と捉えられています。

そして、「人々の知的活動・創造力が最大の資源である我が国にとって、優れた人材の養成と科学技術の振興は不可欠であり、高等教育の危機は社会の危機である。我が国社会が活力ある発展を続けるためには、高等教育を時代の牽引車として社会の負託に十分こたえるものへと変革し、社会の側がこれを積極的に支援するという双方向の関係の構築が不可欠である」と述べ、大学を社会の負託に応えるものへと変革していかなければならないことを明確にしています。その上で、社会が大学を積極的に支える双方向の関係の構築が不可欠であるとしているわけです。

つまり、地域基盤社会である21世紀にあっては、大学は社会を牽引するものとして社会の期待に応え貢献することなしに、社会からの支援を得ることはできないということです。今日、大学にとって社会貢献が重要であるといわれる所以です。

#### **公立大学法人島根県立大学定款（2006年10月4日制定）**

上記のような、社会状況の中で、島根県立大学は2007年4月に法人化されました。島根県立大学を設置する公立大学法人として、公立大学法人島根県立大学が島根県によって設立されたわけですね。

公立大学法人島根県立大学定款では、「第1条（目的）この公立大学法人は……地域に知の還元を行うことで、地域社会の活性化及び発展に寄与し、さらに、国際社会に貢献することを目指し、大学を設置し、および管理することを目的とする」と規定しています。従って、この公立大学法人が設置する二つの大学、すなわち島根県立大学と島根県立大学短期大学部において、「地域に知の還元を行うことで、地域社会の活性化及び発展に寄与」することが求められることは言うまでもありません。

## 島根県立大学憲章（2010年4月）

公立大学法人島根県立大学は、新たな大学構想の集大成として「島根県立大学憲章」を策定し、大学がめざすべきものを明文化しました。そこでは、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を目標とすることを謳うとともに、「地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献し、「地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって、地域に貢献する大学となることをめざす」こととしています。

大学憲章は大学の理念・目標を定式化したものであり、大学の全ての業務は、その実現に向けて実施されることとなります。憲章の大きな要素として、地域と連携しながら地域社会に貢献することが明示されました。地域連携が占める位置は、島根県立大学にとって極めて重要であると言わなければなりません。



▼島根県立大学憲章

## 島根県立大学の地域貢献

こういった認識のもと、公立大学法人島根県立大学は浜田・出雲・松江の3つのキャンパスでさまざまな地域貢献活動をおこなっています。限られた時間の中ですべての取り組みを詳しくご紹介することはできませんが、今日は大きく三つの分野——生涯学習活動・教育研究活動・その他の取り組み——にわけて、島根県立大学が取り組んでいる地域貢献活動の全体像をお示ししておきたいと思います。

## 生涯学習活動

まず生涯学習活動ですが、これは学びたいという意欲を持った社会人の方々にむけて知識習得の場を提供しようとするものです。「21世紀・地球講座」や「椿の道アカデミー」といった公開講座では、本学の教員がみずからの研究成果をわかりやすいかたちで市民のみなさまにお話ししています。たとえば今年度、浜田キャンパスでは「石見に生きる～石見の元気人が話す」「本と図書館のわくわくツアー」といったテーマで講座を提供しています。

また、より高度な知識を得たいと考える市民の方々のために、大学院レベルの講義をおこなう「NEAR カレッジ」も2010年の春まで提供していました。

それに、島根県に根差した大学として、地元についての研究成果を県民のみなさまと共有する場として、公開授業「現代しまね学入門」なども実施してきました。

さらに職業人を育成する松江キャンパス・出雲キャンパスでは、すでに社会で活躍する栄養士

や保育士、助産師のかたがたを対象としたリカレント講座、つまり〈学び直し〉の機会も提供しています。

リカレント教育への本学の特徴的な取り組みとして、「周産期からの子育て支援拡充に向けた専門職再教育プログラムの開発」というものをご紹介します。これは文部科学省が先進的な取り組みに対して助成をおこなう GP (Good Practice) 事業に採択されて 2007 年度から 2009 年度まで実施したものです。要するに社会人の学び直しのニーズに応えようとするプログラムです。

助産師・保健師・看護師・栄養士・管理栄養士・保育士・幼稚園教諭・養護教諭・特別支援学校教諭・小学校教諭といった専門資格を持つ方々にスキルアップや職場復帰の機会を提供しようとするもので、基礎コースを 1038 名が修了し、専門コースをのべ 475 名が履修しています。これだけの参加者をひきつけることができたのも、まさに地域に根差したニーズに応えるプログラムを提供できたからであると考えています。

### 教育研究活動

先にもすこしふれたように、大学の本分は教育・研究にあります。したがって、地域連携・地域貢献をする際にも、教育・研究を通じて地域のお役に立つ、ということが柱となるはず。島根県立大学ももちろんそこに注力してきました。

まず、中学校や高校など、地域の他の教育機関との連携を積極的に深めてきました。たとえば浜田高校・江津高校とは高大連携の協定を取り交わしていますし、松江では保育園・小学校・中学校・高校の連携を実現しています。

また自治体などから委託を受けて研究を行ったり、地域の研究機関と共同研究を行ったりといった取り組みも盛んに展開されています。介護予防教育についての出雲市からの受託研究や食の安全についての浜田市からの受託研究は、いずれも地域のニーズにもとづいて地域の課題に正面から取り組むものです。また、島根県の県土の 85% は中山間地域です。中山間地域研究センターとの共同研究プロジェクト〈やさか郷づくり〉はそういった島根県の特徴をいかしつつ脱温暖化・環境共生の生活を模索するもので、多方面から注目を集めています。

また大学の授業でも地域の課題に取り組む学生が多くいます。ゼミ活動、とりわけフィールドワークで地域の現場に飛び込み、島根の地域が直面しているさまざまな問題を肌で感じつつ、その解決策を模索する、こういった形式の学びが本学の教育活動においてきわめて重要な位置を占めています。これまでも棚田の活用や銀山街道の調査など、具体的な地域の課題に多くの学生が意欲的に取り組んできています。

そしてそういった学習・研究の成果は、キャンパスを去る際に卒業研究としてまとめあげられるわけですが、本学では地域振興について優れた提言をおこなった卒業研究の報告会を開催し、とくに優秀なものについては〈浜田市長賞〉を授与していただいています。昨年度の優秀卒業研究のテーマには、「低炭素社会の実現に向けた電力対策～島根県を中心として」や『『銀山街道』の地域ブランドとしての可能性』といったものが見られます。

また本学は、全国的にもあまりほかに例がない「市民研究員制度」という仕組みをもっています。これは、豊富な知識を持つ地域の方々に本学の北東アジア地域研究センターの市民研究員になっていただき、相互に知識とリソースを交換しながら互いの研究をさらに高めていこうとするものです。また、大学院生との共同研究にも取り組んでいただいています。今年度も40名をこえる方々にご登録くださいました。

それにいうまでもないことですが、教員は各々みずからの研究に従事しており、その中には地域の問題に直結する研究課題に取り組んでいるものも多くいます。島根県立大学では、「地域貢献プロジェクト助成事業」によって自治体との共同研究や島根県に關係する研究を奨励・援助しています。毎年予算300万円を確保し、2件から4件ほどのプロジェクトを助成しているのですが、今年は過去最多の6件が採択されました。たとえば、「産学官連携による石見の中国人向け観光誘致プラン」・「地域を基盤とする老年看護教育の評価」・「津和野の西周 アジアの西周」といったテーマで研究が推進されています。

### その他の活動

そのほかにも、サークルなどでの学生ボランティアの活動や、県や自治体のさまざまな組織への諮問委員等の派遣、NPOや企業との連携などを通じて地域貢献を推進しています。また、地域の方々に来学していただき、知的な刺激を感じていただくとともに楽しんでいただくというイベントもいろいろと開催しています。なかでも、松江キャンパスの〈ほいくまつり〉は37年にわたって毎年欠かさず開催されてきたもので、毎年1500人の子供たちと保護者の方々にお楽しみいただいています。

このように島根県立大学は積極的に地域連携・地域貢献に取り組んできました。その窓口となっているのが、「地域連携推進センター」です。大学の地域貢献活動の窓口・コーディネートを担当する部署であり、地域連携・地域貢献を重視する本学にとって重要な組織であるといえます。

最後に、本学が新しく取り組み始めている特徴的な教育プログラムをひとつご紹介しておきたいと思います。文部科学省のGood Practiceプログラムに今年度採択された「学修と就業の一貫性を構築するキャリア教育」の取り組みがそれです。これは、地域で活躍する人材を地域と大学が協働して育成しようとする試みです。

本学には地域に関心を持って入学してくる学生が多くいます。このプログラムでは、学生に地域社会の実際の現場に肌で触れてもらうために、1年次の学生全員に「フレッシュマン・フィールド・セミナー」という授業を履修してもらう計画としています。つまり、地域社会の公的機関やさまざまな業種の企業、職業団体、NPOなどに学生を一定期間受け入れていただき、地域社会で働くということはどういうことなのか、また地域が直面している課題はなになのか、といったことを身をもって学生に考えてもらう。それによって勉学と就業への意欲を高めてもらう。こういったことを目的としています。

フィールド・セミナーを終えた学生は、地域の現場で得た知識や問題意識をもとに引き続き大学での勉強を続けてゆきます。また、大学は継続的にキャリア形成のサポートも行います。そう

して教育を受けた学生が卒業し就職するときには、地域社会にとっても有益な人材、つまり地域の問題を理解して地域で活躍する職業人となっているのではないのでしょうか。

こういった取り組みを成功させるには、「フィールド・セミナー」の学生を受け入れてくださる地元の企業やさまざまな組織の協力が不可欠です。地域社会の支えなしに教育を成立させることはできないわけです。他方で、そういった経験を経て大学を卒業した学生は、今度は地域社会にとってプラスになる有用な人材となる、つまり大学が地域社会の人材育成に貢献する。このような地域社会と大学の双方向的な関係を確立しようというのがこのプロジェクトのねらいであり、また島根県立大学のめざすところでもあります。

簡単に今後の展望と島根県立大学がこれからめざすべき方向を示し、私のおはなしを終えさせていただきます。

法人化を経て3つのキャンパスが統合し、それぞれにキャンパスに地域連携推進センターの窓口が設置されたわけですが、今後はそれぞれの地域の実情にあった地域連携・地域貢献を進めるのと同時に、大学法人全体として、3キャンパスが協力して一段と質の高い地域連携を進めることが期待されます。



▼基調講演をする本田学長

またさらに重要なことですが、さきほど「フィールド・セミナー」について説明をしたさいにもふれたように、地域と大学との双方向的な協力関係を発展・強化させてゆくこと、ここにも注力してまいりたいと考えています。

いずれにせよ、研究教育の基礎を確固たるものとし、それに支えられた地域連携・地域貢献を既存の活動のうえにしっかりと積み重ねてゆくことによって、大学憲章にうたっている「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」をめざすこと、これが島根県立大学が今後めざしてゆく方向であり、また、地域に根差した大学のあるべき姿であると確信しています。

ご清聴ありがとうございました。

## 【卒業生・在校生リレートーク】

「卒業生・在校生リレートーク」においては、本学を卒業され、すでに各界でご活躍されている方々にご登壇いただき、現在のご活躍の一端を紹介いただくとともに、大学での思い出や今後の抱負を含めてご講演をいただくこととなった。

以下リレートークの内容を報告順に紹介する。



▼リレートークに参加された皆さん

### ◎村上栄太郎さん（山陰中央新報社編集局生活文化部記者）

2000年に入学した村上さんは、開学当初から学生組織である学友会を通じた活動を積極的に行った。「海遊祭」（大学祭）ではその企画立案をとおして、関係各所への依頼・働きかけを行うなど、地域の方々と関わる機会が多くあった。こうした体験は、就職先を含め、その後の自分自身の生活に大きな影響を及ぼした。

### ◎久保田翼さん（浜田市企画財政部地域政策課）

2004年に浜田市に入庁した久保田さんは出身が岡山県倉敷市であり、若くして浜田へのIターンを果たした。入学当初から「地域のために働きたい」という意識があり、行政職に関心を持っていた。特に、大学時代の講義等で浜田周辺の地域・文化や地域の方々に身近に触れあうことができたことは、現在の職に就くにあたって大きな影響を与えた。そのうえで、本学学生には、いろいろなチャンスを利用して地域に出掛けて行ってほしい。

### ◎洲濱正明さん（有限会社シックスプロデュース代表取締役社長）

牛舎のない自然放牧による牧場づくりを目指す洲濱さんは、大学時代は起業を志しながら、世界各地を転々と旅しながら起業のヒントを得ようとしていた。そのような中、ある自然放牧酪農家と出会い、古来の伝統技術こそ現代社会で求められている製品作りに活かせるのではないかと考え、現在に至る。現在は、自然放牧による酪農で牛に最大限の愛情を注ぎながら製品づくりを行ったり、最近では休耕地を牧草地として活用するなど、里山の保全にも一役買っている。

### ◎藤本稔彦さん（独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センターアソシエイトフェロー／島根県中山間地域研究センター客員研究員／島根県立大学非常勤研究員／特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド青少年大使リーダー）

2005年まで在学した藤本さんは、在学中に浜田市の一市民イベント「BB 大鍋フェスティバル」で本学学生約40名のボランティアを動員し、催しの盛り上げに大きく貢献した。藤本さんの「学生が積極的に地域にかかわっていくきっかけにしたい」という強い思いが、浜田商工会

議所青年部のスタッフを動かした。こうした活動は一朝一夕にできるものではなく、日ごろから密に意見交換を行うなど関係性を継続させておくことの必要性を強調した。

◎富岡秀行さん(島根県立大学 3 年生/学友会第 10 期執行委員会会長/第 7 回運動会開催実行委員会広報部部长)

富岡さんは、学友会関連の活動に積極的に取り組んでいる。「海遊祭」や運動会をはじめ、大学の行事は地域の方々にも広く参加していただいている。また、そうした地域の方々の協力なくしては成り立たない。先輩方の築き上げたものがあるからこそ、在学生会は地域に関わることができる。まさに「人が人を育てる」ということであり、そうした伝統は次の世代に引き継いでいくべきだと力説した。

◎司会：松永優紀さん(島根県立大学 4 年生/学友会第 9 期執行委員会会長/「島根地域政策支援のための大学の役割と可能性に関する研究会」(島根県立大学学術教育特別助成金・研究事業(共同研究))メンバー)

松永さんは司会として、全スピーカーの発言に関する整理を行った。いずれのスピーカーも大学との地域のかかわりを重視する姿勢に関する発言があったと指摘し、その重要性に対する思いを新たにすると述べた。また、自身が在学生会であることも踏まえ、先輩方の築き上げた財産を引継ぎ、大学が「人が人を作る」場として機能できるよう、次の世代に引き継いでいきたいと締めくくった。



▼司会を務めた松永さん

## 【パネルディスカッション「石見の地域特性と大学—可能性と展望」】

本田雄一学長の基調講演と卒業生・在校生リレートークの後を受け、「石見の地域特性と大学—可能性と展望」と題してパネルディスカッションを実施した。パネラーとして、澄川喜一さん（島根県芸術文化センター長）、楫野弘和さん（島根県西部県民センター所長）、中村守宏さん（山陰中央新報社西部本社代表）、中川哉さん（江津市産業振興部農林水産課定住対策係長）



▼パネラーの皆さま

にご発言いただきました。コメンテーターを本田雄一学長が、コーディネーターを松永桂子（本学准教授）が務めた。

澄川さんは、島根県芸術文化センターでの取り組みを踏まえ、「人が人を育てる」ことの意義について語られ、文化行政も大学もその立地する地域の人びとによって育てられていくと論じられた。また、島根県は文化力が高く、島根県立大学においても文化力を意識した教育を実践してもらいたいとのご提言をいただいた。

楫野さんは、島根県が進める中山間地域の振興や観光振興の成果についてご説明いただいた。近年「神楽」や「食」の分野で石見地域が盛り上がりつつあり、そうしたうねりを今後どのように持続発展させていくか、大学へ期待することを語っていただいた。

中村さんは、山陰中央新報は 18 万 3000 部を刊行する地域紙であり、山陰地域の現場に密着した報道を心がけており、大学の教育でも活用してもらいたいと話された。

中川さんは、人口減少と高齢化が進む石見地域では、地域課題が多くあり、そうした地域課題をビジネスに結び付けて解決していくことが必要だと論じられた。江津市では 2010 年度にソーシャルビジネスのビジネスプランコンテストを実施し、独自のビジネス支援をしている。今後は大学と連携を深め、インターンシップとして学生を受け入れるなどの受け皿づくりを進めたいとのことであった。

これらパネリストのご発言を受け、本田学長は、島根県立大学は地域を教育の場、研究の場として位置づけ、地域からの期待に応えるべく、地域と大学のますますの連携を図りたいと抱負を語った。



▼本田学長と松永准教授



**【むすびのことば 井上定彦 地域連携推進センター長】**

まずもって、本会場一杯にご参加いただいた市民の皆さん、学生諸君にお礼申しあげる。

本学開学10周年記念事業にふさわしく大学と地域に関わる学長の基調講演をいただき、また学生達のこの10年の成長を感じさせるバラエティに富んだ卒業生・在校生のリレートーク、そして何っていて楽しくなるようなこの地域の輝きを実感できた濃い内容のパネル・ディスカッションと、それほど長い時間ではなかったにも関わらず、充実したフォーラムになったと思う。ご登壇・ご協力をいただいた皆様にあらためて御礼申し上げます。

私どもは今回のフォーラムに示された到達点をふまえながら、大学と地域の連携・協働をさらに前に進めてゆく努力を続けてゆきたい。



▼謝辞を述べる井上センター長

## 棚田ワークショップ

平成 21 年度に引き続き、島根県浜田県土整備事務所より中山間ふるさと水と土保全推進事業の棚田ワークショップを受託、実施した。これは、浜田市旭町都川地区、同来尾地区、三隅町室谷地区の 3 か所について、地域の将来像を明確にし、棚田の適切な保全管理に必要な地域活動の展開方向を見出すことを目的としたものである。前年度に続き、1～2 回のワークショップと祭への参加、ブログ作成などの実践的活動を行い、その成果を報告書にまとめた。なお、都川地区は井上厚史ゼミが、来尾地区および室谷地区は林秀司ゼミがそれぞれ担当した。実施状況の概要はつぎのとおりである。

### (1) 都川地区

10 月 20 日・21 日 … 田代神社秋祭り（前夜祭を含む）参加

11 月 7 日 … 「都川やまびこ祭り」参加

2 月 6 日 … 第 3 回ワークショップ

### (2) 来尾地区

12 月 3 日 … 第 4 回ワークショップ（於 市木生活改善センター）

2 月 28 日 … 第 5 回ワークショップ（於 市木生活改善センター）

その他、ブログ（<http://ameblo.jp/kitao-tanada/>）の作成を行った。

### (3) 室谷地区

9 月～10 月 … 「棚田保全と地域づくりについての意識調査」（住民アンケート）実施

9 月 28 日・29 日 … 「ワーキング・ホリデー in 室谷」実施

12 月 1 日 … 第 4 回ワークショップ（於 上室谷集会所）

3 月 5 日 … 第 5 回ワークショップ（於 上室谷集会所）

その他、「棚田ワークショップ通信」を発行した（2 回、全戸配布）。



ワークショップのようす（来尾地区）

（2010 年 12 月 3 日撮影）



「ワーキング・ホリデー in 室谷」のようす

（2010 年 9 月 28 日撮影）

## JR 三江線活性化調査研究事業

JR 三江線活性化に関する調査研究について、三江線活性化協議会から島根県立大学に依頼があり、光延ゼミと松永ゼミの二つのゼミが調査を請け負った。三江線活性化協議会は、JR 西日本、島根県交通対策課、島根県西部県民センター、島根県江津市、邑南町、川本町、美郷町、広島県安芸高田市、三次市など三江線沿線の3市3町などによって構成されている。

本事業では、学生たちが主体的に沿線地域や他地域の調査を行い、年度末に提言を記した報告書を作成し、報告会も実施するなどして、双方の意見を深めながら進めてきた。

また、三江線活性化協議会が補助事業による調査を委託するシーズ総合研究所などとも共同して、三江線沿線の3市3町において地域住民との意見交換会や、モニターツアーなども企画、実施してきた。

光延ゼミでは他地域の沿線の先進事例との比較を試み、三江線の観光路線化についての提言がなされた。2月に実施した報告会では、それらの提言をまとめ、三江線の何が魅力であり、どのようなPRをすればよいか、また逆に改善点などを具体的に述べ、印象深いプレゼンを実施した。

松永ゼミでは「JR 三江線沿線の地域資源と産業振興の可能性」について特に調査し、各市町の産業振興担当者のご支援の下、地域の企業や団体を訪問させていただいた。7月に三次市、9月に邑南町、川本町、美郷町、安芸高田市をゼミ合宿で訪問し、その後の事後調査で各グループが何度も当地を訪れ、調査を進めてきた。また、11月のモニタリングツアーに参加した学生を中心に、三江線を観光路線にするために何が必要か議論を交わしてきた。

本事業を通して、条件不利とされる中山間地域で地域活性化に携わる担当者の話に耳を傾け、現場で働く地域の人たちの姿を目の当たりにし、若い学生たちは何かしらを学んだ様子であった。三江線活性化といった具体的なテーマについて、関係者と意見交換を重ね、地域とともに歩む大学として、現場に入り、地域産業の可能性を考える良い機会となった。



▼三江線活性化協議会モニターツアー

## 「津和野の西周」から「アジアの西周」へ

西周は明治日本の代表的な啓蒙思想家の一人として、近代日本に大きな足跡を残した。島根県立大学西周研究会は、地域の先人西周に関する研究を長年続けてきており、学術研究を通じて地域に貢献できるよう努めている。「西周シンポジウム」を開催して、西周に関する知識や研究を紹介することは、地域の貴重な知的、文化的資源を発掘し広めるための重要な活動である。毎年津和野で開催される「西周シンポジウム」は、人々の関心を集め、地元の高校生を含む多くの地域の方々がシンポジウムに足を運ぶようになった。従来、森鷗外の陰に隠されていた西周の名も、地元の方々によってようやく注目されるようになった。

このような成果をさらに拡大させるために、西周研究会は、2010年度も引き続き「西周シンポジウム」を開催して、『津和野の西周』から『アジアの西周』へ」というテーマで西周の意義を地域の方々と共に考えることにした。今年度は例年を上回る地域の方々がシンポジウムに出席し、熱心に聞き入った。

シンポジウムでは、本学の本田雄一学長と津和野町教育委員会の斎藤誠教育長による挨拶のあと、第一部で、本学の井上厚史教授が「西周と荻生徂徠」という題目で報告を行った。井上報告は、西周をめぐる評価を多角的視点から検討し、多くの資料を駆使しながら西周の面白さをわかりやすく説明した。これに対して、松田宏一郎（立教大学教授）、菅原光（専修大学准教授）、松島弘（津和野町文化財保護審議会会長）各氏によるコメントがなされた。

シンポジウムの第二部は、近代の「万国公法」（国際法）の翻訳を手がかりに、西周の意義をより広くアジアのなかで考えようとしたものだった。「万国公法」の翻訳は、近代東アジアの人々の世界観に根本的な変化をもたらした。オランダに留学した西周は、直接教えを受けたライデン大学のフィッセリングの口述による「万国公法」を日本語に翻訳した。このことは、西周が同時代の世界大勢の変化をいかに鋭敏に察知し、その重要性を認識したかを物語っている。他方、「万国公法」は、同時代の中国や韓国、さらにモンゴルでも受容され、大きな影響を及ぼした。西周が「万国公法」を翻訳した意義を、同時代の東アジア各国における受容と展開の様相を比較するのがシンポジウムの狙いであった。大久保健晴（明治大学専任講師）、金鳳珍（北九州市立大学教授）、橘誠（日本学術振興会特別研究員）各氏が、それぞれ「幕末明治初期における「万国公法」受容と文明化構想—西周と津田真道のオランダ留学を中心に—」、「近代朝鮮と万国公法」、「モンゴルにおける「万国公法」の受容と適用」という題目で報告を行った。以上の三つの報告に対して、飯田泰三（島根県立大学教授）、高坂史朗（大阪市立大学教授）、石田徹（早稲田大学助教）、李曉東（島根県立大学准教授）がコメントをした。そのあと、会場では活発な議論が交わされ、たいへん充実したシンポジウムになった。そして、地元の方々から、「西周の偉大さを再認識することができた」、「今後もシンポジウムを続けてほしい」などの感想や要望が寄せられたことは何よりも心強かった。（文責：李曉東）

## NEAR センター市民研究員制度

日本海をはさんで北東アジア地域に接する島根県とその周辺には、様々な視点からこの地域に強い興味を抱き、知識を蓄えている市民がいる。島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEAR センター）では、日本を含む北東アジア地域の研究に強い興味を持っているこれら市民の方々に NEAR センターの市民研究員として共に研究していただく「NEAR センター市民研究員制度」を平成 18 年度に創設した。

市民研究員は NEAR センターに所属し、研究会等への参画を通じて自らの興味関心に基づく研究活動に取り組むほか、研究テーマで意気投合した本学の大学院生と共同研究を行うなど、大学院生の研究に刺激を与えていただいている。

平成 22 年度における市民研究員の研究成果は、平成 23 年 1 月 29 日（土）に開催された市民研究員研究報告会 及び 平成 23 年 3 月 5 日（土）に開催された市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会でそれぞれ発表された。

また、過去 3 年分の市民研究員の活動成果をまとめた『「NEAR センター市民研究員制度」活動報告書 2008～2010』を作成し、関係者に配布した。



## 浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告書

### 1. 一大学生と浜田市が協働で行う「地域活性化サイト」の構築— 井上厚史ゼミ学生

- 1) 「大学生がつくる地域活性化サイト」制作の経緯
    - ・季刊誌「タナディアン」に対する反応がなかったため、もっと広域的な情報発信を目指す
  - 2) 2008～2009年度の活動
    - ・銀山班、観光班、農業班、棚田班の「四つの石見の宝」の調査、および銀山街道と大麻山倶楽部での活動実績を積むとともに、データの蓄積を行った。
  - 3) 2010年度の活動と蓄積したデータの公開
- ◎新しく構築した「大学生がつくる地域活性化サイト」の紹介

<http://rds.v.u-shimane.ac.jp/t/a-inoue/index.html>

- ・銀山班～「オレの銀山」
- ・観光班～「いわみ漫遊」
- ・農業班～「はじめての農業体験」
- ・棚田班～「だんだん棚田」



### 2. 一「学園と歴史のまち・浜田」づくりのための調査研究— 光延忠彦ゼミ学生

人口減少傾向への対処などをはじめ、浜田市の抱える諸課題のうち一端について、一定の提言を試みようとして「観光による地域社会の発展」という視点に着目して「学園と歴史のまち、浜田」づくりを、学生の意識に基づいて提案した。



## 文部科学省 GP「優れた取組 (Good Practice)」事業

平成 22 年度「大学生の就業力育成支援事業」(就業力 GP) に浜田キャンパスの「学修と就業の一貫性を構築するキャリア教育」が採択された。

これは、入学初年次から地域の職業人と接し、自らの学修目的を明確化することで、自らが望んだ職業に就く能力を学生に身につけさせることを目的とする事業である。

初年次の学生を社会の「現場」(行政/地方自治/経済・経営/中山間地域/地域と国際/文化・伝統)に連れ出し、現実と触れさせることで、課題と学びの目標を探求させる学修システム「フレッシュマン・フィールド・セミナー」を実施する。

この取り組みの要となる地域コーディネーターを地域連携推進室に配置し、今後 5 年間、学生の地域課題発見活動をフォローアップしていくこととなった。

**全体スケジュール(平成22年度～平成26年度)**

学年	目標	キャリア支援
平成22年度	就職力向上支援とキャリア教育 フレッシュマン・フィールド・セミナー	OB・OG企業実践授業、就職指導 キャリアデザイン・ワークショップ キャリアガイダンス
平成23年度	フレッシュマン・フィールド・セミナー キャリアデザイン・ワークショップ	OB・OG企業実践授業(企業・地域) キャリアデザイン・ワークショップ キャリアガイダンス
平成24年度	フレッシュマン・フィールド・セミナー キャリアデザイン・ワークショップ	OB・OG企業実践授業(企業・地域) キャリアデザイン・ワークショップ キャリアガイダンス
平成25年度	フレッシュマン・フィールド・セミナー キャリアデザイン・ワークショップ	OB・OG企業実践授業(企業・地域) キャリアデザイン・ワークショップ キャリアガイダンス
平成26年度	就職力向上支援とキャリア教育 フレッシュマン・フィールド・セミナー	OB・OG企業実践授業、就職指導 キャリアデザイン・ワークショップ キャリアガイダンス

**GPとは...**

島根県立大学 総合就業部 就業力 GP Good Practice

**学修と就業の一貫性を構築するキャリア教育**

The University of Shimane

初年次から始める、  
主体性を持って就業できる  
学生の養成プログラム

THE UNIVERSITY OF SHIMANE  
島根県立大学

**選定取組の概要**

本取組は、就職力向上支援とキャリア教育の推進を図ることで、学生の就業力向上に貢献することを目的とする。就職力向上支援とキャリア教育の推進を図ることで、学生の就業力向上に貢献することを目的とする。

**現状**

- 就職力向上支援: 91%
- キャリア教育: 92%

**6つの新規プログラム**

- ① フレッシュマン・フィールド・セミナー
- ② 初年次ゼミ制度
- ③ 海外実習
- ④ キャリアサポート
- ⑤ キャリアカウンセリング
- ⑥ OB・OG企業調査

**効果**

高次の就業力を養成  
学生自らがキャリアデザインを描く

**評価・運営体制**

- キャリア教育評価委員会
- 学内評価委員会
- 学外評価委員会
- 実行委員会

**取組の目標**

就職力向上支援とキャリア教育の推進を図ることで、学生の就業力向上に貢献することを目的とする。

## 公開講座等の取り組み

島根県立大学では「地域と共に歩む大学」の一環として公開講座を開催している。平成22年度の公開講座は6テーマ、29講座を開催した。

① 石見に生きる～石見の元気人が話す

石見地域で活躍する方々をお招きし、活動紹介や具体的事例を通して、地域の魅力や活性化のヒントを探求する話題として、全8回開催。

② 外国人教員による比較文化論

外国人教員から見た日本の生活文化、教育、コミュニケーション等を自国のそれらとの違いを考察し、比較しながら相互の理解を深めていく講座。全10回開催。

③ 本と図書館のWaku2（わくわく）ツアー

春学期は図書館を知るためのプログラムを用意し、実際の図書館利用に焦点を当てた講座を開講した。秋学期は本の世界を旅する講座として、ドイツの思想家ハンナ・アレント『暗い時代の人々』を通して多彩な人々との交流と、17世紀フランスの詩人ラ・フォンテーヌの『寓話』からの教訓等が紹介された。全5回開催。

④ コミュニケーション力を高める、表現力を高める

3キャンパス合同での連携講座として開設。共通テーマとして、コミュニケーション力を選び、表現方法の工夫や聞く姿勢等に関する実践的な話題について解説した。全3回開催。

⑤ 島根で暮らす、環境共生という生き方

食料やエネルギーの資源枯渇、気候変動など地球規模の「環境危機」を前にして、持続可能な社会をいかに取り戻すのか、「島根で暮らす」という視点にこだわって考えた。全5回開催。なお、本講座はJST（独立行政法人科学技術振興機構）の補助事業を活用して開催された。



▼公開講座の一場面

⑥ 日本語と日本語教育

日本語自体に興味を持っている方、これから外国人に日本語を教えてみたい方のための「外国語としての日本語」の基礎知識とその教え方に関する講座。全3回開講。



## 地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会の取り組み

本発表会は平成15年度から数えて第8回目を迎えた。今年は担当指導教員から学部卒業研究15点、修士論文1点の推薦があり、地域連携推進センターの教員が査読評価を行った。

### ■評価基準■

- ① 「地域振興に係る提言を含む」ものという視点からみた主題の適切さ
- ② 地域社会に関わる具体的分析や政策分析を含んでいるか
- ③ 研究・論文として水準が標準以上のものであるか
- ④ 記述・論述の仕方の適切性、根拠となる資料の明示等

今回表彰された研究は、離島における地域活性化、超少子高齢化問題、環境問題など現代社会が掲げる本学総合政策学部の教育趣旨に沿ったものであり、学生の努力の賜物であるが、浜田市をはじめとする地域の皆さんの協力がなければここまでの成果は得られなかったであろう。

また、今年度も浜田市長賞を授与していただくこととなった。全国的に見ても大学の教育活動に市が密接にご協力いただけるのは極めて珍しい。学生生活を送った市からこのような形で評価をいただくことは、学生の今後の人生にとって大きな励みとなるだろう。



▼奨励賞を受賞されたみなさん



▼浜田市長賞を受賞された西川明教さん

### 発表会の概要は以下のとおり

- ・日 時：平成23年3月17日（木）15:00～17:30
- ・場 所：島根県立大学 講義研究棟 大講義室1
- ・その他：この発表に先立ち、地域ボランティア活動報告会（表彰式）も開催

### ■発表者■

発表1	山口県大島郡周防大島町における産業振興 —超少子高齢化社会を迎える島の新たな挑戦—	植本高行さん
発表2	レジ袋削減対策は環境意識の向上に寄与するのか —島根県四市の取り組みを事例に—	川崎綾音さん
発表3	浜田市のごみ問題について —分別収集のあり方と市民意識の向上—	中村睦さん
発表4	離島における地域活性化	並河真和さん
発表5	地域密着型金融を考える —リレーションシップ・バンキングと地域貢献—	西川明教さん

## 高大連携の取り組み

島根県立大学と島根県立浜田高校及び島根県立江津高校とはそれぞれ平成16年、平成19年に高大連携包括協力協定を締結し、相互の特色を活かした連携活動を行っている。

### 【島根県立浜田高校】

平成16.11.18 高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講座、ゼミ開放、教育実習生の受け入れ、学生交流など）を継続的に実施

平成22年度の活動状況

6/9 高大連携推進会議

6/11 大学見学会（今市分校1年生13名参加）

10/13 ゼミ（総合演習Ⅱ）体験（2年生7名参加）

10/26 大学見学会（模擬授業体験含む）（1年生223名参加）

### 【島根県立江津高校】

平成19.6.1 高大連携包括協力協定を締結、連携事業（出張講座、ゼミ開放、英語授業開放、学生交流など）を継続的に実施

平成22年度の活動状況

6/10 高大連携推進会議

7/8 大学授業体験（2年生97名参加）

10/13 ゼミ（総合演習Ⅱ）体験（普通科2年生9名参加）

10/14 イングリッシュワークショップⅡ体験（英語科19名参加）



▼模擬授業の様子



▼ゼミ体験の様子

## 大学生による中学校学習支援事業の取り組み

島根県立大学と浜田市との連携協力協定（平成 19.5.18 締結）に基づき、平成 19 年度から中学生の学力向上を目的として浜田市内の中学校に学生（学習支援員）を派遣し、生徒の勉強を支援している。

週 1～2 回 2 時間程度、放課後の時間を利用して、プリント学習等で生徒が解けなかった問題を中心に教えている。

平成 22 年度は延べ 191 人がこの事業に従事した。

生徒と年齢が近いこともあり、勉強だけでなく、いろいろな悩みの相談なども受けていたようである。

### 【派遣先】

- ・浜田第一中学校（平成 19 年度～）
- ・浜田第二中学校（平成 19 年度～）
- ・浜田第三中学校（平成 19 年度～）
- ・浜田東中学校（平成 20 年度～）
- ・金城中学校（平成 20 年度～）

### 【派遣実績】

- ・平成 19 年度：6 名、延べ 93 名
- ・平成 20 年度：11 名、延べ 128 名
- ・平成 21 年度：14 名、延べ 201 名
- ・平成 22 年度：14 名、延べ 191 名

### ■参加学生の感想■

今回、初めて学習支援に参加させていただき、教えることはとても難しいことだと実感しました。相手の立場に立ち、どこがどうわからないのかを感じる事が大きなポイントでした。

また、一人一人の理解のスピードにも差があり、勉強意欲の高さにも差があったため、一人一人と向き合い、一人一人を理解してあげることが重要なことだと感じました。

短時間で中学生との人間関係を築くためには、こちら側もある程度の準備が必要だと感じました。（浜田三中・金城中参加学生）

学習支援員の体験は中学生の子達に塾の講師などでは体験できない、より身近なところで勉強を教える体験をすることができ、とても良かったです。生徒と打ち解けるには時間がかかりました。しかし、勉強を教えることで中学生が問題の解き方を理解したときには私自身も嬉しい気持ちになりました。そうした中で中学生の気持ちを少しずつ理解できたような気がします。この体験は将来きっと役立つと思っています。（浜田二中参加学生）



▼学習支援の様子（浜田一中）



▼学習支援の様子（浜田二中）

## 学生ボランティア活動とオープンキャンパスへの出展

島根県立大学は、地域の皆様と学生のかげ橋になることを目指して、学生のボランティア活動への参加を積極的に支援している。

これらの活動は、平成22年7月17日(土)、および平成22年9月18日(土)に開催されたオープンキャンパスで「地域連携推進センターの活動紹介」ブースを設置し、全国各地から来た高校生や保護者の方々に広く紹介した。

<http://hamada.u-shimane.ac.jp/communication/community/volunteer/>

### \*活動紹介パネルの一部

#### ▼主なボランティア活動

中学校学習支援
グラウンド整備
託児ボランティア
山間地域の側溝掃除と草刈り
通学合宿
ブルーベリー摘み
美術館での創作活動支援
地域交流活動支援
医療センター介助ボランティア
わくわく理科講座補助
公民館クリスマス会補助
障がい者保育サポーター
学童保育ボランティア
馬術大会ボランティア
視覚障がい者介助
日韓民族芸能交流会
児童サマーキャンプ補助
浜田市図書館支援
福祉センターデイサービス

### そうめん流し・きもだめし(学生ボランティア活動)

日時：7月3日 学生8名参加

**ボランティア内容**

地元の小学生が公民館でそうめん流しをしました。  
竹から器・はしを作り、みんなで楽しく食べました。その後、ボランティアが担任役となり、きもだめしを楽しみました。







**タイムスケジュール**

- 1:00～ きもだめし会場づくり
- 2:30～ 寄付手配
- 3:00～ 参加者と一緒に竹でつゆを入れる「うつわ」と「はし」を作ってもらう。
- 4:10～ そうめん流し
- 5:00～ 最初子ども達対象だったのでそうめんを流してもらいました。30分くらい子ども達と一緒にゲームをして遊んでもらいました。
- 6:00～ きもだめし(おどかす担当)
- 7:00～ 片づけ(7:30 終了)

**依頼者からの感想**

大学生の方には大変お世話になりました。きもだめしの振り付けも若い人のアイデアが出てよかったです。ありがとうございました。



### 地域の子供たちと一緒に(学生ボランティア活動)

6月21日 学生4名参加

**ボランティア内容**

小学生とパン作りをしたり遊んだりして過ごす。






**依頼者からの感想**

学生の皆さん、積極的に動いて下さって、本当に助かりました。  
パン作りや片づけはもちろんのこと、子供達のパワーに驚れもせず、最後まで笑顔で相手をして下さってありがとうございました。やっぱり若いお兄さん、お姉さん達は、子供達の人気で、失礼なことを言ったり、した子どもいたかもしれませんが、悪気はなく、うれしい気持ちの表現のひとつと受け取って下さい。すみません。

どの子も、学生さんの事が大好きで、帰られる時はいつもでも手を振っていました。「また来てくれるかな?」と次に会うのを楽しみにしている子もいます。

親にだけは、あそこまで盛り上げられないよねと、大人で話をしていました。

本当にご苦労様でした。

また、お会いできればうれしくおもいます。



## 松江キャンパス

平成22年度 公立大学法人島根県立大学  
 地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期:平成22. 4.1~平成23. 3.31)

職名	氏名	備考
教授	山下 由紀恵	・地域連携推進センター副センター長
准教授	籠橋 有紀子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(高大連携)
講師	福井 一尊	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(教育機関連携)
教授	磯部 美津子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(公開講座連携)
講師	塩谷 もも	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(公開講座連携)
管理課長	玉木 治義	・事務局委員

## 松江キャンパス島根県立大学地域連携推進センター平成 22 年度事業概要 －地域をキャンパスに・キャンパスを地域に－

この度、平成 22 年度の松江キャンパス地域貢献活動を、以下のとおり公立大学法人島根県立大学の中期計画に従ってまとめました。

地域連携推進センターの設置（大学の自主的な地域貢献活動の総合窓口として、地域連携推進センターを設置し、地域貢献に関するコーディネート業務を実施する）

### 【地域連携推進委員会の活動】報告

県民への学習機会等の提供（県民のニーズに対応した体系的かつ継続的な学習機会を提供する）

### 【公開講座等の開催】報告、および第 1 部「公開講座の概要」

### 【リカレント講座の開催】報告、および第 1 部「講演会講師等」

地域活性化に対する支援（企業や県及び市町村等と連携し、情報の提供、受託研究や共同研究の実施、政策課題の解決に対する支援及び NPO 法人や民間団体等との協働による地域課題解決への支援を行う）

### 【地域活性化支援－企業・団体・NPO 法人等との連携】報告

### 【地域活性化支援－自治体等との連携】報告、および第 1 部「審議会委員等」

県内教育研究関係機関等との連携（地域の初等、中等教育や県内及び隣県の高等教育機関等と連携し、地域教育ネットワークの構築を図る）

### 【教育機関等との連携－保・幼・小・中・高・大の教育連携】報告

### 【教育課程のための地域の施設・機関との連携強化】報告

平成 22 年度の活動では、正課授業、ゼミ・サークル活動を通して、学生と地域の方々に活発な交流活動の姿が見られました。さらに、「学生地域ボランティア活動推進事業」によって、松江キャンパスの社会貢献がさらに進んだ一年であったと思われまます。圧縮されたカリキュラムの中、学生が地域貢献活動を通して、専門性をさらに高めようと心がける姿には、学外の教育関係機関からも高い評価をいただきました。

またこの一年、公開講座「椿の道アカデミー」を会員制度とする準備も進めることができました。新制度開始のこの機会に、平成 4 年度に開始した松江キャンパスの公開講座が、どのような道りで今日に至ったのか、この報告書で少しまとめてみました。平成 23 年度には、「椿の道アカデミー」は 20 年目に入ります。これまで、多くの講師の方々の熱意により、松江キャンパスの公開講座は形作られてきました。今後、「椿の道アカデミー」会員制度で新たな一步を踏み出すことができるかどうか、次世代の努力にかかっているといたえるでしょう。

地域連携推進センター副センター長 山下由紀恵

### 【地域連携推進委員会の活動】

松江キャンパスにおいては、地域連携推進委員会が、教育機関との連携、その他高大連携、公開講座での地域貢献の3部門で委員により窓口を分担した。

- ・委員長（地域連携推進センター副センター長） 山下由紀恵（保育学科教授）
- ・幼保園のぎ・乃木小学校・湖南中学校・松江商業高等学校との三者連携を含む教育機関との連携担当委員 福井一尊（保育学科講師）
- ・その他高大連携担当委員 籠橋有紀子（健康栄養学科准教授）
- ・公開講座での地域貢献担当委員(1) 磯部美津子（総合文化学科教授）
- ・公開講座での地域貢献担当委員(2) 塩谷もも（総合文化学科講師）

### 【公開講座等の開催】

第1部の一覧「公開講座の概要」に示すとおり、今年度は、公開講座「椿の道アカデミー」を13講座（全84回）開催した。

このうち7講座は「まつえ市民大学」との連携講座であり、松江市との協定の成果が示された。また、「総合文化講座～文化の新たなる視座～」において浜田キャンパスの教員1名（1回）出雲キャンパスの教員1名（1回）を講師に招き、連携して実施するとともに、講座内容の充実を図った。

平成19年度の統合法人化以前から、公開講座「椿の道アカデミー」には毎年延べ3,000人近い受講者が参加しており、社会人の生涯学習の場として地域に定着している。統合法人化以前は、地域の自治体・教育委員会と連携して学外講座も実施していたが、生涯学習の社会基盤が整備されたため、近年は各団体への講師派遣に切り替え、本学主催の学外講座は実施していない。19年度以降、年々講座の開催回数は減少しているが、1回あたりの参加者数が上昇して、延べ3,000人近い参加を維持している。

### 松江キャンパス公開講座「椿の道アカデミー」開催状況推移

	回数	延べ参加人数	1回当たり人数	学外会場
平成22年度	84回講座	3,083人	36.7人	
平成21年度	95回講座	2,925人	30.7人	
平成20年度	122回講座	3,423人	28.0人	
平成19年度	110回講座	2,996人	27.2人	
平成18年度学内	96回講座	3,305人	34.4人	
平成18年度学外	1回講座	62人	62.0人	(美郷町)
平成17年度学内	65回講座	2,434人	37.4人	
平成17年度学外	10回講座	350人	35.0人	(浜田市・隠岐の島町)



公開講座のうち「食と文化」では、一昨年度昨年度に引き続き、地域で食文化を支えるさまざまな分野の専門家を講師としてお招きし、開催した。講座で語られた「食と文化」についての情報は、貴重な教育資源として残すために、健康栄養学科の学生が書き起こし・校正に関わり、「公開講座報告書」として作成している。

今年度は、元島根県産業技術センター研究統括監の岩本正俊氏、島根県産業技術センター専門研究員の永瀬光俊氏を学外講師としてお招きし、さらに健康栄養学科の中塚敏之教授を学内講師として、「出雲そばの味わい」「島根の酒」「島根の蒲鉾」の3講座を開催した。受講者の方からは、「島根の食について改めて知る良い機会となった」「興味深い内容だった」など内容や今後の企画に期待する声を多く頂いた。受講者数は第1回41人、第2回36人、第3回30人であった。



▼第1回「出雲そばの味わい」左：そばの花 右：講師 中塚敏之 教授



▼第2回「島根の酒」講師 岩本正俊 氏

▼第3回「島根の蒲鉾」講師 永瀬光俊 氏

公開講座のうち、三保サト子教授による「源氏物語入門」は平成5年度に開始し、長年継続して地域から受講者が集い、松江キャンパスで開催されてきたものである。1年間で千人規模の延べ参加人数となるのは、松江キャンパスでは複数教員オムニバス形式による「総合文化講

座」と、三保サト子教授一名の講義「源氏物語入門」である。教授は定年をひかえ、平成 22 年度をもって講座「源氏物語入門」の幕を下ろされた。

### 三保サト子教授による「源氏物語入門」講座案内の言葉から

1	平成5年	源氏物語を原文で読んでみたい。でもひとりではつまらない。ちょっと心細い。—そんな思いを抱いておられる方のために、〈場〉を設けました。「桐壺」の巻から始めます。全五十四帖、「夢の浮橋」の巻は遥か雲居のかなたですが、ゆっくり歩いてみたいと思います。
2	平成6年	今期は「帚木」の巻から始まります。かのひかるの君は十七歳の青年になって登場します。
3	平成7年	本講座も今年で3年目を迎えました。「帚木」の巻の途中から始まります。物語は光の君(主人公)の恋を語り始めます。
4	平成8年	4年目を迎えて、今年は四の巻「夕顔」に入ります。皇位継承の望みを絶たれた光の君(主人公)は、ふとしたきっかけで謎の女性(夕顔)に出会います。それは、つかの間の、妖しく激しい恋でした。
5	平成9年	5年目を迎えて、今年は五の巻「若紫」に入ります。皇位継承の望みを失い、藤壺(父帝の妃)への断ち難い思いに懊悩する光の君(主人公)は、とある山荘で美しい少女に出会います。運命の出会い—それは少女にとって類稀なる「幸い人」への道であり、また、苦渋の人生の入口でもあったのです。光の君は、略奪同様にして少女を屋敷に引き取りましたが一。
6	平成10年	今年は、六の巻「末摘花」に入ります。かの藤壺の懐妊を記す五巻「若紫」の重苦しさから離れて、暫し一息。はかなく散った夕顔が恋しい。光君の遍歴は続きます。春の臙夜、命婦の手引きでしのんだ故常陸宮のお屋敷で、姫君の琴に胸をときめかせる光君に、新しい出会いが訪れます。が、しかし・・・。
7	平成11年	今年は、七の巻「紅葉賀」に入ります。朱雀院行幸の試案の日、光君はただ藤壺のために舞いました。その見事さ、美しさ! やがて、藤壺出産。皇子は光君に生き写しです。「おまえにそっくりだね。」何て可愛いんだろう! 幼子を抱く父帝の言葉に、光君は顔色の変る思いです。
8	平成12年	今年は、九の巻「葵」に入ります。桐壺帝は讓位し、兄君朱雀帝の御代になりました。時代は変わる。葵上と六条御息所～二人の幸薄い貴婦人が光君の許を去り、あの美少女「若紫」が名実ともに光の妻になりました。
9	平成13年	今年は、十の巻「賢木(さかさ)」に入ります。六条御息所が伊勢に去り、光君の最大の庇護者、桐壺上皇が崩御する。臙月夜は内裏に上がり、藤壺は出家してしまいます。光君を愛してくれた人々が次々と姿を消し、孤独の彼は破滅への道を突き進んでいきます。源氏の身辺には、命の危険も忍び寄って来ようとしています。
10	平成14年	今年は、十一の巻「花散里」に、十二の巻「須磨」にも進みます。「花散里」は、ほっと一息慰められる、短い短い巻です。そのあと孤独の光君は無位無冠の身となって追われるように都を離れます。謀反の罪で抹殺される危険はすぐそこに迫っていたのですから。わびしい須磨の寒村に移して、十二の巻「須磨」は、逆境に耐える光君を描きます。
11	平成15年	今年は十二の巻「須磨」を締めくくり、十三の巻「明石」を旅します。亡き父に導かれて明石に移った光君には、新しい出会いが待っていました。やがて、召還の宣旨がくだり、身重の女君を残したまま光君は政界に復帰します。
12	平成16年	今年は十四の巻「濡標(みおつくし)」に入ります。無位無冠の身となって須磨に退いた光君でしたが、ようやく召還の宣旨が下りました。身重の女君(明石)を残したまま光君は政界に復帰します。間もなく新帝(桐壺第十皇子、実は光の子)の代を迎え、内大臣に上った光君は、栄花への道を駆け上がります。今や彼は、野心に満ちた大人の政治家に育っていたのです。光君は二十九歳になりました。
13	平成17年	今年は十五の巻「蓬生(よもぎふ)」に入ります。政界に復帰した光君は、栄光の体制作りに余念がありません。可哀想な末摘花(醜いお姫様)のことなどチラリとも思いだしませんでした。ところが彼女は待っていました。召し使う者たちは次々に去り、屋敷は廃屋になりましたが、誰も彼女の信念を変えることはできなかったのです。あの人は必ず会いに来る・・・、そして奇跡は起こります。
14	平成18年	今年は16帖「絵合」を覗いてから17帖「松風」に入ります。あの光君も三十代の大台に乗り、幼い昔を懐かしんだり、恵まれた現在にふと不安を覚えたり・・・。山里に別荘を! ではなく、出家を夢想して御堂を建てたりもするのですが、まだまだ権力闘争は続きます。
15	平成19年	今年は18帖「薄雲」を終える予定です。32歳の光君に決定的な別れが訪れました。藤壺の宮の崩御です。念誦堂に籠って人知れず泣き暮らした光がふと眼を上げると、夕陽に照らされてくっきりと浮かび上がった峰の梢に、鈍色の雲が薄く棚引いていました。藤壺は秘密を抱いたまま逝きましたが、このは罪の子「冷泉帝」の耳に入りました。夜居の僧の密奏。秘密を知るものはいたのです。
16	平成20年	今年は、21帖少女(おとめ)の巻に入ります。待望の六条院が完成し、33歳なった源氏は、なかなか厳しい教育パパでもあります。
17	平成21年	親はなくても子は育ちます。母のない子ども、夕霧と雲井雁は幼い愛を育てています。それにしても、青年夕霧の立派なこと! 21帖「少女」の巻はいましばらく続きます。
18	平成22年	22帖「玉蔓」に入りました。若く見えても35歳、源氏は立派な中年です。でも、六条院での優美で落ち着いた生活が物足りない。そこに華麗な花が舞い込みます。夕顔の忘れ形見に周囲にはわかに華やい・・・。

2010 (平成22)年度	総合文化講座—文化の新たな視座— (浜田・出雲キャンパス連携)		七ヶ おはなし会	キャンパス図書館 で読書会を	宇治十帖の世界	ひかるの恋人たち	源氏物語入門
2009 (平成21)年度	総合文化講座—広がる文化、 拉がる楽しみ—(浜田キャンパス連携)		七ヶ おはなし会	キャンパス図書館 で読書会を	宇治十帖の世界—ひか り隠れ絡むのち—	ひかるの恋人たち —源氏物語の女性—	源氏物語入門
2008 (平成20)年度	総合文化講座—文化の彩り— (浜田キャンパス連携)	民族音楽の楽しみ —ガムラン教室—	七ヶ おはなし会	キャンパス図書館 で読書会を		ひかるの恋人たち —源氏物語の女性—	源氏物語入門
2007 (平成19)年度	多角比較分析「世界の中の日本」 (浜田キャンパス連携)	民族音楽の楽しみ —ガムラン教室—	七ヶ おはなし会	学校図書館 経営講座		枕草子の世界	源氏物語入門
2006 (平成18)年度	「スローな文化」を探して	民族音楽の楽しみ	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会		「古文書学」 への誘い	「江戸の旅」を読む	源氏物語入門
2005 (平成17)年度	「水」を考える	民族音楽の楽しみ	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会		「古文書学」のやさ しい楽しみ方	「江戸の旅」を読む	源氏物語入門
2004 (平成16)年度	「共生の時代」を考える	民族音楽の楽しみ	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会		Let's Enjoy English —家族で英語を楽しもう—		源氏物語入門
2003 (平成15)年度	世界浪漫紀行	民族音楽の楽しみ	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会		Let's Enjoy English —親子で英語を楽しもう—		源氏物語入門
2002 (平成14)年度	伝統と現代part II	民族音楽の楽しみ	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会				源氏物語入門
2001 (平成13)年度	伝統と現代	民族音楽の楽しみ	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会		21世紀ジェンダーを考える		源氏物語入門
2000 (平成12)年度	続「しまね」の文化を 考える	異文化ゼミナール	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会		20世紀・ジェンダーをふりかえる		源氏物語入門
1999 (平成11)年度	「しまね」の文化を 考える	異文化ゼミナール	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会				源氏物語入門
1998 (平成10)年度	続「家族」を考える	異文化ゼミナール	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会			しまね近代文学散歩	源氏物語入門
1997 (平成9)年度	「家族」を考える	異文化ゼミナール	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会			しまね近代文学散歩	源氏物語入門
1996 (平成8)年度	続「日本人」を考える	人間と自然—異文化 の視点をまじえて—	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会			しまね近代文学散歩	源氏物語入門
1995 (平成7)年度	「日本人」を考える	風土と民族音楽	おはなし(ストーリー テリング)の勉強会		漱石を読む	しまね近代文学散歩	源氏物語入門
1994 (平成6)年度	新しまね学	異文化の理解を目指して	図書館の話		漱石を読む		源氏物語入門
1993 (平成5)年度	しまね学事始	異文化の理解を目指して	おはなしの勉強会				源氏物語入門
1992 (平成4)年度	しまね学事始	異文化の理解を目指して	「読み聞かせ」とは何か				源氏物語入門

松江キャンパス公開講座「椿の道アカデミー」連続講座の変遷(1992年度は「短大火曜日講座」) ～総合文化学科系列～



左は、1992(平成4)年度「短大火曜講座」パンフレット。「火曜の午後のひととき。ゆたかな休息を味わってみたい。」と書かれている。右は、1993(平成5)年度「椿の道アカデミー」のパンフレット。「この道は椿咲く道。夢の陽だまりに知の風そよぐ。」と書かれている。「椿の道」のロゴは、当時の藤岡大拙教授の自筆による。

松江キャンパス公開講座は1992(平成4)年度に開始し、次年度2011(平成23)年度で20年目に入る。1992(平成4)年度は「短大火曜講座」としてスタートしている。この年の講座は、藤岡大拙、大塚茂の両講師による「しまね学事始」、瀬古康雄、鹿野一厚両講師による「異文化の理解を目指して」、堀川照代講師による「「読み聞かせ」とは何か」であり、当時の一般教育教室教授陣による社会貢献活動であった。上述の「源氏物語入門」をはじめとして、その他の文学科(当時)教授陣を含む「椿の道アカデミー」となったのは、翌年1993(平成5)年度からであり、その後数々の講座が開催されてきた。

上の系図は、現在の総合文化学科系列の講座にいたる公開講座のうち、2回以上の連続講座の変遷を示している。長く地域の参加者に愛された講座が多い。

2010 (平成22) 年度	栄養士のためのステップアップ講座	食と文化	健康栄養講座:生活習慣病(糖尿病・高血圧・骨粗鬆症)予防教室			早期発達支援ブラッシュアップ講座(松江市連携)
2009 (平成21) 年度	栄養士のためのステップアップ講座	食と文化	健康と食の講座 ーアクティブ85を目指してー	健康な家族のために (出雲キャンパス連携)		早期発達支援ブラッシュアップ講座(松江市連携)
2008 (平成20) 年度	栄養士のためのステップアップ講座	食と文化	快適な人生(QOL)を目指して	健康な家族のために (出雲キャンパス連携)	地域福祉実践講座	幼児教育サマースクール (松江市・雲南市連携)
2007 (平成19) 年度	管理栄養士受験講座		充実した健康寿命を獲得するために	豊かな食のあり方・育て方 (出雲キャンパス連携)	障害者福祉実践講座	
2006 (平成18) 年度	管理栄養士受験講座		食習慣・運動習慣の改善プログラム	豊かな食の在り方と育て方 (看護組大連携)	障害者福祉実践講座	
2005 (平成17) 年度					障害者福祉実践講座	
2004 (平成16) 年度					障害者福祉実践講座	
2003 (平成15) 年度						
2002 (平成14) 年度					障害者ケアマネジメント	
2001 (平成13) 年度	栄養学セミナー				社会福祉援助技術入門	
2000 (平成12) 年度	栄養学セミナー				社会福祉援助技術入門	
1999 (平成11) 年度	栄養学セミナー				社会福祉入門	
1998 (平成10) 年度	栄養学セミナー				社会福祉入門	
1997 (平成9) 年度	栄養学セミナー				福祉援助技術入門	
1996 (平成8) 年度	栄養学セミナー				福祉援助技術入門	

### 松江キャンパス公開講座「椿の道アカデミー」連続講座の変遷 ～健康栄養学科・保育学科系列～

現在の健康栄養学科系、保育学科系の講座に至る系列は、1996（平成8）年度にスタートしている。上の系図は、総合文化学科系列と同じく、2回以上の連続講座の変遷を示している。当初より、卒業生を含む地域の専門職者向け研修の場として、地域貢献を目指してきた。

総合文化学科系列、健康栄養学科、保育学科系列のいずれにおいても、近年は学外団体と連携した講座が多い。上述のとおり、今年度「食と文化（全3回）」では、元島根県産業技術センター研究統括監の岩本正俊氏、島根県産業技術センター専門研究員の永瀬光俊氏にご協力をいただいた。博物館連携「荒神谷博物館連携講座：古代への誘い（全2回）」では、藤岡大拙館長（元学長）のご協力を得た。この講座の第2回目は、貸し切りバスで受講者71名が荒神谷博物館へ移動して講義を受けた。「松江家庭裁判所連携講座：くらしと家庭の法知識（全3回）」では、松江家庭裁判所から、主任家庭裁判所調査官の山内陽子氏、訟廷管理官の吉武裕高氏、主任家庭裁判所調査官の福島建夫氏にご協力をいただいた。平成23年度も、出雲かんべの里館長酒井董美氏を講師として「出雲かんべの里連携講座：山陰の民話・わらべ歌・民謡の世界（全4回）」が予定されている。

平成23年度から、松江キャンパス利用者向け「椿の道アカデミー」会員制度を開始し、生涯教育、地域教育の拠点としての松江キャンパスの魅力づくりを推進する予定である。新しい制度では、会員は年度初めに会員登録を行うことによって、個別の会員番号をもつ「椿の道アカデミー会員証」を取得する。松江キャンパスの社会人利用者として、年間の(1)公開講座「椿の道アカデミー」の受講、(2)松江キャンパス図書館および「おはなしレストランライブラリー」の利用、(3)その他、大学が会員向けに案内した生涯学習事業の利用、の資格者となる。また傷害保険も適用する。会員は、公立大学法人島根県立大学料金徴収規定第3条に基づく登録料を納め、2年目以降は更新手続きを行うことになっている。図書館利用者証を兼ねた「会員証」が、今後大いに活用されることを期待したい

2011年度 島根県立大学短期大学部松江キャンパス  
公開講座  
**椿の道アカデミー**  
CHIRASHI ROAD

平成23年度の島根県立大学短期大学部松江キャンパスの公開講座「椿の道アカデミー」では、小・中・高のジュニア世代からユニバーサルまで、また、多様な世代やニーズスタイルに合わせ、幅広く参加していただけるように時間帯も多様な講座をご用意いたしました。どうぞふるってご参加ください。ご案内申し上げます。

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 総合文化講座「知の冒険」 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 松本 浩二 先生	6:30	6:30															
2 出雲地誌研究研究会 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	6:30	6:30															
3 英語講座「英会話基礎から実践」 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	6:30	6:30															
4 心霊学の世界 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	6:30	6:30															
5 出雲への歩み講座 「出雲の歴史から学ぶ地域の発展」 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	7:30	7:30															
6 心と音楽 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	7:30	7:30															
7 生活アプルーア講座 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	7:30	7:30															
8 食と文化 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	7:30	7:30															
9 健康講座「新しい視点で健康」 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	7:30	7:30															
10 福祉情報コーディネーター 養成講座「福祉情報コーディネーター」 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	7:30	7:30															
11 芸術文化講座 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	7:30	7:30															
12 栄養士のための 公開講座「栄養士の仕事」 ★特別 公開講座 ★講師 島根県立大学 藤原 隆雄 先生	7:30	7:30															

**次年度(平成23年度)から  
「椿の道アカデミー会員制度」が  
始まります！**

島根県立大学短期大学部松江キャンパス  
健康栄養学センターからのご案内

- 次年度から、公開講座開催者には、「椿の道アカデミー会員」になっていただき、特別価格で、会員証をお渡しすることになりました。公開講座を受講される方には、会員証を発行させていただきます。
- 会員証の有効期間は1年間です。  
(年度更新できます)
- 毎年課しに、登録料が自動にのります。  
(平成23年度は2,000円です)
- 「椿の道アカデミー会員」は、松江キャンパス図書館利用権証をのねています。会員証を提示していただければ、「大学図書館」「おはなしゼミ」の設備も出しが出来ます。
- 大学図書館：1日の貸出し  
図書3冊まで 延長3冊まで  
※「おはなしゼミ(ライブラリー)」では、健康栄養学科一編に限定してでも、登録料なしでもご利用いただけます。ライブラリーでの貸出しも可能です。おはなしゼミの「おはなしゼミ」の申し込みも、併せて行っていただけます。
- 「椿の道アカデミー」会員は、キャンパス内で参加いただける講座、講演会等で開催いたします。
- その他、地域の各々のキャンパスのご利用も、より便利で豊かなものにするよう、会員制度を育ててまいりたいと考えていますので、今後とも「椿の道アカデミー」を、どうぞよろしくお楽しみください。

会員の申込みと登録料の納付についてのご案内は、平成23年4月第1回「椿の道アカデミー」パンフレットに掲載します。今年度登録料には会員に限りません。ご用意が済んだら、お申し込みください。

左:平成23年度用「椿の道アカデミー」パンフレット 右:会員制度説明用ちらし

### 【リカレント講座の開催】

第1部「公開講座の概要」のとおり、栄養士向けのリカレント講座として健康栄養学科が「栄養士のためのステップアップ講座（全17回）」を開催し、延べ125人が受講した。また、幼稚園・保育所の保育者向けリカレント講座として保育学科山下由紀恵教授が「早期発達支援ブラッシュアップ講座（全3回）」を開催し、延べ91人が受講した。

そのほか、2010年度島根県立大学地域貢献プロジェクト助成を受けて、松江・出雲キャンパス共同事業として、平成22年12月5日に「しまね子育て支援専門職カンファレンス：支援現場のキャリア成長・研修はいかにあるべきか」が開催され、講師を含む94人により専門職現場教育について討議が行われた。シンポジウム「子育て支援－研修はいかにあるべきか」の講師の一人として、健康栄養学科名和田清子教授が栄養士・管理栄養士の専門教育について話題提供を行った。シンポジウムと分科会A：「音楽療法士への道－私たちの取り組み」の司会を山下由紀恵教授が行った。分科会B：「認定看護師への道－私の取り組み」の司会を出雲キャンパス専攻科助産学専攻三島みどり教授が行った。分科会C：「幼保一体化保育－私たちの取り組み」の司会を保育学科岸本強教授が、分科会D：「病児病後児保育－私たちの取り組み」の司会を保育学科栗谷とし子准教授が行った。

### 【地域活性化支援－企業・団体・NPO法人等との連携】

松江キャンパスにおいては、主催・共催・後援等の連携の仕組みを整理して検討し、NPO法人等、学外団体との協力を推進した。今年度は、健康栄養学科により食育推進での連携活動があった。総合文化学科の「おはなしゼミ」が、大田市立図書館等と、多彩な共済事業を実施した。また、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 ISEA プロジェクトとの共済事業、しまね多文化共生ネットワークとの共済事業が行われた。

平成22年度松江キャンパス学外団体との共催事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
温泉サミットin斐川実行委員会 (斐川町・(株)MILまね・NPO食育 推進協会ほか)	健康栄養学科教授 奥野元子 助手兼 折真由美	温泉サミットin斐川 基調講演「温泉と健康」(講師:奥野元子) パネルディスカッション「温泉による地方地域 の活性化」(各国大使館参事官) 学生ミニ講演「地域の健康」(健康栄養学科 学生4名) (会場:斐川町中央公民館)	平成22年 6月27日	約100名	健康栄養学 科教員と学 生参加(ミニ 講演及びレ セプション (日本舞踊部 員))
松江市健康福祉フェスティバル	健康栄養学科教授 名和田清子	松江市健康福祉フェスティバルへの参加協 力「一日の始まりはeatin'グー」簡単にできる 朝ごはんをみんなで作ってみよう(健康栄養 学科学生9名)(会場:松江市保健福祉総 合センター)	平成22年 4月25日	約100名	健康栄養学 科教員と学 生参加
「おはなしレストラン」 大田市立中央図書館共催	総合文化学科准教 授岩田英作	大田市立中央図書館での総合文化学科卒 業プロジェクト「おはなしゼミ」のメンバーに よる絵本の読み聞かせ	平成22年 7月24日	約20名	総合文化学 科の教員岩 田と学生参 加
松江プラバホール「ママン・グ ラッセコンサート」付随「おはなしレ ストラン」 PLAN DO、ママン・グ ラッセ共催	総合文化学科准教 授岩田英作	プラバホールでの総合文化学科卒業プロ ジェクト「おはなしゼミ」のメンバーによる絵本 の読み聞かせ	平成22年 7月25日	約20名	総合文化学 科の教員岩 田と学生参 加
木次町下熊谷交流センター「七夕 の集い」付随「おはなしレストラン」 下熊谷の子どもを事件から守る会 共催	保育学科教授岸本 強 総合文化学科准教 授岩田英作	木次町下熊谷交流センターでの総合文化学 科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」のメンバ ーによる絵本の読み聞かせ	平成22年 8月6日	約50名	保育教員岸 本、総合文 化学科の教 員岩田と学 生参加
「おはなしレストラン」 カルチャープラザ仁多図書室共催	総合文化学科准教 授岩田英作	カルチャープラザ仁多図書室での総合文化 学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」のメン バーによる絵本の読み聞かせ	平成22年 8月7日	約20名	総合文化学 科の教員岩 田と学生参 加
「おはなしレストラン」 東出雲上意東読書会共催	総合文化学科准教 授岩田英作	東出雲上意東公民館での総合文化学科卒 業プロジェクト「おはなしゼミ」のメンバ ーによる絵本の読み聞かせ	平成22年 8月18日	約10名	総合文化学 科の教員岩 田と学生参 加
「おはなしレストラン」 古志原町民会館共催	健康栄養学科教授 安藤彰朗 総合文化学科准教 授岩田英作	古志原町民会館での総合文化学科卒業 プロジェクト「おはなしゼミ」のメンバーによる絵 本の読み聞かせ	平成22年 8月21日	約20名	総合文化学 科の教員岩 田と学生参 加
「こころサンデーinこそけん」付 随「おはなしレストラン」 いっしょに子育て研究所共催	総合文化学科准教 授岩田英作	いっしょに子育て研究所での総合文化学 科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」のメンバ ーによる絵本の読み聞かせ	平成22年 11月14日 12月12日	約30名	総合文化学 科の教員岩 田と学生参 加
松江市立病院院内学級クリスマス 会「おはなしレストラン」 松江市立病院、乃木小学校共催	総合文化学科准教 授岩田英作	松江市立病院院内学級での総合文化学 科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」のメンバ ーによる絵本の読み聞かせ	平成22年 12月16日	約5名	総合文化学 科の教員岩 田と学生参 加
「おはなしレストラン」 出雲青年会議所共催	総合文化学科准教 授岩田英作	おはなしレストランライブラリーでの、青年会 議所メンバーを対象とした総合文化学科卒 業プロジェクト「おはなしゼミ」のメンバ ーによる絵本の読み聞かせ	平成23年 1月28日	約15名	総合文化学 科の教員岩 田と学生参 加
東南アジアのイスラーム(ISEA)プ ロジェクト第5回公開セミナー「イス ラームを知る:東南アジアの事例を を中心に」東京外国語大学アジア・ アフリカ言語文化研究所ISEAプロ ジェクト共催	総合文化学科講師 塩谷もも	東南アジアを事例としたイスラームに関する 公開セミナー(会場:島根県立大学短期大学 部松江キャンパス)	平成22年7 月3日	約90名	
「医療英語勉強会」しまね多文化 共生ネットワーク共催	総合文化学科講師 ラング・クリス	医療通訳のための専門用語の学習、診療科 ごとの通訳ロールプレイなどの勉強会	平成22年4 月～平成23 年3月	約15名	

平成22年度松江キャンパス学外団体への協力事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
雲南市	健康栄養学科教授 名和田清子	雲南スイーツプロジェクトで作成したスイーツの啓蒙活動	平成22年4月 3日 ～4月4日		(健康栄養 学科学生11 名参加)
島根県畜産技術センター	健康栄養学科 教授奥野元子・准 教授籠橋有紀子・ 助手坂根千津恵・ 助手兼折真由美	受託研究課題「飼料米給与牛肉の官能評価」の実施	平成22年5月 14日 ～11月30日		(健康栄養 学科学生80 名参加)
JA 雲南	健康栄養学科教授 名和田清子	奥出雲町野菜産地ツアーへの参加協力	平成22年7月 24日		(健康栄養 学科学生9 名参加)
第37回小児糖尿病サマーキャン プ	健康栄養学科教授 名和田清子	第37回小児糖尿病サマーキャンプにおけるボランティア	平成22年8月 3日 ～8月8日		(健康栄養 学科学生13 名参加)
生協しまね	健康栄養学科教授 奥野元子 助手兼 折真由美	コープフェスティバル2010への出展 於 くにびきメッセ	平成22年9月 19日		
松江市健康福祉部健康まちづくり 課 食部会	健康栄養学科教授 名和田清子	「つくってつくって男子ごはん」魚のさばき 方、煮物のコツなどを紹介	平成22年10 月30日		(健康栄養 学科学生9 名参加)
やすぎ農業協同組合	健康栄養学科教授 奥野元子・教授安 藤彰朗・助手坂根 千津恵・助手兼折 真由美	米のモニタリング調査 食味調査の実施	平成22年12 月7日 ～12月9日		対象:学生 80名
遊航！天神川まちぐるみ舟出の祝 い実行委員会 松江天神町商店街協同組合 タテ町商店街協同組合	健康栄養学科 教授奥野元子・助 手坂根千津恵・助 手兼折真由美	イベント「遊航(ゆこう)！天神川まちぐるみ舟 出の祝い」(環境保全活動の一環) イベント広場出展(食育ゲームほか)	平成23年3月 13日		
島根県保育所(園)幼稚園造形教 育研究会 作品審査	保育学科講師 福井一尊	島根県内保育所(園)幼稚園の園児の絵画 作品審査会を実施(会場:体育館アリーナな ど)	平成22年 11月22日		松江キャン パス1年生3 名
島根県保育所(園)幼稚園造形教 育研究会 作品展の開催	保育学科講師 福井一尊	島根県内保育所(園)幼稚園の園児の作品 展の開催(会場:島根県立美術館)	平成23年 1月13日～1 月18日		
松江市保育研究会 造形作品展の開催	保育学科講師 福井一尊	松江市内保育所(園)の園児の作品展の開 催(会場:島根県立美術館)	平成23年 1月20日～1 月24日		
島根県保育所(園)幼稚園造形教 育研究会 作品集の発刊	保育学科講師 福井一尊	島根県内保育所(園)幼稚園の園児の作品 144点を掲載した画集を刊行	平成23年 3月1日		
アイリッシュ・フェスティバル in Matsue 2011	総合文化学科教授 小泉 凡	アイルランドの文化理解と交流を目的とする 事業への参画 ・子供向けのアイルランド文化紹介や東北関 東大震災義捐金の募金活動など	平成23年3月 12日・13日	約10名	本学キャン パス・ゼミ ナール・ネッ トワーク部員 参加
小泉八雲記念館特別展示コー ナーの設置	総合文化学科教授 小泉 凡	東北関東大震災の現状を鑑み、世界へはじ めてTsunai(津波)という言葉を紹介した小泉 八雲の作品「生き神」の関連資料展示コー ナーを設置し、津波の際の早期避難の大切 さを訴える。	平成23年3月 12日～		
松江市観光振興課	総合文化学科教授 小泉 凡	小泉八雲ゆかりの地解説案内板解説文作成 (14か所)	平成22年6月 ～平成23年3 月		
松江市/小泉八雲来日120年記念 事業実行委員会	総合文化学科教授 小泉 凡	同委員会の顧問として、「ハーンの神在月一 全国・小泉八雲の会&ミュージアムの未来を 考えるサミット」および造形美術展「オーブ ン・マインド・オブ・ラファディオ・ハーン」の実 施運営にあたる。	平成22年2月 ～平成23年3 月		

### 平成22年度松江キャンパス学外団体への協力事業（続き）

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
財団法人松江市国際交流協会・山陰日本アイランド協会	総合文化学科教授 小泉 凡	アイリッシュ・フェスティバル in Matsue 2011の実行委員長として事業の運営にあたる。	平成22年10月～平成23年3月		
NPO松江ツーリズム研究会	総合文化学科教授 小泉 凡	同NPOの運営する小泉八雲記念館の顧問として、企画展・常設展示キャプション・レプリカ作成等に関し、アドバイスをを行う。また、同NPOが実施する「松ゴーストツアー」へるんコースの講師を務める。(毎月1回)	平成22年4月～平成23年3月		
松江開府400年祭 佐陀川野点船	総合文化学科 教授 河原修一	屋形舟内での抹茶・和菓子の提供	平成22年 10月31日	約50人	茶道部員 6人参加
平成23年松江市成人式交歓会 (お茶席)	総合文化学科 教授 河原修一	くにびきメッセでの抹茶・和菓子の提供	平成23年 1月9日	約400人	茶道部員 10人参加

#### 《健康栄養学科の地域活性化支援》

平成22年6月27日には、温泉サミット in 斐川において、基調講演「温泉と健康」（講師：奥野元子教授）、パネルディスカッション「温泉による地方地域の活性化」のほか、学生ミニ講演「地域の健康」として、健康栄養学科教員および学生が参加した。平成23年3月13日には、イベント「遊航（ゆこう）！天神川まちぐるみ舟出の祝い」（環境保全活動の一環）においては、健康栄養学科学生が食育ゲームなどを実施した。

また、牛乳料理（島根県牛乳普及協会）、わが家の一流シェフ料理等のコンクール（島根県食育・食の安全推進協議会）の応募や開催への協力のほか、コープフェスティバル2010への出展、松江商工会議所や松江市内の商店街協同組合主催のイベントへの依頼に学生を動員し、食育ゲームを実施した。



#### ▼食育イベントへの出展風景

左:コープフェスティバル2010 右:イベント「遊航（ゆこう）！天神川まちぐるみ舟出の祝い」





▼「しまね和牛肉」の官能試験の様子

このほか、健康栄養学科では西条ガキ、しまね和牛等の地域特産品に関する利用加工や製品化、ブランド化、販路拡大といった地域からの要望に応え、データの提供や技術指導を行った。平成23年3月11日に行われた食品分野研究シーズ発表会では、健康栄養学科教員（赤浦和之准教授）が「西条ガキ熟柿の生産と熟柿ピューレの利用」をテーマにその成果を発表した。また、平成22年6月から11月において、飼料米の給与による「しまね和牛肉」の食味に与える効果について、健康栄養学科教員および学生が官能試験に協力し、データの提供を行った。

次年度も引き続き、地域の活性化の観点から、西条柿では、西条ガキ熟柿の生産と熟柿ピューレを用いた加工食品の開発を行う。また、「飼料米を活用した「しまね和牛肉」生産技術の開発」を目的として、飼料米の給与による「しまね和牛肉」の食味に与える効果について、官能試験などの手法を用いて検討し、データの提供・技術協力を行う。

#### 《保育学科の地域活性化支援》

保育学科においては、島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会顧問として、福井一尊講師が県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成22年11月22日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、島根県立美術館で平成23年1月13日から18日まで「第6回島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展」として展示された。

#### 《総合文化学科の地域活性化支援》

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークと共催で「医療英語勉強会」を開催した（本学担当はラング・クリス講師）、卒業プロジェクトおはなしゼミは、読み聞かせボランティアを実施した（本学担当は岩田英作准教授）。また、東京外国語大学と共催で公開セミナー「イスラームを知る：東南アジアの事例を中心に」を実施した（本学担当は塩谷もも講師）。さらに、小泉八雲来日120年記念事業の一環として、「ハーンの神在月—全国・小泉八雲の会&ミュージアムの未来を考えるサミット」および造形美術展「オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン」を実施した（本学担当は小泉凡教授）。

#### \*医療英語勉強会

「医療英語勉強会」は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワークと連携し、平成 22 年 4 月から 3 月にかけて、月に一度金曜日の午後 1 時から 3 時まで勉強会を実施した。勉強会参加者は、10 名程度である。

勉強会では、実際の医療場面を想定したテキスト文の日本語から英語への翻訳学習を行ない、診療科ごとの通訳会話役割練習を行なうことで、医療用語を身につけることを目的とした。

#### \*卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の読み聞かせ活動

総合文化学科の卒業プロジェクトの一つ「おはなしゼミ」の学生 12 名は、地域からの依頼に応じて絵本の読み聞かせ活動を学外で行った。平成 22 年度は、大田市立中央図書館、木次町下熊谷交流センター、カルチャープラザ仁多図書室、いっしょに子育て研究所、松江市立病院院内学級など、県内 9 か所で活動を行った。

学生が地域活動をする場合、移動の手段が問題となるが、おはなしゼミは GP で調達した 10 人乗りのバン「おはなしレストラン号」が大いに役立っている。

この活動を通して、地域の子どもたち、お世話になった方々など、様々な場所で、様々な世代の方々と交流を深めることができた。交流先の方々からは、たとえば次のような感想をいただき、学生の励みとなった。

「子ども達も若いお兄さんお姉さんに絵本を読んでもらう機会はなかなかないので、とても楽しそうでした。学生さんも読み聞かせがとても上手く、たくさんの経験を積んでおられるのがわかりました。これからもおはなしシェフとして、子どもたちに素敵なおはなしを届けてください。本当にありがとうございました。」(カルチャープラザ仁多図書室司書の方より)



▼大田市立図書館での実践



▼木次町交流センターでの実践

＊公開セミナー「イスラームを知る：東南アジアの事例を中心に」

平成 22 年 7 月 3 日、島根県立大学短期大学部松江キャンパス体育館研修室において、公開講座「イスラームを知る：東南アジアの事例を中心に」を東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所東南アジアのイスラーム（ISEA）プロジェクトと共催で実施した。

本学アジア文化研究室は本講座の企画・運営に協力し、ゼミ生 9 名がボランティアとして参加した。公開講座では、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の床呂郁也准教授による講演「イスラームを知る：東南アジア、フィリピンのイスラームを中心に」と同研究所の福島康博産学官連携研究員による講演「経済とイスラーム：マレーシアの事例から」がなされた。講演後は同研究所のイスラーム学・中東研究者である飯塚正人教授も加わり、活発な質疑応答がなされた。

映像や画像を使用しながら、事例に基づいた分かりやすい講演がなされ、セミナーには市民、県内大学生、本学学生など 90 人ほどが参加した。



▼公開セミナーでの質疑応答の様子



▼公開セミナー：講演を熱心に聴く参加者

\*「ハーンの神在月—全国・小泉八雲の会&ミュージアムの未来を考えるサミット」および造形美術展「オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン」

小泉八雲来日 120 年記念事業の一環として上記事業を、松江市総合文化センター・松江城・小泉八雲記念館で実施した。いずれも、小泉八雲を現代社会に文化資源として生かす可能性を探るためのグループ討議、パネルディスカッション、および実践活動である。平成 22 年 10 月 9 日・10 日に開催。小泉凡教授が、上記事業の実行委員会顧問として実施運営にあたり、松浦雄二准教授がサミットで事例報告を行った。

#### 【地域活性化支援—自治体等との連携】

松江キャンパスは、平成 19 年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。

#### [松江市チャレンジショップ事業参加]

今年度は、昨年度に引き続き、総合文化学科生活文化デザイン系学生が、「大学生チャレンジショップ事業」に取り組んだ。この事業は、商店街活性化と若者育成のために、殿町商店街にある山陰中央新報社の「殿まちギャラリー」を使用して店舗営業に大学生が挑戦するのを、松江市が支援している事業である。

参加者：総合文化学科文化資源学系 商業空間デザインコース 1 年生 16 名

テーマ：「おうちでプチリサイクル～手作りであくもりを感じる～」

店舗営業：平成 23 年 3 月 19 日（土）～20 日（日）10:00～17:00

購入者数 38 名

商業施設士補資格取得を目指している商業空間デザインコースの学生達が、商品作りから、店舗ディスプレイ、販売に至る迄の一貫した商業活動に挑戦した。今年度は、環境資源のリノベーションを考える授業で学習したことを踏まえて、リサイクル商品を作って販売するだけで

なく、お客様がご自宅で気軽に取り組むためのプリントも準備した。

また、新しい試みとして、展示及び販売に加えて、簡単に作れるシュシュのミニ講座を開催した。リサイクル商品は、古布ポーチ、エコバッグ、牛乳パック活用ハガキ、廃油キャンドル等である。尚、売上金の一部を東北地方太平洋沖地震の被災地への寄付に充てる。一日目は強風、二日目は大雨と悪天候であったが、キャンドルを停電の被災地に居住する娘へプレゼントするという方や、商品ではなくディスプレイの装飾物に関心を示され、折り方を学生に尋ねる方もあり、学生達にとって貴重な商店街での商業経験となった。



▼商品作りの様子



▼ミニ講座開催中



▼接客及び店舗の様子



▼参加学生達の様子

[松江市主催文化教育行事への協力]

- 「アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2011」——(財)松江市国際交流協会・山陰日本アイルランド協会が共催する行事で、平成22年3月14日に開催。アイルランドと松江の文化交流を目的として実施した。予定されていたパレードは中止し、子供向けのアイルランド文化紹介ブースの設置と東北関東大震災義捐金募集等をカラコロ広場で実施した。小泉凡教授が実行委員長として、また本学のキャンパスゼミナール部に所属する約10名の学生が企画・実施に携わった。

[松江市主催行事への学生ボランティア参加協力]

- 松江開府400年祭事業「佐陀川野点船(のだてぶね)」への協力——松江市・松江開府400年祭推進協議会主催。佐太神社・宍道湖間の佐陀川の船内での抹茶の点て出しに、茶道部員6人が、茶道部顧問・茶道部学外講師とともに協力した(平成22年10月31日)。
- 平成23年松江市成人式交歓会(お茶席)への協力——くにびきメッセでの松江市成人式交歓会において、抹茶・和菓子の提供に茶道部員10人が協力した(平成23年1月9日)。

[松江市立女子高等学校との連携]

- 松江市立女子高等学校によるキャンパス見学と卒業生交流会——松江市立女子高等学校1年生のキャリア教育推進に協力して、1年生全員(106名)のキャンパス見学会を実施した。平成22年10月27日午後14:00から16:30までの3時間に、施設見学と模擬授業を実施した。模擬授業は、地域連携推進委員会から山下由紀恵教授により「心理学入門」授業として行われた(会場:大講義室)。講義後に同じ大講義室で、松江市立女子高等学校卒業の本学学生との交流会があり、質疑応答が行われた。

[正課授業における連携協力]

- 健康栄養学科専門科目における、松江市管理栄養士による実習——健康栄養学科専門科目「ライフステージ栄養指導実習」(2年生前期必修科目・1単位)において、「松江市立八雲小学校」栄養教諭の長島美保子講師が、児童を対象とした栄養教育部門の実習を5回担当した。15回中残り10回は奥野元子教授により行われた。健康栄養学科専門科目「給食計画実習」(2年生前期必修科目・1単位)において、同じく長島美保子講師が、学校給食部門および保育所部門の実習10回を担当した。15回中残り5回の病院部門は松江市内松江記念病院管理栄養士永見葉子講師により行われた。
- 保育学科専門科目における、学外の専門職現任者および経験者による講義——保育学科専門科目「障害児保育」(2年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、「松江市立内中原幼稚園」園長の団野真由美講師、「松江市子育て支援センター」所長の石橋富佐美講師、元「ふじのみ園」園長補佐曾田関子講師が5回ずつ講義を担当した。保育学科専門科目「児童館(児童クラブ)の機能と運営」(1年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、「松江市立東津田児童館」の石倉優子講師により、実際の児童館活動に関する講義が行われた。保育学科専門科目「乳児保育」(2年前期必修科目・2単位)では元松江市保育所長の井上恵美子講師により、長年にわたる豊富な現場経験を基に講義が行われた。

- 松江市立施設・学校における実習協力——健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立小学校、松江市立保育所、松江市立幼保園のぞ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている（実習欄に別掲）。
- 松江キャンパス近辺の幼・小・中学校との密接な連携協力——学生ボランティアが、下記の教育関係欄に記載のとおり、松江市立幼保園のぞ、松江市立乃木小学校、松江市立湖南中学校等と、教育上の密接な連携協力を行っている。

今年度は、このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成 23 年 1 月 28 日に「松江市・島根県立大学松江キャンパス・教育連携協議会」を開催し、実習協力や講師派遣について実務的に連携を協議した。実施要綱は、以下のとおりであった。

[平成 22 年度松江市・島根県立大学松江キャンパス・教育連携協議会]

1. 目的 平成 19 年度の「松江市島根県立大学包括協定」にもとづく相互協力の趣旨に基づき、松江市と松江キャンパスの具体的な教育連携事業を見直す。  
年度末に、次年度のスムーズな相互協力関係に向けて、教育連携事業における実務的な協議を実施する。
2. 主催 島根県立大学短期大学部松江キャンパス
3. 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス応接室
4. 日時 平成 23 年 1 月 28 日（金） 15 時 30 分～17 時
5. 議題 実習（栄養士・保育士・幼稚園教諭）受け入れ協力についての計画（謝金入金法等）  
講師の相互派遣についての計画  
施設使用の協力についての計画  
その他
6. 松江市側参加者  
松江市教育委員会 教育総務課長 講武直樹  
健康福祉部 子育て課長 湯町信夫  
政策部政策企画課 花形千穂（包括協定担当）
7. 松江キャンパス側参加者  
副学長 高橋憲二  
健康栄養学科長 安藤彰朗  
保育学科長 岸本強  
総合文化学科長 河原修一  
地域連携推進センター副センター長 山下由紀恵  
事務室長 日下晴雄  
管理課長 玉木治義

## 【教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携】

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、初等・中等教育側にも、大学教育側にも、目覚しい教育的成果をあげている。

### 連携校協議

平成22年6月30日に、幼保園のぎ、乃木小学校と松江キャンパスの三者連携会議が行われた。また、平成22年5月11日に湖南中学校との「総合的な学習の時間」協力についての話し合いが行われ、平成22年7月5日と平成23年3月18日に、湖南中学校、松江商業高校、松江キャンパスの三者連携会議が行われた。

このような緊密な教育上の連携をふまえて、今年度はさらに「連携校教育研究会」を開催し、異なる学校種の教員の親睦を深めた。大学教育にいたるまでの教育上の連携のあり方について、本学教員講師と連携校教員の間で質疑応答が行われ、大学教育側としても有意義な研究会となった。2回の「連携校教育研究会」開催状況は以下のとおりであった。

#### [平成22年度第1回連携校教育研究会]

- 1 期日 平成22年8月3日(火)14時より16時まで
- 2 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス 管理棟2階 大会議室
- 3 講師 島根県立大学短期大学部総合文化学科  
教授 小泉 凡 (専門領域 民俗学)
- 4 内容 テーマ：地域文化の教育を考える  
講義題目「五感教育で地域資源を生かす～『子ども塾』の活動から～」  
出席者の取り組み事例
- 5 参加者 幼保園のぎ 伊藤真知子園長、喜多川美紗教諭  
乃木小学校 門脇健一 教諭、藤岡信一 教諭、山名真紀 教諭  
湖南中学校 種田成博 教諭、熱田千鶴 教諭、青木英将 教諭  
松江商業高校 浜崎之義 教頭、古福克彦 教諭、大屋純一 教諭  
松江キャンパス  
地域連携推進センター山下由紀恵教授、福井一尊講師

#### [平成22年度第2回連携校教育研究会]

- 1 期日 平成23年2月24日(木)15時より17時まで
- 2 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス 管理棟2階 小会議室
- 3 講師 島根県立大学短期大学部保育学科  
教授 山下 由紀恵 (専門領域 発達心理学)
- 4 内容 テーマ：デジタル教材作成の取り組み  
講義題目「学習障害児の支援のための筆順練習スライドの作成」  
座談会
- 5 参加者 湖南中学校 秦美沙江 教諭、錦織充宏 教諭  
松江商業高校 大屋純一 教諭、永瀬良文 教諭



平成22年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生	備考
松江市立湖南中学校 総合的学習の時間への松江キャンパス連携協力	総合文化学科教授 小泉 凡	総合的学習の時間の講師 「地域探検の魅力ー松江再発見の旅ー」	平成22年5月27日		湖南中1年生199名参加
講師3名の協力+最終発表会 松江キャンパス大講義室(平成23年3月8日)	総合文化学科教授 鹿野一厚	総合的な学習の時間の講師 「フィールドワークの行い方」	平成22年9月16日		湖南中1年生199名参加
	総合文化学科准教授 高橋純	総合的な学習の時間の講師 「発表のあれこれ」	平成22年11月15日		湖南中1年生199名参加
松江市教育委員会学校給食課 松江・食の探検隊 「海そうのふしぎ、とこてんを作ろう」	健康栄養学科教授 奥野元子 助手 兼折真由美	家族と一緒にとこてん作りとクッキングに参加。学生は児童の調理補助に携わった。(卒業研究)	平成22年7月24日	健康栄養学科2年生4名	
松江市立八雲小学校 夏休み農業体験 (松江市立八雲小学校PTA主催)	健康栄養学科教授 奥野元子 助手 兼折真由美	家族と一緒にの夏休み農業体験に参加し、学生は参加児童を対象に食育授業(卒業研究)を体験した。	平成22年8月1日	健康栄養学科2年生4名	
松江市立乃木小学校 からだのリズムと朝ご飯」	健康栄養学科准教授 直良博之 教授 奥野元子 助手 兼折真由美	乃木小学校5年生全員を対象に「からだのリズムと朝ご飯」をテーマとする授業を実施。学生は後半の「朝ご飯を食べよう」の内容を担当。	平成22年11月9日	健康栄養学科2年生4名	
松江市立八雲小学校 食育授業「季節にあった野菜を食べよう！」	健康栄養学科教授 奥野元子 助手 兼折真由美	八雲小2年生の3クラスで「季節にあった野菜を食べよう！」をテーマに学生による食育授業(卒業研究)を実施。	平成22年12月15日	健康栄養学科2年生4名	
安来市立十神小学校 食育授業「食べ物はどこからくるの？」	健康栄養学科教授 奥野元子 助手 兼折真由美	十神小5年生の2クラスで「食べ物はどこからくるの？」をテーマに学生による食育授業(卒業研究)を実施。	平成23年1月19日	健康栄養学科2年生2名	
松江市立乃木小学校 「読み聞かせの実践A」「読み聞かせの実践B」	総合文化学科教授マユアキ 准教授岩田英作	3学科共通科目「読み聞かせの実践」の場として乃木小学校が連携協力	平成22年5月～平成23年1月	保育学科28名・総合文化学科31名	
松江市立乃木小学校 「絵本翻訳研究ゼミ」「おはなしゼミ」	総合文化学科教授マユアキ 准教授岩田英作	卒業プロジェクト「絵本翻訳研究ゼミ」「おはなしゼミ」の読み聞かせの実践の場として乃木小学校が連携協力	平成22年5月～平成23年2月	総合文化学科2年17名	
松江市立忌部小学校 「絵本翻訳研究ゼミ」「おはなしゼミ」	総合文化学科教授マユアキ 准教授岩田英作	卒業プロジェクト「絵本翻訳研究ゼミ」「おはなしゼミ」の読み聞かせの実践の場として忌部小学校が連携協力	平成22年5月～平成23年1月	総合文化学科2年17名	
松江市立忌部小学校 「おはなしゼミ」	総合文化学科准教授岩田英作	卒業プロジェクト「おはなしゼミ」のメンバーによる、忌部小学校図書室の絵本整理の連携協力	平成22年8月11日	総合文化学科2年6名	
みずうみ保育園 「おはなしゼミ」	総合文化学科准教授岩田英作	卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の読み聞かせの実践の場としてみずうみ保育園が連携協力	平成22年8月17日	総合文化学科2年4名	
出雲市立遙槌小学校・遙槌幼稚園 「おはなしゼミ」	総合文化学科准教授岩田英作	卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の読み聞かせの実践の場として遙槌小学校・幼稚園が連携協力	平成22年9月7日	総合文化学科2年7名	
ナザレン保育園 「おはなしゼミ」	総合文化学科准教授岩田英作	卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の読み聞かせの実践の場としてナザレン保育園が連携協力	平成23年1月28日	総合文化学科2年3名	
松江市立津田小学校 4年生 社会科学習	総合文化学科教授 小泉 凡	4年生社会科学習の講師を務める。「小泉八雲と松江」	平成22年10月12日		

平成22年度松江キャンパス教育機関との連携事業(続き)

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生	備考
松江市立内中原小学校 4年生 英語活動	総合文化学科教授 小泉 凡	4年生英語活動の講師を務める。「ラフカディオ・ハーンとアイルランド」	平成23年2月4日		
松江市立乃木小学校 3年生 総合的学習の時間	総合文化学科教授 小泉 凡	3年生総合的学習の時間の講師を務める。「小泉八雲のみた松江と日本」	平成23年2月8日		
松江市立城北小学校 記念出版協力	総合文化学科教授 小泉 凡	同小学校の開校40周年を記念して出版された『へるん先生 こんにちは』の監修、写真提供、序文執筆等の協力	平成22年4月～平成23年3月		
松江市立乃木小学校 「キッズイングリッシュ&ストーリーテリング」	総合文化学科教授 小玉容子 総合文化学科講師 ラング クリス	「キッズイングリッシュ&ストーリーテリング」で学んだ児童英語教育の実践の場として、乃木小学校「外国語活動」と連携・協力	平成22年6月～7月	総合文化学科2年6名	

高大連携活動

平成18年に協定を締結した島根県立松江商業高等学校との間で、上述のと通りの相互交流を実施している。また第1部「出張講座」一覧のとおり、県内外の高等学校で専門講義を行っている。

松江市立女子高等学校との連携事業として、キャンパス交流会で地域連携推進委員会教員(委員長山下由紀恵教授)を講師とする模擬授業「心理学入門」も行われた。また同じく松江市立女子高等学校では、総合文化学科小泉凡教授による「五感でとらえた明治の松江～小泉八雲の世界～」講義および現地研修も行われた。

島根県立大社高等学校では、健康栄養学科奥野元子教授による出張講義「食べ物と身体の間をみてみようーエネルギー代謝を考えるー」が行われた。島根県立大社高等学校では、健康栄養学科直良博之准教授による出張講義「おいしい米・ご飯を求め」が行われた。

島根県立大田高等学校では、総合文化学科高橋純准教授による出張講義「音声学入門～日本語のアクセントを中心に～」が行われた。

今年度は、県外の高等学校からの依頼に応じて、総合文化学科竹森徹土准教授が、兵庫県立村岡高等学校(兵庫県美方郡香美町村)で、出張講義「英語で楽しむ『クマのプーさん』」を行った。

村岡高校では、掲載の新聞のとおり「地域創造類型」授業を設ける目的で今年度3大学から講師を招いており、竹森准教授の講義は、鳥取大学、兵庫県立大学につぐ、第3回目最終回の講義であった。16名の受講生のアンケート回答によると、講義内容は、楽しかった10名・まあ楽しかった6名で、全員が楽しい講義を受けたと回答していた。また出張講義に、参加してよかった11名・まあよかった5名で、全員が参加に満足していた。

高校側は、アンケート結果から次のようにまとめている。「今回の出前授業を受けて、どの生徒も大学の講義の様子を感じることができたと答えている。また、その講義内容については、楽しかったと回答する生徒が多かった。もっと聞きたかったと答える生徒もあった。大学生活については、詳しい説明は講義が楽しくて聞く暇がなかったと話す生徒もあり、個人的な質問で回答していただいだけ、喜んでいた。最も生徒に考えさせたかった自分の進路についても、考える機会になったと答えた生徒が76%あったことや、自由記述の内容から、生徒に知的刺激を与え、進路実現のために何が必要かを考える、良い機会になったと考えられる。」



▼平成 22 年 8 月 4 日の講義を報道する地元新聞

### キャンパス共通科目「読み聞かせの実践」の実施

昨年度まで総合文化学科の専門科目であった「読み聞かせの実践」を、GP 採択に伴い、「読み聞かせの実践 A」(1 年前期)、「読み聞かせの実践 B」(1 年後期)として、全学共通科目に拡充した。平成 22 年度の受講者は保育学科 28 名、総合文化学科 31 名で、松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校に 1 年を通して出かけた。「人前で話すのが苦手なので最初の方は緊張したり、元気にできなかつたりしたけど、回数を重ねるごとにできるようになってきました。」など、受講した学生の感想からも、この取組によって成長した姿をうかがうことができた。受け入れ先の幼保園・小学校からも好評をいただき、今後の継続を期待されている。



▼幼保園のぎでの実践



▼乃木小学校での実践

《健康栄養学科の教育機関連携》

八雲小学校では、家族と一緒に夏休み農業体験に参加し、健康栄養学科学生は参加児童を対象に食育授業を体験した。また、食育授業として八雲小2年生の3クラスで「季節にあった野菜を食べよう！」をテーマに学生による食育授業（卒業研究）を実施した。学生は、自ら卒業研究で作成した食育教材を活用した。

乃木小学校では5年生約150名を対象に、「からだのリズムと朝ご飯」をテーマとする食育授業に、健康栄養学科教員と学生が取り組んだ。

また、安来市立十神小学校5年生の2クラスで「食べ物はどこからくるの？」をテーマに学生による食育授業を実施した。



▼食育授業風景

左:八雲小学校 右:十神小学校

《保育学科の教育機関連携》

保育学科の正課「児童文化」では、1年生2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」開催によって地域の子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の選定を受けて全国的にも評価された。平成22年度「第37回ほいくまつり」は、平成22年6月26日（土）に島根県民会館大ホールで開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。



▼島根県民会館大ホール入口:来場者への手作りペンダントのプレゼント

## 「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域の子どもたちや保護者の皆様楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的に開催され、各パートの要望や意見が交流されるとともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うこととなります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんなで悩みながら進めていくこととなります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知るのであります。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありますが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。



▼「第37回ほいくまつり」劇ステージ



▼来場者のお見送り



▼平成 22 年 6 月 26 日 第 37 回ほいくまつり 保育学科一同

#### 《総合文化学科の教育機関連携》

総合文化学科では、「キッズイングリッシュ&ストーリーテリング」の受講生が、松江市立乃木小学校において「外国語活動」に参加した。総合文化学科の卒業プロジェクト「絵本翻訳研究ゼミ」「おはなしゼミ」の学生は、松江市立乃木小学校並びに忌部小学校で、また「絵本翻訳研究ゼミ」はその他に、出雲市立遙堀小学校・幼稚園、みずうみ保育園、ナザレン保育園において絵本の読み聞かせ活動を行った。また、総合文化学科 2 年生 23 名により「児童文学劇場」が開催された。

総合文化学科の教員は、湖南中学校の「総合的な学習の時間」に協力して、1 年生「地域探求」向けの授業を行った。また、総合文化学科の小泉凡教授は、松江市内の下記の高等学校と小学校において出前授業を行った。

#### \*乃木小学校での「外国語活動」

平成 22 年度の「キッズイングリッシュ&ストーリーテリング」（総合文化学科 2 年前期）受講生 6 名は、松江市立乃木小学校の「外国語活動」に参加した。「外国語活動」は小学校で実施されている通常授業の一つであり、授業の導入部を担当、その後の時間は児童たちのサポート役として活動に参加した。学生たちは、児童たちに「英語の歌」を紹介し、一緒に歌い、次に「英語ゲーム」を行った。

6 月から 7 月にかけて、5 回の授業参加で、学生たちは既に短大の授業で学んだ児童英語教育内容と方法を実践することができた。また、小学生も、年齢の近いお姉さん先生たちにすぐに打ちとけ、活動に積極的に参加してくれた。学生は貴重な実践の場を得ることで、コミュニケーションの手段としての英語を体験的に教授する機会を得た。また、小学校での外国語活動に多少なりとも寄与できたものとする。



▼乃木小学校での外国語活動

**\*卒業プロジェクト「絵本翻訳研究ゼミ」「おはなしゼミ」の読み聞かせ活動**

総合文化学科の卒業プロジェクト「絵本翻訳研究ゼミ」「おはなしゼミ」の学生17名は、松江市立乃木小学校並びに忌部小学校で、絵本の読み聞かせ活動を行った。5月～7月、10月～2月の期間、乃木小学校は水曜日の朝、忌部小学校は金曜日の朝、毎週出かけて読み聞かせをした。両校の子どもたちからも心あたたまる感想をいただき、学生たちも大喜びだった。乃木小、忌部小の司書のお二人には、大変お世話になった。「おはなしゼミ」は、その他に、出雲市立遙堪小学校・幼稚園、みずうみ保育園、ナザレン保育園で読み聞かせ活動を行った。



▼忌部小学校での実践



▼みずうみ保育園での実践】

**\*第15回児童文学劇場の開催**

10月17日(日)、松江キャンパスおはなしレストランライブラリーにおいて、総合文化学科2年生23名による「児童文学劇場」を開催した。おはなしレストランライブラリーでの公演は今回初めてで、従来行っていた視聴覚室よりも狭いため、午前1回午後1回の2回公演とした。公演の内容は、「3びきのやぎのがらがらどん」「3びきのかわいいオオカミ」「3枚のおふだ」を人形劇や人物劇で演じた。来場者も2回とも会場一杯の盛況で、200名以上の方に観覧いただいた。「子供も飽きずに見させてもらいました。」「迫真の演技で感動しました！楽しかったです!」「劇の間も楽しめるようにしてくれてありがとうございました。」などの感想をいただき、充実した公演を行うことができた。



▼児童文学劇場 (その1)



▼児童文学劇場 (その2)



▼児童文学劇場 (その3)



＊湖南中学校 1 年生「総合的な学習の時間」への協力授業

総合文化学科の 3 名の教員は、湖南中学校における総合的な学習の時間に、専門分野や総合文化学科の担当授業の内容を生かして、協力授業を行った。この協力授業は、平成 19 年度から開始し、20 年度は開催されなかったが、21 年度、22 年度と継続して行われている。小泉凡教授の授業は平成 22 年 5 月 27 日「地域探検の魅力—松江再発見の旅—」、鹿野一厚教授の授業は 9 月 16 日「フィールドワークの行い方」、高橋純准教授の授業は 11 月 15 日「発表のあれこれ」であった。対象は、1 年生 199 名。平成 23 年 3 月 8 日に、代表の生徒による最終回発表会が松江キャンパス大講義室で行われ、全 1 年生が参加した。



▼松江キャンパス大講義室での最終回発表会（湖南中学校 1 年生）

＊出前講座

総合文化学科の小泉凡教授は、松江市内の下記の高等学校と小学校における総合的な学習の時間・社会科学習・英語活動の時間に、専門分野や総合文化学科の担当授業「小泉八雲入門」「地域文化研究」「地域探検学」の内容を生かした出前授業を行った。

- 湖南中学校 総合的な学習「地域探検の魅力—松江再発見の旅—」（平成 22 年 5 月 27 日）
- 松江市立女子高等学校 国際文化観光科「五感でとらえた明治の松江～小泉八雲の世界～講義および現地研修」（平成 22 年 7 月 8 日）
- 津田小学校 社会科学習「小泉八雲と松江」（平成 22 年 10 月 12 日）
- 内中原小学校 英語活動「ラフカディオ・ハーンとアイルランド」（平成 23 年 2 月 4 日）
- 乃木小学校 総合的な学習「小泉八雲のみた松江と日本」（平成 23 年 2 月 8 日）



▼小泉凡教授【乃木小学校での授業風景】

### 【教育課程のための地域の施設・機関との連携強化】

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

#### 《健康栄養学科の実習施設・機関との連携》

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成22年度に実施した県内施設を下表に示した。下記の施設は、長年にわたっての実習受け入れ施設であり、卒業生が管理栄養士として勤務している。本学非常勤講師、学び直し支援講座、島根県栄養士会研修会、食育活動等を通して連携強化を図る一方で、実習終了後は、評価票の提出を求め、また、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付した。

平成22年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	実習期間（巡回指導日程）
島根	松江赤十字病院	4	①8/23～8/27
			②9/13～9/17
	松江市立病院	2	9/13～9/17
	独立行政法人国立病院機構 松江医療センター	3	8/23～8/27
	松江記念病院	4	①8/23～8/27
			②9/6～9/10
	介護老人保健施設 もちだの郷	2	9/6～9/10
	松江市立北学校給食センター	2	9/13～9/17
	松江市立南学校給食センター	3	9/13～9/17
	島根県立中央病院	2	8/30～9/3
	出雲市立学校給食センター	3	9/13～9/17
	斐川町立学校給食共同調理場	1	9/13～9/17
	安来市立病院	2	8/23～8/27
	安来市立荒島小学校	1	9/13～9/17
	公立雲南総合病院	1	9/6～9/10
大田市立病院	1	8/23～8/27	
医療法人 仁寿会 加藤病院	1	8/30～9/3	
鳥取	社会福祉法人 敬仁会 ル・ソラリオン名和	1	8/23～8/27
	倉吉学校給食センター	1	9/6～9/10
広島	JA 広島厚生連 広島総合病院	1	8/23～8/27
	庄原赤十字病院	1	9/13～9/17
岡山	川崎医科大学附属病院	1	8/23～8/27
徳島	医療法人 養生園 田岡東病院	1	8/23～8/27

《保育学科の実習施設・機関との連携》

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第1209001号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成22年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	松江市立末次保育所、しらとり保育所、嵩見保育所、松江市立城東保育所、松江市立白潟保育所、松江ナザレン保育所、みどり保育所、袖師保育所、つわぶき保育所、松江保育所、虹の子保育園、松尾保育所、愛恵保育園、しらゆり保育園、古志原保育所、松江市立二葉保育所、湯町保育園、松江市立美保関西保育所、こばと保育園、本庄保育所、みずうみ保育園、みつき田和山保育園、みのり保育園、乃木保育所、運動公園前保育所チャイルド	1年前期・保育実習Ⅰ (保育所) 2年前期・保育実習Ⅱ
	島根県東出雲町	東出雲町立出雲郷保育園、東出雲町立意東保育園	
	島根県出雲市	出雲乳児保育所、おおつか保育園、出雲市立須佐保育所、あすなろ第2保育園、おおつ保育園、きんろう保育園、たいしゃ保育園、ねむの木保育園、なかの保育園、平田保育所、ハマナス保育園	
	島根県斐川町	斐川町立直江保育所、斐川町立伊波野保育所、	
	島根県雲南市	雲南市立大東保育園	
	島根県安来市	安来市立安来保育所、安来保育園	
	島根県大田市	あゆみ保育園	
	島根県江津市	江津市立和木保育所、のぞみ保育園	
	島根県益田市	常盤乳児園	
	鳥取県境港市	境港市立上道保育所	
	鳥取県米子市	五千石保育園、福米保育園、キッズタウン24かみごとう、キッズタウン第2保育園、	
	鳥取県東伯郡	三朝町立賀茂保育園、琴浦町立劬保育園	
	山口県長門市	みすゞ保育園、長門市立菱海保育園	
	岡山県津山市	津山教会付属田町保育園	
兵庫県豊岡市	豊岡市立城南保育園		
兵庫県朝来市	糸井認定こども園寺内保育所		

児童館・児童クラブ	島根県松江市	松江市立東津田児童館、松江市立八雲児童センター、竹矢児童クラブ、乃木児童クラブ、乃木第2児童クラブ、乃木第3児童クラブ、やくも児童クラブ、大庭地区児童クラブ、古志原地区児童クラブ、津田第2児童クラブ、城西地区児童クラブ、川津第2児童クラブ	1年後期・保育実習Ⅲ
児童福祉施設等	島根県松江市 島根県出雲市 島根県安来市 島根県浜田市 島根県隠岐郡 鳥取県米子市	松江赤十字乳児院、島根東光学園、双樹学院、松江学園、松江整肢学園、国立病院機構松江医療センター、島根県立わかたけ学園、しのめ寮 さざなみ学園 安来学園 聖煌寮、こくぶ学園 仁万の里児童部 米子聖園天使園	2年前期・保育実習Ⅰ(施設)
介護福祉施設等	島根県松江市	長命園、生協ふれあいデイサービス、生協ヘルパーステーション、ふれあいヘルパーステーション、津田の里、津田通所介護センター、津田訪問介護センター	2年後期・訪問介護員実習
幼稚園	島根県松江市 島根県東出雲町 島根県出雲市 島根県雲南市 島根県奥出雲町 島根県大田市 島根県江津市 島根県浜田市 島根県益田市 鳥取県米子市 鳥取県倉吉市 鳥取県東伯郡 岡山県津山市 兵庫県朝来市	松江市立川津幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立幼保園のぎ、松江市立松江市立八雲幼稚園、松江市立母衣幼稚園、松江市立朝酌幼稚園、松江市立生馬幼稚園、松江市立中央幼稚園、松江市立本庄幼稚園、松江市立玉湯幼稚園、松徳幼稚園 東出雲町立意東幼稚園 出雲市立平田幼稚園、出雲市立中央幼稚園、出雲市立塩冶幼稚園、出雲市立大津幼稚園、出雲市立長浜幼稚園、出雲市立乙立幼稚園、出雲市立朝山幼稚園、出雲市立遙堪幼稚園、出雲市立湖陵幼稚園 雲南市立西幼稚園、雲南市立阿用幼稚園 奥出雲町立八川幼稚園 大田市立大田幼稚園 江津市立江津幼稚園、江津市立津宮幼稚園 浜田市立長浜幼稚園 益田幼稚園、高津幼稚園 良善幼稚園、かいけ幼稚園、あけぼの幼稚園 倉吉幼稚園 琴浦町立八橋幼稚園 津山市立西幼稚園 朝来市立寺内幼稚園	2年前期・後期・教育実習

	兵庫県豊岡市 山口県長門市 新潟県佐渡市	豊岡市立八条幼稚園 あおい幼稚園、深川幼稚園 佐渡市立あいかわ幼稚園	
--	----------------------------	--	--

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

「保育実習Ⅲ」と「訪問介護員実習」については、実習施設を保育学科が選定して実習指導委員会を設けている。実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。平成22年度に保育学科が連携して実習を実施した実習施設・機関は上の表のとおりであった。

#### □学生の自主的なボランティア活動□

平成22年度より、島根県立大学「学生地域ボランティア活動推進事業」の一環として、学生のボランティア保険加入を支援した。今年度の学生のボランティア保険加入は、125名であった。とりまとめと次年度に向けての「学生ボランティアのしおりー *Volunteer Spirit!*ー」を作成した。

平成22年度学生の活動先は、以下のとおりであった。

ー平成22年度記録簿「ボランティア・ポケット」、受付教員の記録、ボランティア先からの報告よりー

#### ●障害者・高齢者支援ボランティア

「島根県立厚生センター・特定養護老人ホーム八雲寮」「鳥取県 NPO 法人たんぼぼ事業所」

#### ●障害児支援ボランティア

「松江市立母衣幼稚園・幼児教室」「出雲市発達支援ボランティア（NPO 法人療育センター 燦々）」「島根県自閉症協会療育キャンプ」「島根県東部医療福祉センター夏祭りボランティア」「社会福祉法人四つ葉園」

#### ●島根県教育委員会学生支援員

「東出雲町立揖屋幼稚園・学生支援員」

#### ●島根県立青少年自然の家（サンレイク）ボランティア

「にこにこファミリーボランティア」「キッズチャレンジ夏」「キッズチャレンジ冬」「あつまれ！げんキッズ」「サンレイク楽校」

#### ●松江市役所ボランティア

「松江市環境フェスティバル」

#### ●松江市立幼保園のぎボランティア

「のぎっこまつり」「運動会・園児援助」ボランティア

- 松江市立湖南中学校ボランティア  
「サタデースクール」学習支援
- 保育所・幼稚園・学童保育ボランティア実習（個人）  
兵庫県佐用郡「佐用町立三日月保育園」「佐用町役場子育て支援センター」  
京都府福知山市「土師保育園」「福知山保育所」「聖テレジア幼稚園」「さくら保育園」  
鳥取県鳥取市「美保保育所」「めぐみ保育園」「鳥取市立西郷保育園」  
鳥取県境港市「美哉幼稚園」「上道保育所」「余子保育所」  
鳥取県米子市「春日保育園」「尚徳小学校学童保育」  
広島県世羅郡「こうざん保育所」  
山口県山口市「三の宮保育園」  
島根県隠岐郡「隠岐共生学園第2保育所」「西ノ島町立みた保育園」  
島根県松江市「わかたけ保育園」「みどり保育所」「虹の子保育園」「宍道わんぱく園」「ふたば保育所」「こぼと保育所」  
島根県雲南市「三刀屋保育所」「木次保育所」  
島根県簸川郡「出東保育園」  
島根県仁多郡「横田保育所」  
島根県出雲市「神門第Ⅱ保育園」「神門幼稚園」「窪田保育所」「出雲乳児保育所」  
島根県浜田市「ちどり第2保育所」

この事業の説明と記録簿の照会、保険加入の説明、平成22年度の地域ボランティア活動先、参加した学生の体験記をとりまとめて、「学生ボランティアのしおり」を作成した。平成23年度以降の、学生の活発な地域活動支援に役立てたい。



出張講座(高大連携)の状況(大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合)

期日	曜日	時間	テーマ (会場)	回数	担当者	相手先	参加者数
7月8日	(木)	9:00~12:50	五感でとらえた明治の松江~小泉八雲の世界~ 講義および現地研修	1	小泉 凡 (総合文化学科教授)	松江市立女子高等学校	22
8月4日	(水)	13:30~14:30	英語で楽しむ『クマのプーさん』	1	竹森徹士 (総合文化学科准教授)	兵庫県立村岡高等学校	16
9月21日	(火)	13:30~15:30	おいしい米・ご飯を求めて	1	奥野元子 (健康栄養学科教授)	島根県立大社高等学校	24
10月21日	(木)	13.30~15:30	音声学入門~日本語のアクセントを中心に~	1	高橋純 (総合文化学科准教授)	島根県立大田高等学校	17
10月27日	(水)	15:30~16:00	模擬授業「心理学入門」	1	山下由紀恵 (保育学科教授)	松江市立女子高等学校	106

## 出雲キャンパス

平成22年度 公立大学法人島根県立大学  
地域連携推進センター出雲キャンパス運営会議 名簿

職名	氏名	備考
教授	石橋 照子	・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携コーディネーター (担当:リカレント講座に関する事)
教授	平野 文子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (担当:地域振興・地域交流に関する事)
准教授	落合 のり子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (担当:受託/共同研究に関する事)
講師	高橋恵美子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (担当:学生による地域貢献活動に関する事)
講師	別所 史恵	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (担当:地域文化貢献活動に関する事)
助教	小田美紀子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター (担当:学生による地域貢献活動に関する事)
助教	石橋 鮎美	・地域連携推進委員会委員
主幹	上代 勇夫	・地域連携推進委員会委員
主任	阪本 功	・地域連携コーディネーター (担当:大学の設備・施設の活用および視察/見学等に関する事)



## 地域連携推進センター出雲キャンパス事業概要

地域連携推進センター副センター長 石橋照子

出雲キャンパスでは、中期計画に従って地域貢献を推進してきた。主な活動について、所掌事項に沿って報告します。

### I 活動の概要

#### 1) 地域貢献に関すること

##### (1) 地域からの要望・相談対応窓口に関すること

地域との連携活動をより円滑にすすめるため、昨年度に引き続き地域連携推進委員が地域連携コーディネーターとして地域からの相談窓口を担当するようにし、HP上に掲載した。また、22年度においても出前講座内容に関して学内教員からテーマを募集し、HP上に掲載し、促進を図った。窓口担当者によるコーディネート件数と内容は、高校からの講義依頼が5件あり、講師派遣に関する調整を行った。また、施設の活用・見学相談は多数あり対応した。平成23年度に向けて地域貢献登録カードを活用し、講師派遣が可能な出前講座をHPで一覧にできるようにした。

##### ① 地域文化貢献活動に関すること

目的：地域の学習ニーズに対応し、地域文化の発展に貢献する。

概要：セミナー・フォーラム・研修会等の講師派遣の相談に応じる。

担当：別所史恵

##### ② リカレント講座に関すること

目的：看護者の継続教育および生涯学習の企画・実施により看護実践の向上に貢献する。

概要：セミナー・フォーラム・研修会等の講師派遣や看護研究指導の相談に応じる。

担当：石橋照子

##### ③ 受託／共同研究に関すること

目的：研究開発プロジェクトへの積極的参画と研究成果等の社会に還元し情報発信を行う。

概要：受託研究・共同研究の相談に応じる。

担当：落合のり子

##### ④ 地域振興・地域交流に関すること

目的：民間企業・行政機関との連携による地域振興・地域交流を図る。

概要：地域活性化に向けた受託事業、共同事業の相談に応じる。

担当：平野文子

⑤学生による地域貢献活動に関すること

目的：①学生の地域活動への関心を高め、人間的成長を図る，②地域と大学の連携を強化する

概要：ボランティア活動や研修への学生参加について相談に応じる。

担当：高橋恵美子，小田美紀子

⑥大学の設備・施設の活用および視察／見学等に関すること

目的：①地域活動に施設や設備の貸出し，地域貢献を図る，②本学の魅力や特徴を紹介する

概要：施設・備品等貸出施設見学，体験学習等の相談に応じる。

担当：阪本功

(2)センターの広報活動に関すること

ホームページにおいて取り組みの紹介を行うと共に，実践した内容を随時掲載し広報に努めた。また，教員一覧の頁の充実を図った。

(3)公開講座等の生涯学習の実施に関すること

本学が持っている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に開放することにより、看護に関する知識・技術および一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供することを目的に，今年度は，公開講座5講座，リカレント講座2講座，3キャンパス合同講座1講座，出雲市との連携講座3講座，島根県看護協会との連携講座1講座を開講した（Ⅱ 活動の実績 1. 公開講座・高大連携・キャンパス連携講座の項参照）。



(4)産公学連携に関すること

①受託・共同研究／事業等の広報，コーディネート：HPでこれまでの受託研究実績を含む教員の研究実績，産学官連携の実績等を公開し，受託研究・共同研究等相談窓口を設

置し、それぞれ担当者を置き、受け入れ態勢を整えた。受託研究等における取り扱い要領に則り、1件の受託研究手続きを進めた。

②出雲市との連携協定に基づく事業について：家庭教育支援者を養成するカリキュラムについて出雲市と共同事業を計画した。予算を確保し、松江キャンパス教員と連携して研究的な取組による講座は全9回で、受講者数は延べ130名であった。また、「家庭教育支援サポーター養成講座」の連携事業を実施した。

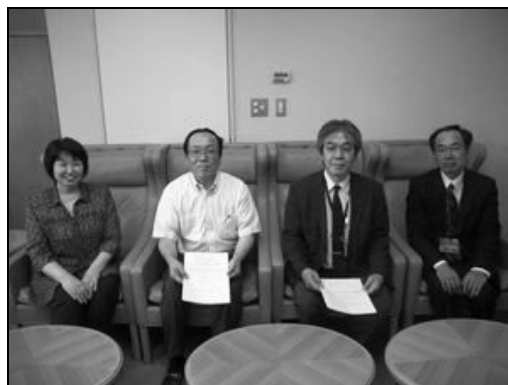
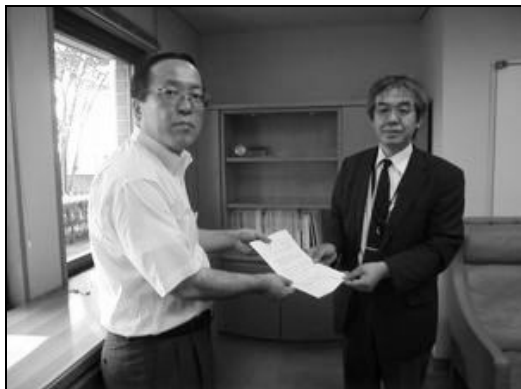
③「出雲産業フェア 2010」への出展企画・広報により委託・共同研究／事業等の促進：地域活性化に対する支援として平成22年11月6日・7日、出雲ドームにおいて開催された「出雲産業フェア 2010」に3つの教育・研究事業について出展を行った(①eポートフォリオシステムを活用した自己教育力の育成、②長時間尿動態測定器「ゆりりん」を用いた排泄支援、③地域の"つながり"をサポートする「地域連携ステーション」)。本学での取組をPRする機会となった。今後も、NPO法人などから協力要請があった場合は、内容を検討し、具体的活動としていく。



④島根県病院局との連携：平成23年1月6日に島根県病院局と看護連携型ユニフィケーション事業に関する基本協定を締結しました。島根県病院局と協働で看護の実践・教育・研究面で連携して、看護ケアや看護教育の質の向上を図るとともに、臨床に根ざした看護共同研究を発展させ、両者の機能の一層の向上を目指していきます。



⑤今井書店株式会社との連携:平成 22 年 5 月 26 日に今井書店株式会社と学生のボランティア活動についての覚書を締結しました。本学と今井書店が連携・協力して、本キャンパス学生の地域活動や社会貢献活動に対して、支援を行うものです。本取組により学生の図書購入機会の増加も図りたいと考えています。



#### (5) その他地域との連携推進に関すること

①出雲キャンパスモニター制度の実施:本キャンパスと地域の連携を深め、地域住民の方の意見を本キャンパスの今後の運営や事業に活用・反映させ、地域に開かれたキャンパスをめざすことを目的として、川跡・高浜・鳶巣地区より 10 名のモニターを選出し、5 月 31 日に説明会および意見交換会をもった。また、平成 23 年 1 月 12 日には、報告会を開催し意見交換を行った(Ⅱ.活動の実績 2. 地域交流活動 1) 出雲キャンパスモニターに関する取り組みの項参照)。



②学生ボランティアマイレージ制度:本キャンパス学生として地域貢献のためボランティア活動に積極的に取り組む学生を顕彰し、ボランティア活動を促進することにより本学が志向する自立的な人間としての成長を促すとともに、大学と地域との連携を深めることを目的とし、出雲キャンパス学生ボランティアマイレージ制度を施行した。5 月 26 日に制度説明とボランティアについて考える研修会を行った。平成 23 年 1 月 19 日には、学生ボランティアマイレージ報告会を開催し、学生による報告と、5 つのボランティア

団体から学生にして欲しいボランティア企画のプレゼンテーションを実施した(Ⅱ.活動の実績 2. 地域交流活動 2) 学生ボランティアマイレージに関する取り組みの項参照)。



③ぎんざんテレビ出前講座:平成 22 年 2 月 5 日に石見銀山テレビ放送株式会社と覚え書きを交わし、以後収録作業を重ねる一方、4 月から放送が開始された。公開講座に出向きたくてもなかなか出向くことが困難な方を対象にケーブルを通して地域貢献する目的で開始された。今年度 27 講座収録した。今後は松江キャンパスや浜田キャンパスとも連携しながら継続していく予定である(Ⅱ.活動の実績 2. 地域交流活動 3) ぎんざんテレビ出前講座に関する取り組みの項参照)。



## 2) 高大連携に関すること

高大連携に関しては県内の高校 10 校に対して高大連携講座 15 講座, 専門学校との連携講座 2 講座開催し, 本学が持っている専門的, 総合的な教育・研究機能を高校に出向いて講義を行った(Ⅱ. 活動の実績 1. 公開講座・高大連携・キャンパス連携講座の項参照)。

## 3) 学長が諮問したこと及び教授会が付託したことにすること

出雲キャンパスモニター制度の拡充: 近隣地区の住民だけでなく, 本キャンパスの卒業生からもモニターを募集し, 本キャンパスとの連携を深め, 卒業生の意見も本キャンパスの今後の運営や事業に活用・反映させることをめざして, 本制度を改正した。これにより次年度より地域との交流の他, 島根県内在住の卒業生との交流を推進していく計画にしている。

#### 4) 今後の課題

- (1) 地域からの要望・相談対応窓口について、一般市民や医療施設にあまり知られていない問題がある。次年度より「地域貢献登録カード」の活用により、「一般市民向け」「専門職向け」「高校生向け」に【出前講座一覧】を充実させ、積極的にコーディネートしていく。
- (2) 平成 23 年度は、島根県立大学憲章に定める「地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する」大学となることをめざして、地域に貢献する学生活動の支援充実を図るため、「学生ボランティアマイレージ事業」を重点項目として取り組む。

## II 活動の実績

### 1. 公開講座・リカレント講座・連携講座・キャンパス合同講座・高大連携講座

#### 1) 公開講座・リカレント講座・高大連携講座の基本的な考え方

公開講座：本学が持っている専門的，総合的な教育・研究機能を広く社会に開放することにより，看護に関する知識・技術および一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

リカレント講座：看護に関する最新の知識や技術を修得する機会を提供し，仕事や社会活動に活用する能力を養うために，看護専門職者等を対象とした講座を開く。

高大連携講座：高校教育と大学教育の円滑な接続を目指し，本学が持っている専門的，総合的な教育・研究機能を高校に出向いて講義を行う。このことにより，本学の魅力を高校生に伝えると共に，高校生や高校側の受験ニーズを把握する。

#### 2) 平成 22 年度公開講座実施要領

- \* メインテーマ：「にんげん大好き 一まめに暮らしていくために」
- \* 講座内容：看護に関するもの，一般教養など
- \* 受講対象：一般，看護職者，高校生
- \* 開催回数：1 回または複数回
- \* 開催時期：平成 22 年 6 月～11 月
- \* 開催場所：本学，その他県内，高校
- \* 開催場所：本学の場合は 9:00－21:00 とする。但し，学外の場合は当該施設と相談すること。
- \* 開催方法：
  - ① 原則として担当教員が運営するが，求めに応じて地域連携推進委員会（事務局）が支援する。
  - ② 助手も協力者として企画に参加できる。
  - ③ 公開講座の参加申し込みの受付は事務局が行う。応募を受け付けられない事態については担当教員が申込者に通知する。高大連携講座については担当教員が高校担当者と連絡をとり行う。
  - ④ 高大連携講座は地域連携推進委員会とアドミッション運営会議が連携して行う。広報は地域連携推進委員会が担当し，高校との交渉はアドミッション運営会議が担当する。
  - ⑤ 客員教授にも公開講座に参加していただくこともある。
  - ⑥ 修了証書は講座の担当教員が発行の有無を決定し，準備する。
  - ⑦ 手話通訳・託児の希望者の受け入れは担当教員の判断により決定し，手配は担当教員が行う。
  - ⑧ 担当教員は，「受講者入館証」を事前に管理課から受け取っておき，当日受付で受講者に配布する。

### 3) 公開講座実施概要

#### 第1講座 「人を育て自らも育つフォーラム」

開催日時 11月3日(水) 13:00~16:30  
場 所 出雲キャンパス 大講義室  
演 題 「教育の立場から」  
講 師 寺崎昌男氏(立教学院本部調査役, 東京大学名誉教授, 桜美林大学名誉教授)  
演 題 「看護教育の立場から」  
講 師 舟島なをみ氏(千葉大学看護学部教授, 千葉大学普遍教育センター長)  
シンポジウム 「島根県立大学短期大学部出雲キャンパスからの提案」  
担 当 吾郷美奈恵・石橋照子・梶谷みゆき・三島三代子  
受 講 者 227名

#### 第2講座 「アロマで心と身体のリフレッシュ Part.5」

開催日時 第1回 9月7日 14:00~16:00  
第2回 9月14日 14:00~16:00  
場 所 出雲キャンパス 215 実習室  
演 題 第1回「精油を使った小物作りにチャレンジ」  
第2回「アロマオイルを使用したマッサージにチャレンジ」  
講 師 松本亥智江  
受 講 者 第1回: 12名 第2回: 10名

#### 第3講座 「豊かな食のあり方・育て方」

開催日時 9月25日 9:00~12:00  
場 所 西郷公民館(隠岐島町)  
演 題 「食と生活習慣病」 講 師 吾郷美奈恵  
「食と身体の関係」 講 師 梶谷みゆき  
「食と心の関係」 講 師 石橋照子  
受 講 者 17名

#### 第4講座 「楽しく運動を続けるためにPART2ー健康と運動について」

開催日時 7月17日 10:00~12:00  
7月31日 10:00~12:00  
8月14日 10:00~12:00  
場 所 社会福祉法人ふあっと地域交流ホールつどい(出雲市)  
講 師 伊藤智子, 加藤真紀  
受 講 者 13名



#### 第5講座 「高齢者のいきいき健康作り」

開催日時 ①8月26日 10:00～11:30  
②9月2日 13:00～14:30  
場 所 ①北浜コミュニティーセンター（出雲市）  
②鳶巣コミュニティーセンター（出雲市）  
講 師 山下一也，松本玄智江，田原和美，祝原あゆみ  
受講者 ①26名 ②14名

#### 4) リカレント講座概要

##### 第1講座 「看護者が元気になるための秘策」

開催日時 9月26日 9:00～12:00  
場 所 隠岐の島町役場ふれあいセンター  
講 師 吾郷美奈恵，石橋照子  
受講者 保健師・看護師 21名

##### 第2講座 英文で読む「愛はあなたの手の中に」

開催日時 6月8日 13:10～14:40  
場 所 出雲キャンパス・208講義室  
講 師 田中芳文  
受講者 看護学生や看護師 17名

#### 5) 連携講座概要

##### 【島根県看護協会との連携講座】

##### 第1講座 「臨床看護研究計画立案」

開催日時 ①8月26日 10:00～16:00  
②8月27日 10:00～16:00  
③9月16日 10:00～16:00  
④9月17日 10:00～16:00  
場 所 出雲キャンパス・201講義室他  
講 師 吾郷美奈恵・石橋照子・梶谷みゆき・三島三代子・高橋恵美子  
受講者 ①48名 ②48名 ③48名 46名

##### 【出雲科学アカデミーとの連携講座】

##### 第1講座 子育て「すこやか子育て」

開催日時 第1回 8月20日 13:30～15:00  
第2回 9月3日 13:30～15:00  
演 題 第1回「乳児期の親子のコミュニケーションについて」  
第2回「子どもが病気になったとき～子どもによくみられる症状の看護～」

場 所 出雲科学館  
講 師 第1回 長島玲子 井上千晶  
第2回 高橋恵美子 渡部真紀  
受 講 者 第1回：10組 第2回：5名

第2講座 医療支援「模擬患者養成講座」

開催日時 第1回 6月25日 17:00～18:30  
第2回 7月23日 17:00～18:30  
第3回 8月27日 17:00～18:30  
第4回 9月17日 17:00～18:30  
第5回 10月22日 17:00～18:30  
演 題 第1回「模擬患者とは～看護師教育における模擬患者の意義～」  
第2回「コミュニケーションの基本～聞くこと・伝えること～」  
第3回「模擬患者に必要なこと～シナリオと役作り～」  
第4回「模擬患者体験」  
第5回「模擬患者に必要なこと～感想の伝え方～」  
場 所 出雲キャンパス・215 実習室  
講 師 松本亥智江, 吉川洋子, 山下一也, 田原和美  
受 講 者 第1回：8名 第2回：6名 第3回:4名 第5回：5名 第6回：5名

第3講座 「生活習慣病と予防法」

開催日時 第1回 9月2日 15:00～16:30  
第2回 9月9日 15:00～16:30  
第3回 9月16日 15:00～16:30  
演 題 第1回「心臓病」  
第2回「がん」  
第3回「糖尿病」  
場 所 出雲科学館  
講 師 第1回 三島三代子  
第2回 平野文子  
第3回 別所史恵  
受 講 者 第1回：18名 第2回：25名 第3回：26名

6) 3キャンパス合同講座

開催日時 8月28日  
場 所 浜田キャンパス・研究棟 中講義室5  
演 題 ①もっと素敵にコミュニケーション  
②聞き上手を目指したコミュニケーション

③日本語なのに、なぜ伝わらない  
講 師 ①落合のり子（出雲キャンパス）  
②川中淳子（浜田キャンパス）  
③高橋 純（松江キャンパス）  
参 加 者 40名

## 7) 高大連携講座概要

### 第1回

開催日時 6月16日 13:00～16:00  
場 所 出雲キャンパス・大講義室  
演 題 「夢・実現フォーラム」  
総合司会：梶谷みゆき  
第1部 教育講演「キャリアデザインについて」  
講師 吾郷美奈恵  
第2部 特別講演「夢の実現について」  
講師 植松 努（KKカムイシペースワークス代表取締役）  
第3部 パネルディスカッション  
コーディネーター 石橋照子・三島三代子  
パネリスト 小森恵子（松江赤十字病院副院長・看護部長）  
徳島敏枝（訪問看護ステーション愛所長）  
荊尾玲子（三沢小学校教頭）  
参 加 者 138名

### 第2回

開催日時 7月21日 13:30～15:00  
場 所 松江市立女子高等学校  
演 題 「看護の道具箱 コミュニケーション」  
講 師 吉川洋子  
参 加 者 生徒：28名，教員：2名

### 第3回

開催日時 7月29日 13:30～14:30  
場 所 島根県立平田高等学校  
演 題 コミュニケーション力を磨く  
講 師 吉川洋子  
参 加 者 生徒：21名，教員：3名

#### 第4回

開催日時 8月3日 12:45～14:00  
場 所 島根県立横田高等学校  
演 題 がん患者の看護 がんと共に生きる  
講 師 平野文子  
参加者 生徒：8名，教員：1名

#### 第5回

開催日時 9月6日 17:00～18:20  
場 所 島根県立三刀屋高等学校  
演 題 看護の“技”基礎講座「身体を動かす技」  
講 師 松本亥智江  
参加者 生徒：28名，教員：1名

#### 第6回

開催日時 9月14日 17:30～18:30  
場 所 島根県立三刀屋高等学校  
演 題 小さな町の暮らしに根づく看護学  
講 師 伊藤智子  
参加者 生徒：25名，教員：1名

#### 第7回

開催日時 9月21日 13:30～15:00  
場 所 島根県立大社高等学校  
演 題 看護職と保健指導 食物のおいしさと健康作り  
講 師 吾郷美奈恵  
参加者 生徒：34名，教員：1名

#### 第8回

開催日時 9月24日 13:30～15:30  
場 所 島根県立横田高等学校  
演 題 地元の良さを見つけよう  
講 師 齋藤茂子  
参加者 生徒：28名，教員：1名

#### 第9回

開催日時 9月25日 13:00～14:30  
場 所 島根県立大社高等学校  
演 題 看護と心理学

講 師 橋本由里  
参 加 者 生徒：43名，教員：3名

#### 第10回

開催日時 9月29日 15:00～16:30  
場 所 島根県立島根中央高等学校  
演 題 訪問看護の仕事の魅力  
講 師 吾郷ゆかり  
参 加 者 生徒：31名，教員：3名

#### 第11回

開催日時 10月14日 14:20～16:00  
場 所 島根県立出雲高等学校  
演 題 子どもの安心を守るために プレパレーション  
講 師 高橋恵美子  
参 加 者 生徒：40名，教員：1名

#### 第12回

開催日時 10月19日 13:55～15:15  
場 所 島根県立江津高等学校  
演 題 看護ケアに役立つリラクゼーション技法  
講 師 石橋照子  
参 加 者 生徒：26名，教員：4名

#### 第13回

開催日時 10月19日 15:00～16:00  
場 所 島根県立浜田高等学校  
演 題 新生児の不思議  
講 師 狩野鈴子  
参 加 者 生徒446名，教職員：45名

#### 第14回

開催日時 10月21日 14:30～16:20  
場 所 島根県立大田高等学校  
演 題 糖尿病 もしも自分が糖尿病になったら  
講 師 別所史恵  
参 加 者 生徒：38名

## 第 15 回

開催日時	10 月 28 日 14:30～16:00
場 所	島根県立横田高等学校
演 題	認知症患者の理解とケア
講 師	梶谷みゆき
参加者	生徒：15 名

## 8) 専門学校との連携講座

### 第 1 回

開催日時	7 月 16 日
場 所	浜田医療センター附属高等看護学校
演 題	看護学生の将来をみつめて
講 師	三島みどり，山下一也，田中芳文
参加者	学生：112 名，教職員

### 第 2 回

開催日時	7 月 22 日
場 所	島根県立石見高等看護学校
演 題	看護学生の将来をみつめて
講 師	三島みどり，山下一也，田中芳文
参加者	学生：109 名，教職員

## 9) 今後の課題

今年度は、出雲市や看護職能団体、キャンパス間などの連携をとり講座数を増やしたことから、受講者数 713 名（昨年比 215.7%）に増えている。高大連携も当初予定では 10 講座であったが途中の依頼があり 15 講座実施し 1,015 名（昨年比 453.1%）と増えた。一方で、1 回の受講者は募集人数を下回っている講座が多い。また、担当する教員の負担やコーディネートする担当者の負担も増えてきている。そうしたことに配慮しつつ、①引き続き広報に力を入れること、②講座メニューの見直しを図ること、③本学以外の開講など受講機会を増やすことなどに取り組んでいく必要がある。

## 2. 地域交流事業

### 1) 出雲キャンパスモニター制度の取り組み

本キャンパスと地域の連携を深め、地域住民の方の意見を本キャンパスの今後の運営や事業に活用・反映させ、地域に開かれたキャンパスをめざすことを目的として、本制度が昨年度企画され募集した。これによりキャンパスモニターを 10 名募集し、5 月に委任状を交付し、年間を通して学内のイベントに関する案内を行い地域との交流を推進した。1 月には報告会を実施し、モニターからの意見や要望を聞く機会を設けた。モニターからは、4 年制大学への移行に

向けて、県内就職率の向上への期待、今後の地域との連携や役割についてなど多くの意見があった。今後の課題として、大学祭の開催時期、学生のマナー教育の充実、地域貢献活動における PR 方法、学生の安全・防犯対策の充実などがあった。いずれにしても、地域と大学が今後も協力し、よい学生を育ててともにまちづくりを行っていききたいという双方の意思を再確認した。来年度は、卒業生・修業生モニターも募集し、大学運営に反映させていくようにする予定である。

## 2) 学生ボランティアマイレージに関する取り組み

### (1) 学生ボランティア研修会

日時：平成 22 年 5 月 26 日（水）13:10～14:30

場所：出雲キャンパス 大講義室

内容：①ボランティア講演会

演題：「大学生活をより実りあるものとするために」

講師： 田中玄洋氏 （NPO 法人学生人材バンク代表理事）

②ボランティアマイレージ制度説明

参加者：学生・教職員・一般 合計 49 名

### (2) ボランティアマイレージ制度報告会・ボランティア企画コンテスト

日時：平成 23 年 1 月 19 日（水） 13:30～15:00

場所：出雲キャンパス 201 講義室

内容：①ボランティアマイレージ制度実績報告

②ボランティア企画コンテスト

- ・ 島根県立青少年の家（サンレイク）
- ・ 難病相談支援センター・松江保健所
- ・ 出雲市総合ボランティアセンター
- ・ 国立三瓶青少年交流の家
- ・ いずもサマースクール

③学生ボランティア活動報告

- ・ 看護学科 2 年 てんしんはん （がん予防啓発グループ）
- ・ 看護学科 2 年 チャーハン （子どもに関するボランティアグループ）

参加者：学生・教職員・モニター 合計 54 名

### (3) ボランティアマイレージ制度実績

登録学生数 : 20 名（看護学科 19 名，専攻科地域看護学専攻 1 名）

活動報告 : 活動報告数 27 件

表 事業内容内訳

事業内容内訳	件数
スポーツ教室・イベント	4件
小学生夏休み合宿	2件
障がい児キャンプ	1件
保育園夏祭り	1件
コミュニティーセンター運動会	1件
がん健診啓発活動	1件
せきそんの集い総会	1件
難病の会総会	1件
両親学級	1件
商店街イベント	1件

3) ぎんざんケーブルテレビによる出前講座

平成 22 年 2 月 5 日に石見銀山テレビ放送株式会社と覚え書きを交わし、以後収録作業を重ねる一方、4 月から放送が開始された。公開講座に出向きたくてもなかなか出向くことが困難な方を対象にケーブルを通して地域貢献する目的で開始された。今年度 27 講座収録した。今後は松江キャンパスや浜田キャンパスとも連携しながら継続していく予定である。

第 1 弾共通テーマ：「健やかに老いるために－食べること、出すこと、動くこと、楽しむこと－」

回	テーマ	担当
1	「認知症とは」	山下一也 教授
2	「高齢者の食事について」	祝原あゆみ 助教
3	「食事をもっと豊かに美味しく食べる方法」	加藤真紀 助教
4	「出すことは基本－便秘の予防法－」	吉川洋子 教授
5	「尿漏れ予防のための骨盤底筋訓練」	長島玲子 准教授 井上千晶 助教
6	「若々しい脳と身体を維持するために」	松本玄智江 准教授
7	「回想法の勧め」	伊藤智子 准教授
8	「生活を楽しむうつ予防法」	石橋照子 教授
9	「孫との遊び方－今風の子育てを支援する－」	高橋恵美子 講師
10	「高齢者に優しい生活環境を考える」	梶谷みゆき 教授



第2弾共通テーマ：「健康で生涯現役をめざして—使って，鍛えて，予防しよう—」

回	テーマ	担当
1	「おいしく食べて健康づくり」	吾郷美奈恵 教授
2	「肝機能の救世主！宍道湖しじみで健康増進」	石橋鮎美 助教
3	「高齢者の“食べたい”を支える介護予防訪問看護」	吾郷ゆかり 准教授
4	「動脈硬化を予防するために」	三島三代子 准教授
5	「増える糖尿病にご用心！」	福澤陽一郎 教授 角 公美子（大田市保健師）
6	「知って安心，インフルエンザ対策のコツ」	落合のり子 准教授
7	「生活習慣病と上手に付き合う薬の話」	坂根可奈子 助教
8	「始めよう！！ロコモーショントレーニング」	林 健司 助教
9	「プラス思考でより良い人生を歩もう」	小田美紀子 助教
10	「地域活動をとおして得るもの，支えるもの」	齋藤茂子 教授

第3弾共通テーマ：「いきいきエイジング—動いて，楽しんで，パワーアップしよう—」

回	テーマ	担当
1	「いきいきいっしょに孫育て」	狩野鈴子 准教授
2	「心の健康管理を考えよう—自殺予防の観点から—」	橋本由里 准教授
3	「おしっこに注目！—腎臓病と予防—」	別所史恵 講師
4	「床ずれを予防するために—いきいき介護—」	平井由佳 講師
5	「もっと活動範囲を広げよう —車椅子の安全な使い方—」	柴 麻由子 助手
6	「血圧の自己測定について —いきいき・元気に過ごすために—」	田原和美 助教
7	「高血圧の管理について」	山下一也 副学長

4) 今後の課題

- (1) 出雲キャンパスモニター制度について，年2回の報告会・意見交換会の他，公開講座や各種イベントの案内をした。また，FD委員会企画の公開授業参観も案内し，3名の参観があり普段の学生の授業の様子を知っていただく機会となった。平成23年度は，地域モニターに加え，卒業生・修了生からもモニターを募り，地域や専門職との交流を拡充していく予定である。
- (2) 学生ボランティアマイレージ制度について，平成23年度は，地域に貢献する学生生活の支援充実を図るため，「学生ボランティアマイレージ事業」を重点項目として取り組む。ボランティア研修会，報告会ともに3キャンパスの学生および教職員の交流ができるよう早めに日程調整を図り，開催していく。また，入学時オリエンテーションなどを活用して，学生ボランティアマイレージ制度について説明し，入会を促す。さらに，

活動報告のシステムを簡略化し、報告の煩雑さを解消する方法を検討し、ボランティア活動を促進していく。

- (3) ぎんざんテレビによる出前講座について、出雲キャンパス教員のほぼ全員が出演した。平成 23 年度も継続して実施していく。

## ■出雲市受託事業

出雲キャンパスと出雲市が共同で行っている介護予防教室事業は4年目を迎え、平成22年度においては、大社町上遙堪地区（名称：上遙堪健康クラブ）で実施した。この事業は回想法を中心に介護予防、認知症予防活動を行うことにより、介護予防の取組みの評価やスタッフの育成を目的とし、ひいては高齢者を支える地域づくりの一端を担うことを目指している。

今年度も昨年と同様、グループ回想法、ミニ講話および研修会等を実施し、さらには、過去に事業を実施した十六島地区の代表者との交流会も行った。毎回、地区の高齢者13名～14名の参加を得、市役所7名、大社高齢者あんしん支援センター1名、遙堪コミュニティセンター4名、出雲市社会福祉協議会1名、地区社会福祉協議会1名、大学8名の関係機関スタッフ関わった。

認知機能、うつ、生活機能、社会交流等の評価に僅かながら効果がみられ、また、参加者アンケートからも教室への満足度が高い結果が得られた。上遙堪健康クラブのリーダーの前向きな取組みにより、今後も継続してサロン活動が行われる予定である。

（詳細については平成22年度「上遙堪健康クラブ」報告書に掲載している。）



▼ミニ講話



▼グループ回想法

■特色GP継続事業：「健康と生活を考える健康まつり」事業

出雲キャンパスでは、平成 19 年度に文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 GP 事業)に「地域に広がる新しい看護ニーズに応える教育」が採択された。文部科学省の助成は平成 21 年度で終了したが、平成 22 年度は本キャンパス独自の取組として、「健康まつり」を大学祭の企画の一つとして位置づけ開催した。

この事業は「学生・大学と地域とのつながりを強化し、地域の人々と共に健康について考える」ことであり、特に「地域の方々と共に企画・運営することにより連携の強化を図る」、「企画を通し、地域住民の方々の健康についての意識を高める」ことを目標にしている。

「健康まつり」の企画内容は□健康チェック、□ミニ生命のメッセージ展、□学習成果発表、□健康の維持増進に向けての地域のみなさんの取組の紹介である。健康チェックでは「血圧」、「体組成」、「骨密度」、「血管年齢」などの測定と結果説明、また、教員による健康相談を行った。2 日間で約 200 名の参加があった。ミニ生命のメッセージ展では、犯罪被害者の遺品と遺族のメッセージが込められた等身大のボードを展示し、生命の大切さとその思いを繋いでいくことの大切さについて考える機会としてもらった。学習成果発表では、大学における講義や演習、実習でどのような学習をしているかについて地域の皆さまに知っていただくために、いろいろな教科でグループとして取り組んだ課題について発表し、参加者と意見交換を行った。また、健康の維持増進に向けての地域の取組の紹介では、鳶巣地区の太極拳サークル、川跡地区の銭太鼓サークルの取組をステージで発表していただいた。



健康チェック



体組成の測定と結果説明



教員による健康相談

学習成果発表



ミニ生命のメッセージ展

展示を見ての感想を書いていただきました。



健康維持増進への取組発表



## 【参 考】

島根県立大学は、21世紀をになうべき創造性豊かで実践力ある人材を育成し、教育研究を通して地域の発展に資するため、2007年4月、既存の島根県立大学（浜田）、島根県立島根女子短期大学（松江）、島根県立看護短期大学（出雲）の3つの大学を統合して開学した。

ここに島根県立大学は、従来3キャンパスがそれぞれ歴史的に蓄積してきた成果を継承し、21世紀における新たな飛翔をめざす大学の姿勢を内外に示すため、島根県立大学憲章を定めることとした。

## 島根県立大学憲章

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とする。あわせて、これまで培った学問的蓄積と学際的ネットワークを活かしながら、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりを目標とする。

### 1. 市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する

島根県立大学は、幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有し、主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる人材を養成する教育の府となることをめざす。

### 2. 現代社会の諸課題に対応した“諸科学の統合”を実践する

島根県立大学は、複雑化する現代社会の諸課題に対処するため、人間と社会に関する専門諸科学を総合的に研究する学問の府となることをめざす。

### 3. 地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する

島根県立大学は、地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって、地域に貢献する大学となることをめざす。

### 4. 北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する

島根県立大学は、今後ますます重要度を増す北東アジア地域、および世界の諸地域との教育的・学術的ネットワークの展開を通じ、国際的視野と豊かな研究蓄積を集約した北東アジアの知の拠点となることをめざす。

### 5. 自律と協同、透明性が高く機能性に優れた大学運営を行う

島根県立大学は、3キャンパスがそれぞれ学生と教職員一体となって独自性を発揮し、かつ、有機的結合を図り、たえず自己検証と改善に努めながら、情報を積極的に公開し、社会や時代の変化に即応できる大学運営を行う。

# 公立大学法人島根県立大学と浜田市との連携協力に関する協定書

## (目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と浜田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## (協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

## (協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

## (有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成20年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成19年5月18日

公立大学法人島根県立大学  
理事長

浜田市  
浜田市長

宇野重昭



宇津徹男



# 松江市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

## (目的)

第1条 この協定は、松江市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## (協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

## (協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

## (有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成21年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成19年10月30日

松江市

松江市長

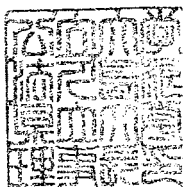
松浦正敬



公立大学法人島根県立大学

理事長

宇野重昭





## 出雲市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

### (目的)

第1条 この協定は、出雲市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

### (協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

### (協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

### (有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

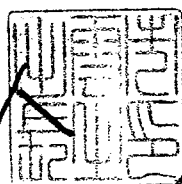
平成21年10月8日

出雲市

公立大学法人島根県立大学

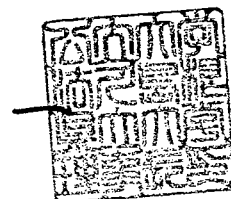
出雲市長

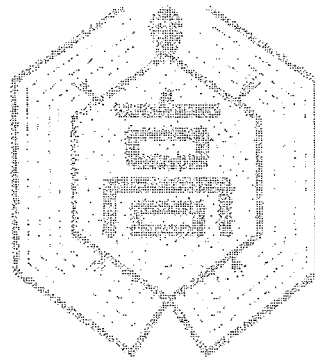
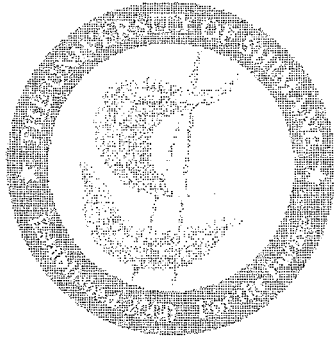
長岡秀人



理事長

本田 雄





## 島根県立大学と島根県立浜田高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、相互の教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立浜田高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立浜田高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期間を持つものとする。本協定は、有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立浜田高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成16年11月18日

島根県立大学

学 長

宇野重昭

宇 野 重 昭

島根県立浜田高等学校

校 長

三浦正樹

三 浦 正 樹

## 島根県立大学と島根県立江津高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、相互教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立江津高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立江津高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期限を持つものとする。本協定は有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立江津高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成19年6月1日

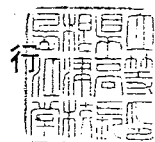
島根県立大学

学長 宇野重昭



島根県立江津高等学校

校長 尾村幸行



## 島根女子短期大学・松江商業高等学校・湖南中学校の 三者連携に関する協定書

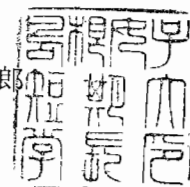
島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校の三者は、次のとおり合意する。

- 第1 島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校は、相互の教員・職員・学生・生徒が連携し、「より魅力あるキャンパスづくり」を推進することを目的とする三者連携事業を実施する。
  - 第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。
  - 第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、島根県立松江商業高等学校長及び松江市立湖南中学校長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。
- 2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成18年11月 1日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



島根県立松江商業高等学校

校 長 月 森



松江市立湖南中学校

校 長 曾 田 秀 雄



## 島根女子短期大学・乃木小学校・幼保園のぎの 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎの三者は、次のとおり合意する。

第1 島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎは、相互の教員・職員・学生・児童・園児が連携し、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目的として、三者連携事業を実施する。

第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。

第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、松江市立乃木小学校長及び松江市立幼保園のぎ園長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。

2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成19年 3月 7日

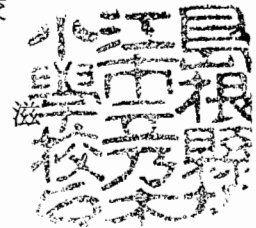
島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



松江市立乃木小学校

校 長 山 崎



松江市立幼保園のぎ

園 長 狩 野 由 美 子



## 島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）出前講座の

### 収録・放送に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と石見銀山テレビ放送株式会社（以下「乙」という。）とは、乙が島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）の出前講座の収録、放送を実施するにあたり、次のとおり覚書を締結するものとする。

#### （事業内容の分担）

第1条 事業内容の分担は以下のとおりとする。

- （1）甲に所属する職員は、出前講座の台本及び資料を作成する。
- （2）乙は甲に所属する職員が作成した台本をもとに番組を収録し放送する。
- （3）乙は番組収録に係る著作権使用許可等の必要な諸手続をすべて行う。
- （4）乙は作成した番組をDVDに出力し、甲へ受け渡す。

#### （本覚書における出前講座の定義）

第2条 本覚書における出前講座とは、甲乙協議の上で定めた主題について、甲に所属する職員が企画構成する講座とする。

#### （事業に関する経費）

第3条 事業に関する経費については以下のとおりとする。

- （1）出前講座経費 出前講座に関する経費はすべて甲が負担する。
- （2）収録放送経費 収録・放送に関する経費はすべて乙が負担する。

#### （著作権の取扱い）

第4条 作成した番組に関する著作権は甲乙が共有する。

- 2 作成した番組を甲乙が非営利目的で使用する場合は相互の許可は不要とする。

#### （協議）

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成22年2月4日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄



乙 島根県大田市大田町大田口 1089-4

石見銀山テレビ放送株式会社

代表取締役

杉谷 雅祥



## 看護連携型ユニフィケーション事業 基本協定書

島根県病院局（以下「甲」という。）と公立大学法人島根県立大学（以下「乙」という。）とは、看護連携型ユニフィケーション事業（以下「ユニフィケーション事業」という。）の実施に関し、次のとおり基本協定を締結する。

### （趣旨）

第1条 この基本協定書は、甲及び乙が協働で実施するユニフィケーション事業に関して、必要な事項を定めるものとする。

### （目的）

第2条 ユニフィケーション事業は、甲が設置運営する臨床の場である「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」と、乙が設置運営する教育の場である「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」が協働して実施することにより、看護ケアの質の向上及び看護教育の向上並びに両施設の機能を向上させることを目的とする。

### （事業の範囲）

第3条 ユニフィケーション事業の範囲は以下のとおりとする。

- 1) 看護の学習会に関すること
- 2) 患者や家族のケアに関すること
- 3) 看護教育に関すること
- 4) 看護研究に関すること

### （実施場所）

第4条 ユニフィケーション事業の実施場所は、甲が設置運営する「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」及び乙が設置運営する「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」とする。

### （協議会の設置）

第5条 ユニフィケーション事業を運営する機関として、甲及び乙の職員を構成員とする「看護連携型ユニフィケーション事業協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

### （実施要領）

第6条 ユニフィケーション事業の実施および協議会の構成、運営に係る細目等は、「実施要領」として別に定めるものとする。



(実施計画の策定)

第7条 ユニフィケーション事業の実施に当たっては、協議会においてユニフィケーション事業に係る事項を明記した「看護連携型ユニフィケーション事業実施計画」を策定し、事業実施2か月前に甲及び乙に提出し、承認を得るものとする。

(活動企画書の作成)

第8条 主担当者は、前条の実施計画に基づき、活動内容、実施場所、従事者、日時等を記載する「看護連携型ユニフィケーション活動企画書」を協議会に提出し、承認を得るものとする。

(個人情報の保護)

第9条 ユニフィケーション事業の実施に当たっての個人情報の取り扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守するものとする。

(基本協定の変更)

第10条 この基本協定書及び第6条の実施要領に関して、疑義又は定めのない事項が生じた場合は、甲乙協議して定めるものとする。

(有効期限)

第11条 この協定は、締結の日からその効力を発揮するものとし、甲又は乙が文書を持って協定の終了を通知しない限りその効力を持続するものとする。

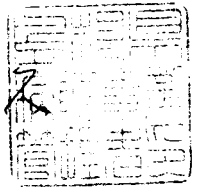
本協定の証として本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成23年1月6日

甲 島根県出雲市姫原4-1-1

島根県病院事業管理者

中川正



乙 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人島根県立大学理事長

本田雄一



お問い合わせ先

浜田キャンパス

〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2  
TEL : 0855-24-2396 FAX : 0855-24-2208  
E-mail : tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

松江キャンパス

〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2  
TEL : 0852-26-5525 FAX : 0852-21-8150  
E-mail : tiiki@matsue.u-shimane.ac.jp

出雲キャンパス

〒693-8550 島根県出雲市西林木町151  
TEL : 0853-20-0200 FAX : 0853-20-0201  
E-mail : www@izm.u-shimane.ac.jp

---

公立大学法人島根県立大学  
地域連携活動報告書

平成22年度 年報 第3号

---

編集・発行

島根県立大学地域連携推進センター  
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2  
TEL : 0855-24-2396 FAX : 0855-24-2208  
E-mail : tiiki@admin.u-shimane.ac.jp



**The University of Shimane**  
公立大学法人 島根県立大学